

データ編

財産の状況

1. 貸借対照表	141
2. 損益計算書	142
3. 基金等変動計算書	143
4. 剰余金処分に關する決議書	145
5. 保険業法に基づく債権の状況	157
6. 保険金等の支払能力の充実の状況 (ソルベンシー・マージン比率)	158
7. 有価証券等の時価情報 (会社計)	160
8. 経常利益等の明細 (基礎利益)	166

業務の状況を示す指標等

主要な業務の状況を示す指標等

1. 保有契約高及び新契約高	167
2. 年換算保険料	167
3. 商品別新契約・年度末保有契約高	168
4. 保障機能別保有契約高	170
5. 個人保険及び個人年金保険契約種類別保有契約高	171
6. 個人保険及び個人年金保険契約種類別保有契約年換算保険料	172
7. 異動状況の推移	173

保険契約に関する指標等

1. 保有契約増加率 (金額)	175
2. 個人保険平均保険金額 (新契約・保有契約)	175
3. 対年始、新契約率・解約失効率	175
4. 個人保険新契約平均保険料 (月払契約)	175
5. 個人保険死亡率 (件数率・金額率)	175
6. 個人保険及び個人年金保険特約区分別発生率 (件数率・金額率)	175
7. 事業費率 (対収入保険料)	176
8. 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の数	176
9. 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた保険会社等のうち、支払再保険料の額が大まかい上位5社に対する支払再保険料の割合	176
10. 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の格付機関による格付に基づく区分ごとの支払再保険料の割合	176
11. 未だ収受していない再保険金の額	176
12. 第三分野保険の給付事由又は保険種類の区分ごとの、発生保険金額の経過保険料に対する割合	176

経理に関する指標等

1. 支払備金明細表	177
2. 責任準備金明細表	177
3. 責任準備金残高の内訳	177
4. 個人保険及び個人年金保険の責任準備金の積立方式・積立率・残高 (契約年度別)	178
5. 特別勘定を設けた保険契約であって、保険金等の額を最低保証している保険契約に係る一般勘定の責任準備金の残高、算出方法、その計算の基礎となる係数	178
6. 社員配当準備金明細表	179
7. 引当金明細表	179
8. 特定海外債権引当勘定の状況	179
9. 保険料明細表	180
10. 保険金明細表	180
11. 年金明細表	180
12. 給付金明細表	180
13. 解約返戻金明細表	180
14. 減価償却費明細表	181
15. 事業費明細表	181
16. 税金明細表	181
17. リース取引	181
18. 借入金等残存期間別残高	181

資産運用に関する指標等

1. ポートフォリオの推移 (一般勘定)	182
2. 運用利回り (一般勘定)	182
3. 日々平均残高 (一般勘定)	182
4. 資産運用関係収益明細表 (一般勘定)	183

5. 資産運用関係費用明細表 (一般勘定)	183
6. 利息及び配当金等収入明細表 (一般勘定)	183
7. 売買目的有価証券運用損益明細表 (一般勘定)	183
8. 有価証券売却益明細表 (一般勘定)	183
9. 有価証券売却損明細表 (一般勘定)	183
10. 有価証券評価損明細表 (一般勘定)	183
11. 商品有価証券明細表 (一般勘定)	183
12. 商品有価証券売買高 (一般勘定)	183
13. 有価証券明細表 (一般勘定)	183
14. 有価証券の残存期間別残高 (一般勘定)	184
15. 保有公社債の期末残高利回り (一般勘定)	184
16. 業種別株式保有明細表 (一般勘定)	185
17. 貸付金明細表 (一般勘定)	185
18. 貸付金残存期間別残高 (一般勘定)	186
19. 国内企業向け貸付金企業規模別内訳 (一般勘定)	186
20. 貸付金業種別内訳 (一般勘定)	187
21. 貸付金使途別内訳 (一般勘定)	187
22. 貸付金地域別内訳 (一般勘定)	188
23. 貸付金担保別内訳 (一般勘定)	188
24. 有形固定資産明細表 (一般勘定)	188
25. 無形固定資産明細表 (一般勘定)	189
26. 固定資産等処分益明細表 (一般勘定)	189
27. 固定資産等処分損明細表 (一般勘定)	189
28. 賃貸用不動産等減価償却費明細表 (一般勘定)	190
29. 海外投融資の状況 (一般勘定)	190
30. 海外投融資利回り (一般勘定)	192
31. 公共関係投融資の概況 (新規引受額、貸出額) (一般勘定)	192
32. 各種ローン金利 (代表例)	192
33. その他の資産明細表 (一般勘定)	192

有価証券等の時価情報 (一般勘定)

1. 有価証券の時価情報	193
2. 金銭の信託の時価情報	194
3. デリバティブ取引の時価情報 (ハッジ会計適用分・非適用分の合算値)	195
4. 不動産 (土地・借地権) の評価額	197

特別勘定に関する指標等

1. 特別勘定資産残高の状況	198
2. 個人変額保険及び個人変額年金保険特別勘定資産の運用の経過	198
3. 個人変額保険及び個人変額年金保険の状況	198

保険会社及びその子会社等の状況

保険会社及びその子会社等の概況

1. 主要な事業の内容及び組織の構成	199
2. 子会社等に関する事項	200

保険会社及びその子会社等の主要な業務

1. 直近事業年度における事業概要	201
2. 主要な業務の状況を示す指標	201

保険会社及びその子会社等の財産の状況

1. 連結貸借対照表	202
2. 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	203
3. 連結キャッシュ・フロー計算書	204
4. 連結基金等変動計算書	205
5. 内部統制報告書	221
6. 保険業法に基づく債権の状況	223
7. 保険会社及びその子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況 (連結ソルベンシー・マージン比率)	223
8. 子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況 (ソルベンシー・マージン比率)	224
9. セグメント情報	224



財産の状況

1. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	年 度		科 目	年 度	
	2022年度末 (2023年3月31日現在)	2023年度末 (2024年3月31日現在)		2022年度末 (2023年3月31日現在)	2023年度末 (2024年3月31日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	402,472	307,632	保険契約準備金	5,916,509	5,971,022
現金	156	138	支払備金	21,523	23,334
預貯金	402,315	307,494	責任準備金	5,830,565	5,885,784
コールローン	130,000	128,000	社員配当準備金	64,420	61,903
金銭の信託	25,897	23,502	再保険借	46	41
有価証券	5,799,182	6,349,312	社債	241,935	267,260
国債	2,395,965	2,333,062	その他負債	204,041	171,364
地方債	92,958	97,504	債券貸借取引受入担保金	155,483	121,299
社債	542,134	533,321	未払法人税等	101	7,429
株式	836,501	1,033,612	未払金	6,324	4,413
外国証券	1,756,176	2,134,166	未払費用	10,580	12,123
その他の証券	175,445	217,644	前受収益	437	420
貸付金	524,193	499,793	預り金	6,592	6,611
保険約款貸付	47,088	45,991	預り保証金	13,700	14,276
一般貸付	477,104	453,802	金融派生商品	3,005	1,030
有形固定資産	247,321	255,788	金融商品等受入担保金	3,822	22
土地	149,747	149,483	リース債務	345	138
建物	89,583	101,324	資産除去債務	2,328	2,355
リース資産	928	908	仮受金	1,319	1,244
建設仮勘定	3,649	700	退職給付引当金	25,951	26,701
その他の有形固定資産	3,412	3,371	価格変動準備金	177,188	180,566
無形固定資産	26,917	24,879	繰延税金負債	—	79,748
ソフトウェア	24,148	20,962	再評価に係る繰延税金負債	14,164	14,132
リース資産	311	124	負債の部合計	6,579,836	6,710,837
その他の無形固定資産	2,456	3,792	(純資産の部)		
代理店貸	100	94	基金	12,000	12,000
再保険貸	62	85	基金償却積立金	116,000	116,000
その他資産	55,516	51,188	再評価積立金	112	112
未収金	13,940	5,838	剰余金	126,981	138,628
前払費用	4,281	3,935	損失填補準備金	3,463	3,548
未収収益	29,089	32,167	その他剰余金	123,518	135,080
預託金	1,801	1,838	基金償却準備金	7,200	9,600
先物取引差金勘定	147	—	社員配当平衡積立金	20,000	20,000
金融派生商品	1,481	0	価格変動積立金	41,000	41,000
仮払金	1,621	3,639	不動産圧縮準備金	205	204
その他の資産	3,153	3,768	別途準備金	767	767
前払年金費用	1,614	2,313	当期末処分剰余金	54,346	63,509
繰延税金資産	13,829	—	基金等合計	255,093	266,740
貸倒引当金	△ 826	△ 703	その他有価証券評価差額金	386,882	659,808
			土地再評価差額金	4,468	4,500
			評価・換算差額等合計	391,350	664,308
			純資産の部合計	646,444	931,049
資産の部合計	7,226,280	7,641,887	負債及び純資産の部合計	7,226,280	7,641,887

2. 損益計算書

(単位：百万円)

科目	年度	2023年度の事業概況	
		2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
経常収益		773,808	775,016
保険料等収入		526,037	491,480
保険料		525,871	491,362
再保険収入		166	118
資産運用収益		234,698	273,141
利息及び配当金等収入		164,768	172,157
預貯金利息		3	3
有価証券利息・配当金		136,893	143,193
貸付金利息		8,237	8,896
不動産賃貸料		19,292	19,833
その他利息配当金		343	229
金銭の信託運用益		—	1,185
売買目的有価証券運用益		348	803
有価証券売却益		54,756	66,405
有価証券償還益		11,702	2,508
為替差益		—	2,525
貸倒引当金戻入額		624	117
その他運用収益		322	321
特別勘定資産運用益		2,174	27,117
その他経常収益		13,072	10,393
年金特約取扱受入金		1,270	2,372
保険金据置受入金		3,122	3,743
支払備金戻入額		1,461	—
保険金等支払引当金戻入額		3,400	—
その他の経常収益		3,817	4,277
経常費用		741,296	725,658
保険金等支払金		504,790	465,840
保険金		131,371	105,387
年金		153,869	151,933
給付金		144,757	123,479
解約返戻金		49,579	59,480
その他返戻金		25,008	25,366
再保険料		204	191
責任準備金等繰入額		30,563	57,043
支払備金繰入額		—	1,811
責任準備金繰入額		30,549	55,218
社員配当金積立利息繰入額		13	13
資産運用費用		91,083	86,716
支払利息		4,469	4,245
金銭の信託運用損		161	—
有価証券売却損		46,169	56,613
有価証券評価損		3,608	1,089
有価証券償還損		185	137
金融派生商品費用		11,221	7,349
為替差損		8,231	—
賃貸用不動産等減価償却費		4,850	5,163
その他運用費用		12,185	12,117
事業費		90,478	92,264
その他経常費用		24,380	23,794
保険金据置支払金		3,618	3,876
税金		7,546	7,966
減価償却費		11,388	10,174
退職給付引当金繰入額		399	53
その他の経常費用		1,426	1,722
経常利益		32,512	49,357

科目	年度	2023年度の事業概況	
		2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
特別利益		393	33
固定資産等処分益		393	33
特別損失		730	8,708
固定資産等処分損		178	201
減損損失		32	657
価格変動準備金繰入額		518	3,378
100周年記念賞与等		—	4,471
税引前当期純剰余		32,175	40,682
法人税及び住民税		3,096	13,340
法人税等調整額		△ 1,793	△ 12,441
法人税等合計		1,303	898
当期純剰余		30,872	39,783

2023年度の事業概況

商品開発と販売商品

経営に関する諸活動

当社の概況および組織

財産の状況

業務の状況を示す指標等

特別勘定に関する指標等

保険会社及びその子会社等の状況

3. 基金等変動計算書

2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:百万円)

	基金等											基金等 合計
	基金	基金償却 積立金	再評価 積立金	損失 填補 準備金	剰余金						剰余金 合計	
					基金償却 準備金	社員配当 平衡 積立金	価格変動 積立金	不動産 圧縮 準備金	別途 準備金	当期 未処分 剰余金		
当期首残高	12,000	116,000	112	3,370	4,800	20,000	41,000	206	767	57,078	127,222	255,334
当期変動額												
社員配当準備金の積立										△ 30,726	△ 30,726	△ 30,726
損失填補準備金の積立				93						△ 93	—	—
基金利息の支払										△ 102	△ 102	△ 102
当期純剰余										30,872	30,872	30,872
基金償却準備金の積立					2,400					△ 2,400	—	—
不動産圧縮準備金の取崩								△ 1		1	—	—
土地再評価差額金の取崩										△ 284	△ 284	△ 284
基金等以外の項目の 当期変動額(純額)												
当期変動額合計	—	—	—	93	2,400	—	—	△ 1	—	△ 2,732	△ 240	△ 240
当期末残高	12,000	116,000	112	3,463	7,200	20,000	41,000	205	767	54,346	126,981	255,093

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他 有価証券 評価 差額金	土地 再評価 差額金	評価・ 換算差額 等合計	
当期首残高	480,860	4,184	485,044	740,379
当期変動額				
社員配当準備金の積立				△ 30,726
損失填補準備金の積立				—
基金利息の支払				△ 102
当期純剰余				30,872
基金償却準備金の積立				—
不動産圧縮準備金の取崩				—
土地再評価差額金の取崩				△ 284
基金等以外の項目の 当期変動額(純額)	△ 93,978	284	△ 93,694	△ 93,694
当期変動額合計	△ 93,978	284	△ 93,694	△ 93,935
当期末残高	386,882	4,468	391,350	646,444

2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）

（単位：百万円）

	基金等											基金等 合計
	基金	基金償却 積立金	再評価 積立金	損失 填補 準備金	剰余金						剰余金 合計	
					その他剰余金							
					基金償却 準備金	社員配当 平衡 積立金	価格変動 積立金	不動産 圧縮 準備金	別途 準備金	当期 未処分 剰余金		
当期首残高	12,000	116,000	112	3,463	7,200	20,000	41,000	205	767	54,346	126,981	255,093
当期変動額												
社員配当準備金の積立										△ 28,002	△ 28,002	△ 28,002
損失填補準備金の積立				85						△ 85	—	—
基金利息の支払										△ 102	△ 102	△ 102
当期純剰余										39,783	39,783	39,783
基金償却準備金の積立					2,400					△ 2,400	—	—
不動産圧縮準備金の取崩								△ 1		1	—	—
土地再評価差額金の取崩										△ 32	△ 32	△ 32
基金等以外の項目の 当期変動額（純額）												
当期変動額合計	—	—	—	85	2,400	—	—	△ 1	—	9,163	11,647	11,647
当期末残高	12,000	116,000	112	3,548	9,600	20,000	41,000	204	767	63,509	138,628	266,740

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他 有価証券 評価 差額金	土地 再評価 差額金	評価・ 換算差額 等合計	
当期首残高	386,882	4,468	391,350	646,444
当期変動額				
社員配当準備金の積立				△ 28,002
損失填補準備金の積立				—
基金利息の支払				△ 102
当期純剰余				39,783
基金償却準備金の積立				—
不動産圧縮準備金の取崩				—
土地再評価差額金の取崩				△ 32
基金等以外の項目の 当期変動額（純額）	272,926	32	272,958	272,958
当期変動額合計	272,926	32	272,958	284,605
当期末残高	659,808	4,500	664,308	931,049

4. 剰余金処分に関する決議書

(単位：百万円)

科 目	年 度	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
	総代会年月日	2023年7月4日	2024年7月2日
当期末処分剰余金		54,346	63,509
任意積立金取崩額		1	1
不動産圧縮準備金取崩額		1	1
計		54,347	63,510
剰余金処分額		30,589	39,752
社員配当準備金		28,002	37,138
差引純剰余金		2,587	2,614
損失填補準備金		85	112
基金利息		102	102
任意積立金		2,400	2,400
基金償却準備金		2,400	2,400
次期繰越剰余金		23,758	23,758

(注) 差引純剰余金とは、社員配当準備金を差し引いた後の剰余金をいいます。

注記事項(貸借対照表)

2022年度末	2023年度末
<p>1. 会計方針に関する事項</p> <p>(1)有価証券等の評価基準及び評価方法 有価証券(現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む)の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式(保険業法第2条第12項に規定する子会社及び保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたもの及び関連法人等が発行する株式をいう)については移動平均法による原価法、その他有価証券については3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法、取得差額が金利調整差額と認められる公社債(外国債券を含む)については移動平均法による償却原価法(定額法)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法)によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 デリバティブ取引の評価は時価法によっております。</p> <p>(3)土地の再評価に関する法律第3条第3項に規定する再評価の方法 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。 ・再評価を行った年月日 2002年3月31日 ・同法律第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第4号に定める路線価に基づいて、合理的な調整を行って算出</p> <p>(4)有形固定資産の減価償却の方法 有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。 ・有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(2016年3月31日以前に取得した附属設備、構築物を除く)については定額法)を採用しております。 ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、その他の有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っております。</p> <p>(5)外貨建資産等の本邦通貨への換算基準 外貨建資産・負債(子会社及び関連会社株式は除く)は、決算日の為替相場により円換算しております。なお、子会社及び関連会社株式は、取得時の為替相場により円換算しております。</p> <p>(6)貸倒引当金の計上方法 貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産手続開始、民事再生手続開始等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という)に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者(以下「実質破綻先」という)に対する債権については、下記直接</p>	<p>1. 会計方針に関する事項</p> <p>(1)有価証券等の評価基準及び評価方法 有価証券(現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む)の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(平成12年11月16日 日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式(保険業法第2条第12項に規定する子会社及び保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたもの及び関連法人等が発行する株式をいう)については移動平均法による原価法、その他有価証券については3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法、取得差額が金利調整差額と認められる公社債(外国債券を含む)については移動平均法による償却原価法(定額法)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法)によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 同 左</p> <p>(3)土地の再評価に関する法律第3条第3項に規定する再評価の方法 同 左</p> <p>(4)有形固定資産の減価償却の方法 同 左</p> <p>(5)外貨建資産等の本邦通貨への換算基準 同 左</p> <p>(6)貸倒引当金の計上方法 貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産手続開始、民事再生手続開始等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という)に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者(以下「実質破綻先」という)に対する債権については、下記直接</p>

2023年度の事業概況
商品開発と販売商品
経営に関する諸活動
当社の概況および組織
財産の状況
業務の状況を示す指標等
特別勘定に関する指標等
その子会社等の状況

2022年度末	2023年度末						
<p>減額後の債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額に対し、同額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除した残額に対し、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する債権については、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額表示しており、その減額した額は0百万円であります。</p> <p>(7)退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法 退職給付引当金及び前払年金費用は、従業員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。 退職給付債務及び退職給付費用の処理方法は次のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="245 952 719 1025"> <tr> <td>退職給付見込額の期間帰属方法</td> <td>給付算定式基準</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td>10年</td> </tr> <tr> <td>過去勤務費用の処理年数</td> <td>10年</td> </tr> </table> <p>(8)価格変動準備金の計上方法 価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。</p> <p>(9)ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」（2019年7月4日 企業会計基準第10号）に従い、主に、外貨建債券等に対する為替変動リスクのヘッジとして時価ヘッジ、当社の発行する外貨建社債に対する為替変動リスクのヘッジとして通貨スワップの振当処理を行っております。</p> <p>なお、ヘッジの有効性の判定には、主に、ヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動又はキャッシュ・フロー変動を比較する比率分析によっております。</p> <p>(10)退職給付に係る会計処理 退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。</p> <p>(11)消費税等の会計処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生年度に費用処理しております。</p> <p>(12)保険料の計上方法 初回保険料は、原則として、収納があり、保険契約上の責任が開始しているものについて、当該収納した金額により計上しております。</p> <p>また、2回目以降保険料は、収納があったものについて、当該金額により計上しております。</p> <p>なお、収納した保険料のうち、期末時点において未経過となっている期間に対応する部分については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第2号に基づき、責任準備金に積み立てております。</p> <p>団体年金保険の受管に係る保険料は、受管時に、收受した責任準備金相当額により計上しております。</p> <p>(13)保険金・支払備金の計上方法 保険金等支払金（再保険料を除く）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された</p>	退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準	数理計算上の差異の処理年数	10年	過去勤務費用の処理年数	10年	<p>減額後の債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額に対し、同額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除した残額に対し、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する債権については、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額表示しており、その減額した額は0百万円であります。</p> <p>(7)退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法 同 左</p> <p>(8)価格変動準備金の計上方法 同 左</p> <p>(9)ヘッジ会計の方法 同 左</p> <p>(10)退職給付に係る会計処理 同 左</p> <p>(11)消費税等の会計処理方法 同 左</p> <p>(12)保険料の計上方法 同 左</p> <p>(13)保険金・支払備金の計上方法 保険金等支払金（再保険料を除く）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された</p>
退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準						
数理計算上の差異の処理年数	10年						
過去勤務費用の処理年数	10年						

2022年度末	2023年度末
<p>金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。</p> <p>なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、期末時点において支払義務が発生したもの、または、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるもののうち、それぞれ保険金等の支出として計上していないものについて、支払備金を積み立てております。</p> <p>また支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められる保険金等（以下「既発生未報告支払備金」という。）については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設または自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）の入院給付金等の支払対象を当事業年度中に変更したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。</p> <p>（計算方法の概要）</p> <p>IBNR告示第1条第1項本則に掲げる全ての事業年度の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額から、重症化リスクの高い方（以下「4類型」という。）以外のみなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。なお、上記の計算で必要となる診断日が2022年9月25日以前の4類型のみなし入院に係る額については、診断日が2022年9月25日以前である65歳以上の方のみなし入院に係る額に診断日が2022年9月26日以降の4類型に係る額と65歳以上の方のみなし入院に係る額の比率を乗じて推計しております。但し、団体保険の非幹事契約の4類型のみなし入院に係る額については、幹事契約の支払額に基づいて推計しております。</p> <p>団体年金保険の移管に係る保険金等支払金は、移管時に、移管先に支出した責任準備金相当額により計上しております。</p> <p>(14)責任準備金の積立方法</p> <p>期末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、責任準備金を積み立てております。</p> <p>責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。</p> <p>①標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）</p> <p>②標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式</p> <p>保険業法施行規則第69条第1項、第2項及び第4項の規定により積み立てられた責任準備金では、算出方法書の計算前提（予定発生率・予定利率等）に基づく将来の予定キャッシュ・フローの見積りが、直近の実績と乖離することにより、将来の債務の履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき追加の責任準備金を計上する必要があります。この規定に基づき以下を積み立てております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定利率が5.00%以上の個人年金保険契約のうち年金支払を開始している契約（妻年金保険買増特約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当年度末における残高は71,649百万円であります。 ・予定利率が5.00%以上の終身保険契約のうち保険料払込満了を迎えた契約（払済保険または延長保険に変更した契約、一時払契約及び保険料払込免除後契約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当年度末における残高は106,590百万円であります。 ・5年ごと利差配当終身医療給付保険、新がん特約、高度先進医療特約及び移植医療特約のそれぞれ一部の契約についても追加して責任準備金を積み立てております。これらの当年度末における残高は105百万円です。 	<p>金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。</p> <p>なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、期末時点において支払義務が発生したもの、または、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるもののうち、それぞれ保険金等の支出として計上していないものについて、支払備金を積み立てております。</p> <p>また支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められる保険金等（以下「既発生未報告支払備金」という。）については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設または自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）等に入院給付金等を支払う特別取扱を2023年5月8日以降終了したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。</p> <p>（計算方法の概要）</p> <p>IBNR告示第1条第1項本則に掲げる全ての事業年度の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額から、みなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。なお、前事業年度末においては、当該みなし入院に係る額の代わりに、重症化リスクの高い方以外のみなし入院に係る額を除外しておりましたが、当事業年度中にみなし入院の入院給付金の取扱いを終了したことにより、当該みなし入院に係る額を除外して算出する方法に見直しております。</p> <p>団体年金保険の移管に係る保険金等支払金は、移管時に、移管先に支出した責任準備金相当額により計上しております。</p> <p>(14)責任準備金の積立方法</p> <p>期末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、責任準備金を積み立てております。</p> <p>責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。</p> <p>①標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）</p> <p>②標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式</p> <p>保険業法施行規則第69条第1項、第2項及び第4項の規定により積み立てられた責任準備金では、算出方法書の計算前提（予定発生率・予定利率等）に基づく将来の予定キャッシュ・フローの見積りが、直近の実績と乖離することにより、将来の債務の履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき追加の責任準備金を計上する必要があります。この規定に基づき以下を積み立てております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定利率が5.00%以上の個人年金保険契約のうち年金支払を開始している契約（妻年金保険買増特約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当年度末における残高は69,848百万円であります。 ・予定利率が5.00%以上の終身保険契約のうち保険料払込満了を迎えた契約（払済保険または延長保険に変更した契約、一時払契約及び保険料払込免除後契約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当年度末における残高は105,883百万円であります。 ・5年ごと利差配当終身医療給付保険、新がん特約、高度先進医療特約及び移植医療特約のそれぞれ一部の契約についても追加して責任準備金を積み立てております。これらの当年度末における残高は84百万円です。

2022年度末	2023年度末
<p>あります。</p> <p>なお、責任準備金の積立てについては、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において責任準備金が適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。</p> <p>責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。</p> <p>(5)無形固定資産の減価償却の方法 無形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア ・利用可能期間に基づく定額法を採用しております。 ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>2. 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(2021年6月17日 企業会計基準適用指針第31号。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これにより、一部の投資信託については、従来、取得原価をもって貸借対照表価額としておりましたが、当年度より、時価をもって貸借対照表価額としております。なお、財務諸表に与える影響は軽微であります。</p> <p>3. 保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、生命保険事業の公共性や社会性を考慮して、安全かつ有利を基本原則としております。この方針に基づき、流動性を確保しつつ中長期的な視点から資金を配分しており、具体的には、ALM(資産・負債の総合管理)の観点から、公社債や貸付金等の円金利資産を柱に据え、それを補完し、収益性の向上を図るために、許容されるリスクの範囲内で外国証券や株式、不動産といった資産への分散投資を行っております。また、デリバティブについては、主として現物資産及び負債に係る市場リスクのヘッジを目的に活用しております。</p> <p>なお、主な金融商品である有価証券、貸付金及びデリバティブ取引は、それぞれ市場リスク及び信用リスクに晒されております。</p> <p>資産運用リスクの管理にあたっては、取締役会が定めた統合的リスク管理に係る基本3規程に則った諸規程を定め、管理体制を整備し運営しております。具体的には、資産運用リスク管理部門が市場リスクや信用リスク等の状況を日次や月次など定期的に把握・監視しながら、資産運用部門への牽制機能を働かせることにより、基本原則を逸脱する過度なリスクを排除し、資産の安全性を確保しております。なお、市場リスクと信用リスクに関しVaRを用いてリスク量を算出し、保有資産から生じる可能性のある最大損失額を一定の範囲内に抑えるというコントロール方法を採用しております。</p> <p>一般勘定の主な金融資産及び金融負債に係る貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。</p>	<p>ります。</p> <p>なお、責任準備金の積立てについては、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において責任準備金が適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。</p> <p>責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。</p> <p>(5)無形固定資産の減価償却の方法 同 左</p> <p>(6)責任準備金対応債券 個人保険・個人年金保険及び団体年金保険に設定した小区分(保険種類・資産運用方針等により設定)に対応した債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものについて、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(平成12年11月16日 日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づき、責任準備金対応債券に区分しております。</p> <p>2. 保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、生命保険事業の公共性や社会性を考慮して、安全かつ有利を基本原則としております。この方針に基づき、流動性を確保しつつ中長期的な視点から資金を配分しており、具体的には、ALM(資産・負債の総合管理)の観点から、公社債や貸付金等の円金利資産を柱に据え、それを補完し、収益性の向上を図るために、許容されるリスクの範囲内で外国証券や株式、不動産といった資産への分散投資を行っております。また、デリバティブについては、主として現物資産及び負債に係る市場リスクのヘッジを目的に活用しております。</p> <p>なお、主な金融商品である有価証券、貸付金及びデリバティブ取引は、それぞれ市場リスク及び信用リスクに晒されております。</p> <p>資産運用リスクの管理にあたっては、取締役会が定めた統合的リスク管理に係る基本3規程に則った諸規程を定め、管理体制を整備し運営しております。具体的には、資産運用リスク管理部門が市場リスクや信用リスク等の状況を日次や月次など定期的に把握・監視しながら、資産運用部門への牽制機能を働かせることにより、基本原則を逸脱する過度なリスクを排除し、資産の安全性を確保しております。なお、市場リスクと信用リスクに関しVaRを用いてリスク量を算出し、保有資産から生じる可能性のある最大損失額を一定の範囲内に抑えるというコントロール方法を採用しております。</p> <p>一般勘定の主な金融資産及び金融負債に係る貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。</p>

2022年度末				2023年度末			
(単位:百万円)				(単位:百万円)			
	貸借対照表計上額	時価	差額		貸借対照表計上額	時価	差額
金銭の信託	24,897	24,897	—	金銭の信託	22,502	22,502	—
売買目的有価証券	24,897	24,897	—	売買目的有価証券	22,502	22,502	—
有価証券	5,588,005	5,658,365	70,360	有価証券	6,102,053	6,145,611	43,558
売買目的有価証券	10,232	10,232	—	満期保有目的の債券	708,320	759,424	51,104
満期保有目的の債券	738,300	808,660	70,360	責任準備金対応債券	290,573	283,026	△ 7,546
その他有価証券	4,839,472	4,839,472	—	その他有価証券	5,103,160	5,103,160	—
貸付金	524,193	534,532	10,339	貸付金	499,793	504,550	4,756
保険約款貸付	47,088	47,088	△ 0	保険約款貸付	45,991	45,991	△ 0
一般貸付	477,104	487,443	10,339	一般貸付	453,802	458,559	4,756
資産計	6,137,096	6,217,795	80,699	資産計	6,624,349	6,672,664	48,314
負債計	241,935	238,498	△ 3,436	負債計	267,260	263,910	△ 3,349
社債(※1)	241,935	238,498	△ 3,436	社債(※1)	267,260	263,910	△ 3,349
負債計	241,935	238,498	△ 3,436	負債計	267,260	263,910	△ 3,349
金融派生商品(※2)	△ 1,524	△ 1,524	—	金融派生商品(※2)	△ 1,029	△ 1,029	—
ヘッジ会計が適用されていないもの	△ 683	△ 683	—	ヘッジ会計が適用されていないもの	△ 1,029	△ 1,029	—
ヘッジ会計が適用されているもの	△ 840	△ 840	—				

(※1) 通貨スワップの振当処理を適用しているデリバティブ取引については、ヘッジ対象とされている社債と一体として処理されているため、その時価は、社債に含めて記載しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で示しております。

(注1) 非上場株式等の市場価格のない株式等については、有価証券に含めておりません。当該非上場株式等の当年度末における貸借対照表価額は73,611百万円であります。

(注2) 組合出資金等については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(2021年6月17日 企業会計基準適用指針第31号。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)第24-16項に基づき、有価証券に含めておりません。当該組合出資金等の当年度末における貸借対照表価額は30,957百万円であります。

(注3) 時価算定会計基準適用指針第24-9項の取扱いを適用した投資信託財産が不動産である投資信託については、有価証券に含めております。

4. 主な金融商品の時価の内訳等に関する事項は、次のとおりであります。

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における(無調整の)相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1)時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託	—	24,897	—	24,897
売買目的有価証券	—	24,897	—	24,897
有価証券	3,041,547	1,776,071	26,490	4,844,109
売買目的有価証券	—	10,232	—	10,232
外国証券	—	10,232	—	10,232
その他有価証券	3,041,547	1,765,839	26,490	4,833,876
国債	1,665,641	—	—	1,665,641
地方債	—	86,960	—	86,960
社債	—	512,254	—	512,254
株式	739,891	—	—	739,891
外国証券	595,331	1,053,931	26,490	1,675,753
その他の証券	40,683	112,692	—	153,375
資産計	3,041,547	1,800,969	26,490	4,869,007
デリバティブ取引(※1)	△ 169	△ 1,355	—	△ 1,524
通貨関連	—	△ 1,402	—	△ 1,402
金利関連	—	47	—	47
株式関連	△ 31	—	—	△ 31
債券関連	△ 137	—	—	△ 137

(※1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で示しております。

(注) 時価算定会計基準適用指針第24-9項の取扱いを適用した投資信託財産が不動産である投資信託については、本計数の残高には含めておりません。当該投資信託の当年度末における貸借対照表価額は5,596百万円であります。また、当該投資信託の期首残高から期末残高への調整表は次のとおりであります。

2022年度末					2023年度末						
(単位:百万円)					(単位:百万円)						
期首残高					3,654	期首残高					5,596
評価差額金の変動					441	評価差額金の変動					203
購入、売却及び償還					1,500	購入、売却及び償還					4,146
購入					1,500	購入					4,146
期末残高					5,596	期末残高					9,945
(2)時価をもって貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債					(2)時価をもって貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債						
(単位:百万円)					(単位:百万円)						
区分	時 価					区分	時 価				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計			レベル1	レベル2	レベル3	合計	
有価証券	780,191	28,468	—	808,660		有価証券	1,014,738	27,713	—	1,042,451	
満期保有目的の債券	780,191	28,468	—	808,660		満期保有目的の債券	744,790	14,634	—	759,424	
国債	780,191	—	—	780,191		国債	744,790	—	—	744,790	
地方債	—	7,357	—	7,357		地方債	—	7,058	—	7,058	
社債	—	21,110	—	21,110		社債	—	7,576	—	7,576	
貸付金	—	—	534,532	534,532		責任準備金対応債券	269,948	13,078	—	283,026	
保険約款貸付	—	—	47,088	47,088		国債	269,948	—	—	269,948	
一般貸付	—	—	487,443	487,443		地方債	—	1,837	—	1,837	
資産計	780,191	28,468	534,532	1,343,192		社債	—	11,241	—	11,241	
負債	—	238,498	—	238,498		貸付金	—	—	504,550	504,550	
社債	—	238,498	—	238,498		保険約款貸付	—	—	45,991	45,991	
負債計	—	238,498	—	238,498		一般貸付	—	—	458,559	458,559	
						資産計	1,014,738	27,713	504,550	1,547,002	
						負債	—	263,910	—	263,910	
						負債計	—	263,910	—	263,910	
(3)時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明					(3)時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明						
<p>ア.有価証券（預貯金・買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」（2019年7月4日 企業会計基準第10号）に基づく有価証券として取扱うものを含む）有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式、国債（それぞれ一部外国証券を含む）がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債（それぞれ一部外国証券を含む）がこれに含まれます。相場価格が入手できない場合には、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格を時価の算定に用いております。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。</p>					<p>ア.有価証券（預貯金・買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」（2019年7月4日 企業会計基準第10号）に基づく有価証券として取扱うものを含む）有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式、国債（それぞれ一部外国証券を含む）がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債（それぞれ一部外国証券を含む）がこれに含まれます。相場価格が入手できない場合には、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格を時価の算定に用いております。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。</p>						
<p>イ.金銭の信託 金銭の信託については、原則として、信託財産である有価証券を「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価としており、レベル2に分類しております。</p>					<p>イ.金銭の信託 金銭の信託については、原則として、信託財産である有価証券を「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価としており、レベル2に分類しております。</p>						
<p>ウ.貸付金 保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。 一般貸付のうち、変動金利貸付の時価については、将来キャッシュ・フローに市場金利が短期間で反映されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。一方、固定金利貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値へ割り引いた価格によっております。なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する貸付金については、直接減額前の帳簿価額から貸倒見積高を控除した額を時価としております。時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。</p>					<p>ウ.貸付金 保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。 一般貸付のうち、変動金利貸付の時価については、将来キャッシュ・フローに市場金利が短期間で反映されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額をもって時価としております。一方、固定金利貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値へ割り引いた価格を時価の算定に用いております。なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する貸付金については、直接減額前の帳簿価額から貸倒見積高を控除した額を時価としております。時価算定において、重要な観察できないインプットを用いていることからレベル3の時価に分類しております。</p>						

2022年度末	2023年度末																																				
<p>エ.社債 当社の発行する社債については、「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価としており、レベル2に分類しております。</p> <p>オ.デリバティブ取引 デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しており、主に先物、オプションの取引所取引がこれに含まれます。ただし、大部分のデリバティブ取引は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格の時価の算定に用いております。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要な場合レベル2の時価に分類しており、重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル3の時価に分類しております。</p> <p>(4)時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債のうちレベル3の時価に関する情報</p> <p>ア.重要な観察できないインプットに関する定量的情報 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>イ.期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益</p> <p style="text-align: right;">(単位:百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">有価証券 その他有価証券 外国証券</th> <th style="text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期首残高</td> <td style="text-align: right;">28,139</td> <td style="text-align: right;">28,139</td> </tr> <tr> <td>当期の損益</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> </tr> <tr> <td>損益に計上(※1)</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> </tr> <tr> <td>評価差額金の変動</td> <td style="text-align: right;">△ 1,638</td> <td style="text-align: right;">△ 1,638</td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">(※1) 損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。</p> <p>ウ.時価の評価プロセスの説明 当社は資産管理部門にて時価の算定に関する方針及び手続の策定、ならびに時価の算定を行っております。算定された時価は、リスク管理部門にて、当該方針及び手続に準拠しているか妥当性を検証しております。時価の算定にあたっては、第三者から入手した相場価格につき、別の第三者から入手した相場価格との比較、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。</p> <p>エ.重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>5. 当社では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当年度末における当該賃貸等不動産の貸借対照表価額は199,666百万円、時価は351,564百万円であります。なお、時価の算定にあたっては、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)によっております。また、賃貸等不動産の貸借対照表価額に含まれている資産除去債務に対応する額は327百万円であります。</p> <p>6. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の貸借対照表価額は504,760百万円であります。</p>		有価証券 その他有価証券 外国証券	合計	期首残高	28,139	28,139	当期の損益	△ 10	△ 10	損益に計上(※1)	△ 10	△ 10	評価差額金の変動	△ 1,638	△ 1,638	期末残高	26,490	26,490	<p>エ.社債 当社の発行する社債については、「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価としており、レベル2に分類しております。</p> <p>オ.デリバティブ取引 デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しており、主に先物、オプションの取引所取引がこれに含まれます。ただし、大部分のデリバティブ取引は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格の時価の算定に用いております。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要な場合レベル2の時価に分類しており、重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル3の時価に分類しております。</p> <p>(4)時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債のうちレベル3の時価に関する情報</p> <p>ア.重要な観察できないインプットに関する定量的情報 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>イ.期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益</p> <p style="text-align: right;">(単位:百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">有価証券 その他有価証券 外国証券</th> <th style="text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期首残高</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> </tr> <tr> <td>当期の損益</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> </tr> <tr> <td>損益に計上(※1)</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> </tr> <tr> <td>評価差額金の変動</td> <td style="text-align: right;">△ 127</td> <td style="text-align: right;">△ 127</td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td style="text-align: right;">26,352</td> <td style="text-align: right;">26,352</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">(※1) 損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。</p> <p>ウ.時価の評価プロセスの説明 当社は資産管理部門にて時価の算定に関する方針及び手続の策定、ならびに時価の算定を行っております。算定された時価は、リスク管理部門にて、当該方針及び手続に準拠しているか妥当性を検証しております。時価の算定にあたっては、第三者から入手した相場価格につき、別の第三者から入手した相場価格との比較、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。</p> <p>エ.重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>4. 当社では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当年度末における当該賃貸等不動産の貸借対照表価額は208,136百万円、時価は372,027百万円であります。なお、時価の算定にあたっては、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)によっております。また、賃貸等不動産の貸借対照表価額に含まれている資産除去債務に対応する額は281百万円であります。</p> <p>5. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の貸借対照表価額は518,568百万円であります。</p>		有価証券 その他有価証券 外国証券	合計	期首残高	26,490	26,490	当期の損益	△ 10	△ 10	損益に計上(※1)	△ 10	△ 10	評価差額金の変動	△ 127	△ 127	期末残高	26,352	26,352
	有価証券 その他有価証券 外国証券	合計																																			
期首残高	28,139	28,139																																			
当期の損益	△ 10	△ 10																																			
損益に計上(※1)	△ 10	△ 10																																			
評価差額金の変動	△ 1,638	△ 1,638																																			
期末残高	26,490	26,490																																			
	有価証券 その他有価証券 外国証券	合計																																			
期首残高	26,490	26,490																																			
当期の損益	△ 10	△ 10																																			
損益に計上(※1)	△ 10	△ 10																																			
評価差額金の変動	△ 127	△ 127																																			
期末残高	26,352	26,352																																			

2022年度末	2023年度末																				
<p>7. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の額は1,236百万円であります。なお、それぞれの内訳は次のとおりであります。</p> <p>債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は130百万円であります。</p> <p>上記取立不能見込額の直接減額は0百万円であります。</p> <p>なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。</p> <p>債権のうち、危険債権額は544百万円であります。</p> <p>なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。</p> <p>債権のうち、三月以上延滞債権額はありません。</p> <p>なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。</p> <p>債権のうち、貸付条件緩和債権額は561百万円であります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>8. 有形固定資産の減価償却累計額は182,618百万円であります。</p> <p>9. 特別勘定の資産の額は118,783百万円であります。なお、負債の額も同額であります。</p> <p>10. 子会社等に対する金銭債権の総額は2,405百万円、金銭債務の総額は1,891百万円であります。</p> <p>11. 繰延税金資産の総額は172,319百万円、繰延税金負債の総額は153,674百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は4,815百万円であります。</p> <p>繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金101,887百万円、価格変動準備金49,612百万円及び退職給付引当金12,959百万円であります。</p> <p>繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、その他有価証券の評価差額148,218百万円であります。</p> <p>当年度における法定実効税率は28.0%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率4.1%との間の差異の主要な内訳は、社員配当準備金△24.4%であります。</p> <p>12. 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。</p> <table border="1" data-bbox="245 1693 759 1816"> <tr> <td>当期首現在高</td> <td>63,411百万円</td> </tr> <tr> <td>前期剰余金よりの繰入額</td> <td>30,726百万円</td> </tr> <tr> <td>当期社員配当金支払額</td> <td>29,731百万円</td> </tr> <tr> <td>利息による増加等</td> <td>13百万円</td> </tr> <tr> <td>当期末現在高</td> <td>64,420百万円</td> </tr> </table> <p>13. 子会社等の株式は64,787百万円であります。</p> <p>14. 担保に供されている資産の額は、有価証券175,557百万円であります。</p> <p>また、担保付き債務の額は161,480百万円であります。</p> <p>なお、上記には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券147,552百万円及び受入担保金155,483百万円が含まれております。</p>	当期首現在高	63,411百万円	前期剰余金よりの繰入額	30,726百万円	当期社員配当金支払額	29,731百万円	利息による増加等	13百万円	当期末現在高	64,420百万円	<p>6. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の額は1,137百万円であります。なお、それぞれの内訳は次のとおりであります。</p> <p>債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は110百万円であります。</p> <p>上記取立不能見込額の直接減額は0百万円であります。</p> <p>なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。</p> <p>債権のうち、危険債権額は508百万円であります。</p> <p>なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。</p> <p>債権のうち、三月以上延滞債権額はありません。</p> <p>なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。</p> <p>債権のうち、貸付条件緩和債権額は518百万円であります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>7. 有形固定資産の減価償却累計額は182,699百万円であります。</p> <p>8. 特別勘定の資産の額は141,452百万円であります。なお、負債の額も同額であります。</p> <p>9. 子会社等に対する金銭債権の総額は3,098百万円、金銭債務の総額は2,348百万円であります。</p> <p>10. 取締役に対する金銭債権の総額は3百万円であります。</p> <p>11. 繰延税金資産の総額は185,225百万円、繰延税金負債の総額は260,074百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は4,899百万円であります。</p> <p>繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金113,745百万円、価格変動準備金50,558百万円及び退職給付引当金13,149百万円であります。</p> <p>繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、その他有価証券の評価差額254,206百万円であります。</p> <p>当年度における法定実効税率は28.0%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率2.2%との間の差異の主要な内訳は、社員配当準備金△25.6%であります。</p> <p>12. 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。</p> <table border="1" data-bbox="880 1693 1394 1816"> <tr> <td>当期首現在高</td> <td>64,420百万円</td> </tr> <tr> <td>前期剰余金よりの繰入額</td> <td>28,002百万円</td> </tr> <tr> <td>当期社員配当金支払額</td> <td>30,532百万円</td> </tr> <tr> <td>利息による増加等</td> <td>13百万円</td> </tr> <tr> <td>当期末現在高</td> <td>61,903百万円</td> </tr> </table> <p>13. 子会社等の株式は64,787百万円であります。</p> <p>14. 担保に供されている資産の額は、有価証券138,648百万円であります。</p> <p>また、担保付き債務の額は127,337百万円であります。</p> <p>なお、上記には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券114,460百万円及び受入担保金121,299百万円が含まれております。</p>	当期首現在高	64,420百万円	前期剰余金よりの繰入額	28,002百万円	当期社員配当金支払額	30,532百万円	利息による増加等	13百万円	当期末現在高	61,903百万円
当期首現在高	63,411百万円																				
前期剰余金よりの繰入額	30,726百万円																				
当期社員配当金支払額	29,731百万円																				
利息による増加等	13百万円																				
当期末現在高	64,420百万円																				
当期首現在高	64,420百万円																				
前期剰余金よりの繰入額	28,002百万円																				
当期社員配当金支払額	30,532百万円																				
利息による増加等	13百万円																				
当期末現在高	61,903百万円																				

2022年度末	2023年度末																																																																																																																		
<p>15. 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金(以下「出再支払備金」という。)の金額は0百万円であり、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下「出再責任準備金」という。)の金額は21百万円であります。</p> <p>16. 保険業法施行規則第30条第2項に規定する金額は391,462百万円であります。</p> <p>17. 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は8,604百万円であります。</p> <p>18. 社債は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債であります。</p> <p>19. 退職給付に関する事項は次のとおりであります。 (1)採用している退職給付制度の概要 当社は、内務職員については、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。 営業職員については、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。 なお、営業職員の退職一時金制度には、退職給付信託が設定されております。 一部の退職一時金制度は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>(2)確定給付制度 ①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における退職給付債務</td> <td>90,644百万円</td> </tr> <tr> <td>勤務費用</td> <td>3,639百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td>542百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>△12百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△4,386百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における退職給付債務</td> <td>90,426百万円</td> </tr> </table> <p>②年金資産の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における年金資産</td> <td>63,886百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td>1,232百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>2,410百万円</td> </tr> <tr> <td>事業主からの拠出額</td> <td>1,075百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△2,134百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における年金資産</td> <td>66,470百万円</td> </tr> </table> <p>③退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>積立型制度の退職給付債務</td> <td>78,820百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td>△66,470百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12,349百万円</td> </tr> <tr> <td>非積立型制度の退職給付債務</td> <td>11,606百万円</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td>421百万円</td> </tr> <tr> <td>未認識過去勤務費用</td> <td>△40百万円</td> </tr> <tr> <td>貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>24,337百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td>25,951百万円</td> </tr> <tr> <td>前払年金費用</td> <td>△1,614百万円</td> </tr> <tr> <td>貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>24,337百万円</td> </tr> </table> <p>④退職給付に関連する損益</p> <table border="1"> <tr> <td>勤務費用</td> <td>3,639百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td>542百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td>△1,232百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td>772百万円</td> </tr> <tr> <td>過去勤務費用の費用処理額</td> <td>5百万円</td> </tr> <tr> <td>確定給付制度に係る退職給付費用</td> <td>3,726百万円</td> </tr> </table>	期首における退職給付債務	90,644百万円	勤務費用	3,639百万円	利息費用	542百万円	数理計算上の差異の発生額	△12百万円	退職給付の支払額	△4,386百万円	期末における退職給付債務	90,426百万円	期首における年金資産	63,886百万円	期待運用収益	1,232百万円	数理計算上の差異の発生額	2,410百万円	事業主からの拠出額	1,075百万円	退職給付の支払額	△2,134百万円	期末における年金資産	66,470百万円	積立型制度の退職給付債務	78,820百万円	年金資産	△66,470百万円		12,349百万円	非積立型制度の退職給付債務	11,606百万円	未認識数理計算上の差異	421百万円	未認識過去勤務費用	△40百万円	貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,337百万円	退職給付引当金	25,951百万円	前払年金費用	△1,614百万円	貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,337百万円	勤務費用	3,639百万円	利息費用	542百万円	期待運用収益	△1,232百万円	数理計算上の差異の費用処理額	772百万円	過去勤務費用の費用処理額	5百万円	確定給付制度に係る退職給付費用	3,726百万円	<p>15. 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金(以下「出再支払備金」という。)の金額は0百万円であり、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下「出再責任準備金」という。)の金額は18百万円であります。</p> <p>16. 保険業法施行規則第30条第2項に規定する金額は664,421百万円であります。</p> <p>17. 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は4,344百万円であります。</p> <p>18. 社債は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債であります。</p> <p>19. 退職給付に関する事項は次のとおりであります。 (1)採用している退職給付制度の概要 当社は、内務職員については、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。 なお、内務職員の退職給付制度について、2023年9月末に定年年齢の65歳への引き上げ等に伴う改正を行っており、過去勤務費用△6,929百万円が発生しております。 営業職員については、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。 なお、営業職員の退職一時金制度には、退職給付信託が設定されております。 一部の退職一時金制度は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>(2)確定給付制度 ①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における退職給付債務</td> <td>90,426百万円</td> </tr> <tr> <td>勤務費用</td> <td>3,573百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td>520百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>△9,156百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△3,715百万円</td> </tr> <tr> <td>過去勤務費用の発生額</td> <td>△6,929百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における退職給付債務</td> <td>74,720百万円</td> </tr> </table> <p>②年金資産の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における年金資産</td> <td>66,470百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td>1,229百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>12,579百万円</td> </tr> <tr> <td>事業主からの拠出額</td> <td>918百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△1,577百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における年金資産</td> <td>79,620百万円</td> </tr> </table> <p>③退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>積立型制度の退職給付債務</td> <td>65,969百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td>△79,620百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>△13,650百万円</td> </tr> <tr> <td>非積立型制度の退職給付債務</td> <td>8,750百万円</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td>22,740百万円</td> </tr> <tr> <td>未認識過去勤務費用</td> <td>6,547百万円</td> </tr> <tr> <td>貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>24,387百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td>26,701百万円</td> </tr> <tr> <td>前払年金費用</td> <td>△2,313百万円</td> </tr> <tr> <td>貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>24,387百万円</td> </tr> </table> <p>④退職給付に関連する損益</p> <table border="1"> <tr> <td>勤務費用</td> <td>3,573百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td>520百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td>△1,229百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td>582百万円</td> </tr> <tr> <td>過去勤務費用の費用処理額</td> <td>△341百万円</td> </tr> <tr> <td>確定給付制度に係る退職給付費用</td> <td>3,106百万円</td> </tr> </table>	期首における退職給付債務	90,426百万円	勤務費用	3,573百万円	利息費用	520百万円	数理計算上の差異の発生額	△9,156百万円	退職給付の支払額	△3,715百万円	過去勤務費用の発生額	△6,929百万円	期末における退職給付債務	74,720百万円	期首における年金資産	66,470百万円	期待運用収益	1,229百万円	数理計算上の差異の発生額	12,579百万円	事業主からの拠出額	918百万円	退職給付の支払額	△1,577百万円	期末における年金資産	79,620百万円	積立型制度の退職給付債務	65,969百万円	年金資産	△79,620百万円		△13,650百万円	非積立型制度の退職給付債務	8,750百万円	未認識数理計算上の差異	22,740百万円	未認識過去勤務費用	6,547百万円	貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,387百万円	退職給付引当金	26,701百万円	前払年金費用	△2,313百万円	貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,387百万円	勤務費用	3,573百万円	利息費用	520百万円	期待運用収益	△1,229百万円	数理計算上の差異の費用処理額	582百万円	過去勤務費用の費用処理額	△341百万円	確定給付制度に係る退職給付費用	3,106百万円
期首における退職給付債務	90,644百万円																																																																																																																		
勤務費用	3,639百万円																																																																																																																		
利息費用	542百万円																																																																																																																		
数理計算上の差異の発生額	△12百万円																																																																																																																		
退職給付の支払額	△4,386百万円																																																																																																																		
期末における退職給付債務	90,426百万円																																																																																																																		
期首における年金資産	63,886百万円																																																																																																																		
期待運用収益	1,232百万円																																																																																																																		
数理計算上の差異の発生額	2,410百万円																																																																																																																		
事業主からの拠出額	1,075百万円																																																																																																																		
退職給付の支払額	△2,134百万円																																																																																																																		
期末における年金資産	66,470百万円																																																																																																																		
積立型制度の退職給付債務	78,820百万円																																																																																																																		
年金資産	△66,470百万円																																																																																																																		
	12,349百万円																																																																																																																		
非積立型制度の退職給付債務	11,606百万円																																																																																																																		
未認識数理計算上の差異	421百万円																																																																																																																		
未認識過去勤務費用	△40百万円																																																																																																																		
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,337百万円																																																																																																																		
退職給付引当金	25,951百万円																																																																																																																		
前払年金費用	△1,614百万円																																																																																																																		
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,337百万円																																																																																																																		
勤務費用	3,639百万円																																																																																																																		
利息費用	542百万円																																																																																																																		
期待運用収益	△1,232百万円																																																																																																																		
数理計算上の差異の費用処理額	772百万円																																																																																																																		
過去勤務費用の費用処理額	5百万円																																																																																																																		
確定給付制度に係る退職給付費用	3,726百万円																																																																																																																		
期首における退職給付債務	90,426百万円																																																																																																																		
勤務費用	3,573百万円																																																																																																																		
利息費用	520百万円																																																																																																																		
数理計算上の差異の発生額	△9,156百万円																																																																																																																		
退職給付の支払額	△3,715百万円																																																																																																																		
過去勤務費用の発生額	△6,929百万円																																																																																																																		
期末における退職給付債務	74,720百万円																																																																																																																		
期首における年金資産	66,470百万円																																																																																																																		
期待運用収益	1,229百万円																																																																																																																		
数理計算上の差異の発生額	12,579百万円																																																																																																																		
事業主からの拠出額	918百万円																																																																																																																		
退職給付の支払額	△1,577百万円																																																																																																																		
期末における年金資産	79,620百万円																																																																																																																		
積立型制度の退職給付債務	65,969百万円																																																																																																																		
年金資産	△79,620百万円																																																																																																																		
	△13,650百万円																																																																																																																		
非積立型制度の退職給付債務	8,750百万円																																																																																																																		
未認識数理計算上の差異	22,740百万円																																																																																																																		
未認識過去勤務費用	6,547百万円																																																																																																																		
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,387百万円																																																																																																																		
退職給付引当金	26,701百万円																																																																																																																		
前払年金費用	△2,313百万円																																																																																																																		
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,387百万円																																																																																																																		
勤務費用	3,573百万円																																																																																																																		
利息費用	520百万円																																																																																																																		
期待運用収益	△1,229百万円																																																																																																																		
数理計算上の差異の費用処理額	582百万円																																																																																																																		
過去勤務費用の費用処理額	△341百万円																																																																																																																		
確定給付制度に係る退職給付費用	3,106百万円																																																																																																																		

2022年度末	2023年度末																																												
<p>⑤年金資産の主な内訳 年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>国内株式</td><td style="text-align: right;">45.1%</td></tr> <tr><td>生命保険一般勘定</td><td style="text-align: right;">30.0%</td></tr> <tr><td>国内債券</td><td style="text-align: right;">9.4%</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td style="text-align: right;">8.3%</td></tr> <tr><td>共同運用資産</td><td style="text-align: right;">3.7%</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td style="text-align: right;">3.5%</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">100.0%</td></tr> </table> <p>年金資産合計には、営業職員の退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が38.3%含まれております。</p> <p>⑥長期期待運用収益率の設定方法 年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。</p> <p>⑦数理計算上の計算基礎に関する事項 期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>割引率</td><td style="text-align: right;">0.6%</td></tr> <tr><td>長期期待運用収益率</td><td></td></tr> <tr><td> 確定給付企業年金</td><td style="text-align: right;">3.0%</td></tr> <tr><td> 退職給付信託</td><td style="text-align: right;">0.0%</td></tr> </table> <p>(3)確定拠出制度 当社の確定拠出制度への要拠出額は219百万円であります。</p>	国内株式	45.1%	生命保険一般勘定	30.0%	国内債券	9.4%	外国株式	8.3%	共同運用資産	3.7%	外国債券	3.5%	合計	100.0%	割引率	0.6%	長期期待運用収益率		確定給付企業年金	3.0%	退職給付信託	0.0%	<p>⑤年金資産の主な内訳 年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>国内株式</td><td style="text-align: right;">49.7%</td></tr> <tr><td>生命保険一般勘定</td><td style="text-align: right;">26.1%</td></tr> <tr><td>国内債券</td><td style="text-align: right;">9.1%</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td style="text-align: right;">8.9%</td></tr> <tr><td>共同運用資産</td><td style="text-align: right;">3.1%</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td style="text-align: right;">3.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">100.0%</td></tr> </table> <p>年金資産合計には、営業職員の退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が42.3%含まれております。</p> <p>⑥長期期待運用収益率の設定方法 年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。</p> <p>⑦数理計算上の計算基礎に関する事項 期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>割引率</td><td style="text-align: right;">1.6%</td></tr> <tr><td>長期期待運用収益率</td><td></td></tr> <tr><td> 確定給付企業年金</td><td style="text-align: right;">3.0%</td></tr> <tr><td> 退職給付信託</td><td style="text-align: right;">0.0%</td></tr> </table> <p>(3)確定拠出制度 当社の確定拠出制度への要拠出額は235百万円であります。</p>	国内株式	49.7%	生命保険一般勘定	26.1%	国内債券	9.1%	外国株式	8.9%	共同運用資産	3.1%	外国債券	3.0%	合計	100.0%	割引率	1.6%	長期期待運用収益率		確定給付企業年金	3.0%	退職給付信託	0.0%
国内株式	45.1%																																												
生命保険一般勘定	30.0%																																												
国内債券	9.4%																																												
外国株式	8.3%																																												
共同運用資産	3.7%																																												
外国債券	3.5%																																												
合計	100.0%																																												
割引率	0.6%																																												
長期期待運用収益率																																													
確定給付企業年金	3.0%																																												
退職給付信託	0.0%																																												
国内株式	49.7%																																												
生命保険一般勘定	26.1%																																												
国内債券	9.1%																																												
外国株式	8.9%																																												
共同運用資産	3.1%																																												
外国債券	3.0%																																												
合計	100.0%																																												
割引率	1.6%																																												
長期期待運用収益率																																													
確定給付企業年金	3.0%																																												
退職給付信託	0.0%																																												

注記事項(損益計算書)

2022年度	2023年度																								
<p>1. 子会社等との取引による収益の総額は1,804百万円、費用の総額は9,116百万円であります。</p> <p>2. 有価証券売却益の内訳は、国債等債券7,576百万円、株式等16,946百万円、外国証券30,203百万円、その他29百万円であります。</p> <p>3. 有価証券売却損の内訳は、国債等債券10,732百万円、株式等339百万円、外国証券34,777百万円、その他319百万円であります。</p> <p>4. 有価証券評価損の内訳は、国債等債券593百万円、株式等610百万円、外国証券2,403百万円であります。</p> <p>5. 支払備金戻入額の計算上、差し引かれた出再支払備金戻入額の金額は0百万円、責任準備金繰入額の計算上、足し上げられた出再責任準備金戻入額の金額は1百万円であります。</p> <p>6. 売買目的有価証券運用益の内訳は、利息及び配当金等収入455百万円、売却損2百万円、償還益549百万円、評価損653百万円であります。</p> <p>7. 金銭の信託運用損には、評価損が0百万円含まれております。</p> <p>8. 金融派生商品費用には、評価益が4,130百万円含まれております。</p>	<p>1. 子会社等との取引による収益の総額は2,096百万円、費用の総額は10,727百万円であります。</p> <p>2. 有価証券売却益の内訳は、国債等債券4,527百万円、株式等46,314百万円、外国証券15,564百万円であります。</p> <p>3. 有価証券売却損の内訳は、国債等債券30,091百万円、株式等803百万円、外国証券25,719百万円であります。</p> <p>4. 有価証券評価損の内訳は、国債等債券262百万円、株式等513百万円、外国証券312百万円であります。</p> <p>5. 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額の金額は0百万円、責任準備金繰入額の計算上、足し上げられた出再責任準備金戻入額の金額は2百万円であります。</p> <p>6. 売買目的有価証券運用益の内訳は、利息及び配当金等収入152百万円、売却益1,025百万円、償還損1,510百万円、評価益1,135百万円であります。</p> <p>7. 金銭の信託運用益には、評価益が0百万円含まれております。</p> <p>8. 金融派生商品費用には、評価損が346百万円含まれております。</p> <p>9. 当年度における減損損失に関する事項は、次のとおりであります。</p> <p>(1)資産のグルーピング方法 保険事業の用に供している不動産等については、保険事業全体で一つの資産グループとしております。それ以外の賃貸不動産等及び遊休不動産等については、それぞれの物件ごとに一つの資産グループとしております。</p> <p>(2)減損損失の認識に至った経緯 賃料収入の減少や地価の下落により収益性が著しく低下した一部の賃貸不動産等及び遊休不動産等について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。</p> <p>(3)減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td colspan="2">①賃貸不動産等</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>56百万円</td> </tr> <tr> <td>建物等</td> <td>8百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>64百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">②遊休不動産等</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>107百万円</td> </tr> <tr> <td>建物等</td> <td>485百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>593百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③合計(①+②)</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>163百万円</td> </tr> <tr> <td>建物等</td> <td>494百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>657百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4)回収可能価額の算定方法 回収可能価額は正味売却価額を適用しております。なお、正味売却価額については、鑑定評価額、又は公示価格ないし路線価に基づく評価額を使用しております。</p>	①賃貸不動産等		土地	56百万円	建物等	8百万円	合計	64百万円	②遊休不動産等		土地	107百万円	建物等	485百万円	合計	593百万円	③合計(①+②)		土地	163百万円	建物等	494百万円	合計	657百万円
①賃貸不動産等																									
土地	56百万円																								
建物等	8百万円																								
合計	64百万円																								
②遊休不動産等																									
土地	107百万円																								
建物等	485百万円																								
合計	593百万円																								
③合計(①+②)																									
土地	163百万円																								
建物等	494百万円																								
合計	657百万円																								

2023年度の事業概況
 商品開発と販売商品
 経営に関する諸活動
 当社の概況および組織
 財産の状況
 業務の状況を示す指標等
 特別勘定に関する指標等
 保険会社及び

● 保険業法に基づく会計監査人の監査報告

当社は、保険業法第54条の4第2項第1号の規定に基づき、2023年度の計算書類及びその附属明細書について Moore みらい監査法人の監査を受けており、2024年5月16日付けの監査報告書を受領しております。なお、当誌の財務諸表は、上記の計算書類に基づき記載内容を一部追加・変更するとともに、様式を一部変更して作成しておりますが、この財務諸表そのものについては監査を受けておりません。

5. 保険業法に基づく債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	2022年度末	2023年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	130	110
危険債権	544	508
三月以上延滞債権	-	-
貸付条件緩和債権	561	518
小 計 (対合計比)	1,236 (0.12)	1,137 (0.11)
正常債権	1,032,163	1,021,712
合 計	1,033,399	1,022,850

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。(注1に掲げる債権を除く。)
3. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸付金です。(注1及び2に掲げる債権を除く。)
4. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金です。(注1から3に掲げる債権を除く。)
5. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から4までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

6. 保険金等の支払能力の充実の状況(ソルベンシー・マージン比率)

(単位：百万円)

項目	2022年度末	2023年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	1,836,582	2,265,213
基金等	224,172	226,042
価格変動準備金	177,188	180,566
危険準備金	167,888	208,899
一般貸倒引当金	404	330
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%	481,590	822,613
土地の含み損益×85%	155,499	165,661
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	393,521	396,562
負債性資本調達手段等	241,935	267,260
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	△46,783	△46,783
その他	41,164	44,061
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	323,968	394,956
保険リスク相当額 R ₁	21,405	21,022
第三分野保険の保険リスク相当額 R ₈	10,092	10,116
予定利率リスク相当額 R ₂	21,074	20,037
最低保証リスク相当額 R ₇	—	—
資産運用リスク相当額 R ₃	294,386	365,332
経営管理リスク相当額 R ₄	6,939	8,330
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,133.8%	1,147.0%

(注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。
2. 「控除項目」は子会社であるフコクしんらい生命保険株式会社に対する増資額です。

ソルベンシー・マージン比率について

生命保険会社は、将来の保険金などの支払いに備えて責任準備金を積み立てていますので、一定程度の支払いの増加や金利の低下による収入の減少など「通常予測できる範囲のリスク」については責任準備金の範囲内で対応できます。

ソルベンシー・マージン比率は、生命保険会社が、この「通常予測できる範囲のリスク」を超えて発生する大災害や株価の大暴落などのリスクに対する支払余力を示す、行政監督上の指標であり、ソルベンシー・マージン比率が200%を下回った場合には、監督当局によって早期是正措置がとられます。早期是正措置とは、ソルベンシー・マージン比率の水準などに応じ、監督当局が生命保険会社に対して必要な是正命令などを適時・適切に発動し、早期の経営改善への取組みを促すための制度です。

なお、生命保険会社の健全性は、ソルベンシー・マージン比率のみでなく、本ディスクロージャー誌に掲載されている他の指標も併せて判断すべきものです。

$$\text{ソルベンシー・マージン比率 (\%)} = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額}}{(1/2) \times \text{リスクの合計額}} \times 100$$

ソルベンシー・マージン総額

ソルベンシー・マージン総額は以下の項目の合計額です。

基金等、価格変動準備金、危険準備金、一般貸倒引当金、(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%^{*}、土地の含み損益×85%^{*}、全期チルメル式責任準備金相当額超過額、負債性資本調達手段等、控除項目、その他
^{*}マイナスの場合は100%を計上

ソルベンシー・マージン総額に含まれる主な項目は以下のとおりです。

基金等	貸借対照表上の純資産の部にある「基金等合計」から、「社外流出予定額(基金利息や社員配当準備金繰入額など)」などを除いた金額です。
価格変動準備金	株式などの価格変動の著しい資産について、その価格が将来下落した時に生じる損失に備えるための準備金で、貸借対照表上の負債の部に計上されます。
危険準備金	通常の予測を超える保険金などの支払いの増加や資産運用利回りの低下などに備える準備金で、貸借対照表上の負債の部に計上される「責任準備金」に含まれています。
その他有価証券評価差額金(税効果控除前) 繰延ヘッジ損益(税効果控除前)	その他有価証券の時価と帳簿価額の差額および繰延ヘッジを適用したヘッジ手段に係る損益です。貸借対照表上の「その他有価証券評価差額金」および「繰延ヘッジ損益(その他有価証券に係る部分)」を税引前に換算した金額です。
土地の含み損益	土地の時価と帳簿価額の差額です。貸借対照表上の「土地再評価差額金」および「再評価に係る繰延税金負債」の合計額が含まれます。
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	将来の保険金等の支払いに備えて積み立てている準備金(危険準備金を除く責任準備金)のうち、「全期チルメル式責任準備金相当額」と「保有する保険契約が保険事故未発生のまま消滅したとして計算した支払相当額(解約返戻金相当額)」のいずれか大きい額を超過する額のことです。
負債性資本調達手段等	破綻などが発生した場合の元金返済が、他の一般債権者に対する債務の返済よりも後順位に置かれる旨の劣後特約が付された無担保の貸付金・債券です。債務ではありますが、自己資本に近い性格を有していることから、一定の範囲内でソルベンシー・マージン総額への算入が認められています。

リスクの合計額

リスクの合計額は右記の算式により算出されます。

$$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2 + R_4}$$

ソルベンシー・マージン比率の計算に用いられるリスクは以下のとおりです。

保険リスク相当額 (R ₁)	大災害の発生などにより、保険金支払いが急増するリスク相当額 (ただし、第三分野保険の保険リスク相当額 (R ₈) は除く)
第三分野保険の保険リスク相当額 (R ₈)	医療保険などのいわゆる第三分野保険について給付金などの支払いが急増するリスク相当額
予定利率リスク相当額 (R ₂)	運用環境の悪化により、資産運用利回りが予定利率を下回るリスク相当額
最低保証リスク相当額 (R ₇)	変額保険、変額年金保険の保険金などの最低保証に関するリスク相当額
資産運用リスク相当額 (R ₃)	株価暴落・為替相場の激変などにより資産価値が大幅に下落するリスク、および貸付先企業の倒産などにより貸倒れが急増するリスク相当額
経営管理リスク相当額 (R ₄)	業務の運営上通常の予測を超えて発生しうるリスク相当額

【ご参考】経済価値ベースのソルベンシー比率について

経済価値ベースのソルベンシー比率とは、資産と負債を時価評価したうえで、リスクに対して十分な自己資本が確保できているかを示す保険会社の健全性指標の一つであり、ESR (Economic Solvency Ratio) と呼ばれています。当社では本指標を統合的リスク管理(ERM)のほか、収益管理や配当政策に活用しています。

	2021年度末	2022年度末	2023年度末
ESR	228.9%	233.8%	248.9%

(注)上記は経済価値ベースのソルベンシー比率をすでに導入している欧州の手法に準拠して計算しています。日本でも同様の健全性指標が2025年度に導入される予定です。

当社のESRの水準について

ソルベンシー・マージン比率は20年に1回程度発生するようなリスクを想定しているのに対し、ESRは200年に1回程度発生するようなリスクを想定しています。ESR100%とは、そのようなリスクに対応できる自己資本を備えていることを示しています。

当社のESRは、大震災やパンデミック、世界的金融危機の再来にも十分耐えられる水準となっています。

7. 有価証券等の時価情報(会社計)

(1) 有価証券の時価情報

① 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
売買目的有価証券	141,851	△ 3,015	152,490	19,935

(注) 本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

② 有価証券の時価情報(売買目的有価証券以外)

(単位：百万円)

区 分	2022年度末					2023年度末				
	帳簿 価額	時価	差 損 益			帳簿 価額	時価	差 損 益		
			差益	差損	差益			差損		
満期保有目的の債券	738,300	808,660	70,360	70,424	64	708,320	759,424	51,104	51,104	—
公 社 債	738,300	808,660	70,360	70,424	64	708,320	759,424	51,104	51,104	—
外国公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	—	—	—	—	—	290,573	283,026	△ 7,546	331	7,877
公 社 債	—	—	—	—	—	290,573	283,026	△ 7,546	331	7,877
外国公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の有価証券	4,307,988	4,839,472	531,484	676,027	144,543	4,195,706	5,103,160	907,454	1,055,739	148,285
公 社 債	2,246,987	2,264,856	17,868	99,271	81,402	1,987,603	1,935,087	△ 52,516	82,679	135,195
株 式	352,575	739,891	387,316	389,227	1,911	346,904	928,443	581,539	582,045	506
外国証券	1,574,356	1,675,753	101,396	160,374	58,977	1,717,017	2,045,310	328,292	339,444	11,152
公 社 債	1,169,512	1,184,154	14,642	68,369	53,727	1,292,421	1,445,869	153,447	161,326	7,879
株式等	404,844	491,598	86,754	92,004	5,250	424,596	599,440	174,844	178,117	3,273
その他の証券	134,069	158,971	24,902	27,153	2,251	144,179	194,318	50,138	51,570	1,431
金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	5,046,289	5,648,133	601,844	746,451	144,607	5,194,599	6,145,611	951,012	1,107,175	156,163
公 社 債	2,985,287	3,073,516	88,228	169,695	81,466	2,986,497	2,977,539	△ 8,957	134,115	143,073
株 式	352,575	739,891	387,316	389,227	1,911	346,904	928,443	581,539	582,045	506
外国証券	1,574,356	1,675,753	101,396	160,374	58,977	1,717,017	2,045,310	328,292	339,444	11,152
公 社 債	1,169,512	1,184,154	14,642	68,369	53,727	1,292,421	1,445,869	153,447	161,326	7,879
株式等	404,844	491,598	86,754	92,004	5,250	424,596	599,440	174,844	178,117	3,273
その他の証券	134,069	158,971	24,902	27,153	2,251	144,179	194,318	50,138	51,570	1,431
金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。
2. 市場価格のない株式等および組合等は本表から除いています。

○満期保有目的の債券

(単位：百万円)

区 分	2022年度末			2023年度末		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	724,956	795,381	70,424	708,320	759,424	51,104
公 社 債	724,956	795,381	70,424	708,320	759,424	51,104
外 国 公 社 債	—	—	—	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	13,343	13,279	△ 64	—	—	—
公 社 債	13,343	13,279	△ 64	—	—	—
外 国 公 社 債	—	—	—	—	—	—

○責任準備金対応債券

(単位：百万円)

区 分	2022年度末			2023年度末		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—	71,118	71,449	331
公 社 債	—	—	—	71,118	71,449	331
外 国 公 社 債	—	—	—	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	—	—	—	219,454	211,577	△ 7,877
公 社 債	—	—	—	219,454	211,577	△ 7,877
外 国 公 社 債	—	—	—	—	—	—

○その他有価証券

(単位：百万円)

区 分	2022年度末			2023年度末		
	帳簿価額	貸借対照表計上額	差 額	帳簿価額	貸借対照表計上額	差 額
貸借対照表計上額が帳簿価額を超えるもの	2,457,857	3,133,885	676,027	2,931,246	3,986,986	1,055,739
公 社 債	1,062,280	1,161,552	99,271	971,195	1,053,875	82,679
株 式	334,225	723,453	389,227	340,155	922,201	582,045
外 国 証 券	962,168	1,122,543	160,374	1,504,184	1,843,628	339,444
公 社 債	635,502	703,872	68,369	1,112,825	1,274,151	161,326
株 式 等	326,665	418,670	92,004	391,359	569,476	178,117
その他の証券	99,183	126,337	27,153	115,711	167,281	51,570
金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—	—
買 入 金 銭 債 権	—	—	—	—	—	—
譲 渡 性 預 金	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—
貸借対照表計上額が帳簿価額を超えないもの	1,850,130	1,705,587	△ 144,543	1,264,459	1,116,173	△ 148,285
公 社 債	1,184,706	1,103,304	△ 81,402	1,016,408	881,212	△ 135,195
株 式	18,349	16,438	△ 1,911	6,748	6,242	△ 506
外 国 証 券	612,188	553,210	△ 58,977	212,833	201,681	△ 11,152
公 社 債	534,009	480,282	△ 53,727	179,596	171,717	△ 7,879
株 式 等	78,178	72,928	△ 5,250	33,237	29,964	△ 3,273
その他の証券	34,885	32,634	△ 2,251	28,468	27,037	△ 1,431
金 銭 の 信 託	—	—	—	—	—	—
買 入 金 銭 債 権	—	—	—	—	—	—
譲 渡 性 預 金	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—

- 市場価格のない株式等および組合等の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区 分	2022年度末	2023年度末
子会社・関連会社株式	64,787	64,787
その他の有価証券	36,051	45,922
国内株式	5,709	5,824
外国株式	—	—
その他の	30,341	40,097
合 計	100,838	110,709

(注)内外投資事業組合は、本表の「その他有価証券」のうち「その他」に含めておりますが、内外投資事業組合が保有する「その他有価証券」の評価差額等については、持分相当額(2022年度末3,616百万円、2023年度末6,560百万円)を、貸借対照表価額に含めて計上しています。

責任準備金対応債券について

当社では、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(平成12年11月16日日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)にもとづき、個人保険・個人年金保険及び団体年金保険において保険契約群を指定し、以下のとおり小区分を設定しています。

○次の保険契約を対象とする小区分

- 1983年4月から1993年3月に締結された終身保険のうち保険料払込満了後の契約(払済保険または延長保険に変更した契約、一時払契約及び保険料払込免除後契約を除く)においては、基準日時点の年齢が75歳以下の契約
- 1981年5月から1993年3月に締結された個人年金保険のうち年金支払開始後の契約(妻年金保険買増特約及び確定年金を除く)においては、基準日時点の年齢が70歳以下の契約

○団体年金保険(有期利率保証型確定拠出年金保険を除く)を対象とする小区分

これらの小区分で保有される債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものを「責任準備金対応債券」として分類し、所定の要件を満たしていることを定期的に常勤取締役会が確認しています。

(2)金銭の信託の時価情報

(単位：百万円)

区 分	2022年度末					2023年度末				
	貸借対照表計上額	時価	差 損 益		貸借対照表計上額	時価	差 損 益			
			差益	差損			差益	差損		
金 銭 の 信 託	25,897	25,897	—	—	—	23,502	23,502	—	—	—

- 運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	24,897	△0	22,502	0

- 満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	2022年度末					2023年度末				
	帳簿価額	時価	差 損 益		帳簿価額	時価	差 損 益			
			差益	差損			差益	差損		
満期保有目的の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
責任準備金対応の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
その他の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

(3)デリバティブ取引の時価情報(ヘッジ会計適用分・非適用分の合算値)

定性的情報

①取引の内容

当社が運用対象としている主なデリバティブ取引は以下の通りです。

金利関係：金利スワップ取引、金利スワップション取引
通貨関係：為替先物予約取引、通貨スワップ取引、通貨オプション取引

株式関係：株価指数先物取引、株式先渡取引、株式オプション取引

債券関係：債券先物取引、債券オプション取引

②取組方針

当社は、原則として、保有する現物資産等が抱えるリスクをヘッジする為にデリバティブ取引を活用しています。

③利用目的

当社は、ポートフォリオの市場リスク(金利・株式・為替などの変動により損失を被るリスク)をヘッジする目的でデリバティブ取引を利用しています。なお、ヘッジ会計の適用要件を満たすデリバティブ取引については、ヘッジ会計を適用しています。

④リスクの内容

当社が利用対象としているデリバティブ取引には、市場リスクや信用リスク(取引相手の破綻などにより

契約不履行に陥るリスク)がありますが、利用目的から、市場リスクについては限定的であるとともに、信用リスクについても、取引所を通じた取引や信用度の高い取引先を選別した店頭取引により大きなものにはならないと認識しています。

⑤リスク管理体制

当社では、資産運用リスク管理規程においてデリバティブ取引の種類ごとにポジション制限を定め、デリバティブ取引の利用がヘッジを目的としたものになっているか、投融資執行部門から独立した資産運用リスク管理部門が日々モニタリングを行っています。また、デリバティブ取引の市場リスク量については、保有する現物資産等のリスク量と合わせて定量的に把握・分析し、資産運用リスク管理委員会が厳正に管理しています。

⑥定量的情報に関する補足説明

定量的情報に示される契約額などに対応する現物資産等の残高を比較することで、デリバティブ取引に係るおおよそのリスク低減効果を把握することができます。なお、デリバティブ取引は市場リスクをヘッジする目的で利用していることから、その差損益については、保有する現物資産等の差損益と合わせて見る必要があります。

定量的情報

①差損益の内訳(ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位：百万円)

2022年度末	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合計
ヘッジ会計適用分	—	△ 840	—	—	—	△ 840
ヘッジ会計非適用分	47	△ 561	△ 31	△ 137	—	△ 683
合計	47	△ 1,402	△ 31	△ 137	—	△ 1,524
2023年度末	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合計
ヘッジ会計適用分	—	—	—	—	—	—
ヘッジ会計非適用分	—	△ 940	△ 89	—	—	△ 1,029
合計	—	△ 940	△ 89	—	—	△ 1,029

(注)ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益(2022年度末：通貨関連 △ 840百万円)、およびヘッジ会計非適用分の差損益は、損益計算書に計上しています。

②ヘッジ会計が適用されていないもの

○金利関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末			2023年度末				
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
		うち1年超				うち1年超			
店頭	国内金利スワップション								
	売建								
	固定金利受取／	—	—	—	—	—	—	—	
	変動金利支払	(—)	—	—	(—)	—	—	—	
	固定金利支払／	—	—	—	—	—	—	—	
	変動金利受取	(—)	—	—	(—)	—	—	—	
	買建								
	固定金利受取／	—	—	—	—	—	—	—	
変動金利支払	(—)	—	—	(—)	—	—	—		
固定金利支払／	30,000	—	—	—	—	—	—		
変動金利受取	(63)	—	110	47	(—)	—	—		
合計				47			—		

(注)括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

○通貨関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末			2023年度末				
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
		うち1年超				うち1年超			
店頭	為替予約								
	売建	46,036	—	46,240	△ 204	25,337	—	25,768	△ 430
	(米ドル)	29,035	—	29,202	△ 166	15,972	—	16,247	△ 274
	(豪ドル)	11,171	—	11,131	40	9,104	—	9,261	△ 156
	(ユーロ)	—	—	—	—	94	—	94	0
	(英ポンド)	—	—	—	—	89	—	89	△ 0
	(カナダドル)	5,829	—	5,906	△ 77	—	—	—	—
	(その他)	—	—	—	—	76	—	76	0
	買建	—	—	—	—	722	—	721	△ 0
	(米ドル)	—	—	—	—	461	—	461	△ 0
	(ユーロ)	—	—	—	—	96	—	96	△ 0
	(英ポンド)	—	—	—	—	87	—	87	0
	(その他)	—	—	—	—	77	—	77	△ 0
	通貨オプション								
	売建								
	コール	(—)	—	—	—	(—)	—	—	—
	プット	(—)	—	—	—	(—)	—	—	—
	買建								
	コール	(—)	—	—	—	(—)	—	—	—
	プット	30,650	—	—	—	36,960	—	—	—
(米ドル)	(475)	—	118	△ 357	(536)	—	26	△ 509	
(豪ドル)	(475)	—	118	△ 357	(515)	—	25	△ 490	
(ユーロ)	—	—	—	—	1,860	—	—	—	
(その他)	(—)	—	—	—	(20)	—	1	△ 18	
合計				△ 561				△ 940	

(注) 1. 年度末の為替相場は先物相場を使用しています。

2. 括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

○株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末			2023年度末				
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
		うち1年超				うち1年超			
取引所	株価指数オプション								
	売 建								
	コール	—	—	—	—	—	—	—	
	(ー)	(ー)	—	—	(ー)	—	—	—	
	プット	—	—	—	—	—	—	—	
	(ー)	(ー)	—	—	(ー)	—	—	—	
買 建									
コール	—	—	—	—	—	—	—		
(ー)	(ー)	—	—	(ー)	—	—	—		
プット	8,800	—	8	△ 31	6,150	—	0	△ 89	
(39)	(90)	—	—	—	(90)	—	—	—	
合 計				△ 31				△ 89	

(注)括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

○債券関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末			2023年度末				
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
		うち1年超				うち1年超			
取引所	国内債券先物								
	売 建	7,268	—	7,406	△ 137	—	—	—	
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	
	外国債券先物								
売 建	—	—	—	—	—	—	—		
買 建	—	—	—	—	—	—	—		
合 計				△ 137			—		

③ヘッジ会計が適用されているもの

○金利関連

2022年度末、2023年度末とも保有していません。

○通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ 会計の 方法	種類	主なヘッジ 対象	2022年度末			2023年度末			
			契約額等		時価	主なヘッジ 対象	契約額等		時価
			うち1年超				うち1年超		
時 価 ヘ ッ ジ	為替予約	外貨建債券							
	売 建		191,105	—	191,946	—	—	—	
	(米ドル)		111,539	—	112,485	—	—	—	
	(豪ドル)		53,684	—	52,860	—	—	—	
	(ユーロ)		14,743	—	15,102	—	—	—	
	(スウェーデン・クローナ)		8,758	—	9,020	—	—	—	
買 建			2,379	—	2,477	—	—		
(英ポンド)			—	—	—	—	—		
合 計									

(注) 1. 年度末の為替相場は先物相場を使用しています。

2. 外貨建金銭債権債務等が為替予約等が付されていることにより、決済時における円貨額が確定している外貨建金銭債権債務等で、貸借対照表において当該円貨額で表示されているものについては、開示の対象より除いています。

○株式関連

2022年度末、2023年度末とも保有していません。

○債券関連

2022年度末、2023年度末とも保有していません。

8. 経常利益等の明細(基礎利益)

(単位：百万円)

	2022年度	2033年度
基礎利益	47,297	93,019
キャピタル収益	76,986	73,087
金銭の信託運用益	—	1,087
売買目的有価証券運用益	—	650
有価証券売却益	54,756	66,405
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	2,525
その他キャピタル収益	22,230	2,418
キャピタル費用	70,157	64,053
金銭の信託運用損	299	—
売買目的有価証券運用損	106	—
有価証券売却損	46,169	56,613
有価証券評価損	3,608	1,089
金融派生商品費用	11,221	7,349
為替差損	8,231	—
その他キャピタル費用	521	△ 999
キャピタル損益	6,829	9,034
キャピタル損益含み基礎利益	54,126	102,053
臨時収益	3,608	42
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	—	—
個別貸倒引当金戻入額	208	42
その他臨時収益	3,400	—
臨時費用	25,223	52,738
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	12,430	41,011
個別貸倒引当金繰入額	—	—
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
その他臨時費用	12,792	11,727
臨時損益	△ 21,614	△ 52,696
経常利益	32,512	49,357

(参考)その他項目の内訳

(単位：百万円)

	2022年度	2033年度
基礎利益	△ 21,116	△ 3,167
金銭の信託運用損益のうち利息及び配当金等収入に該当する額	137	97
売買目的有価証券運用損益のうち利息及び配当金等収入に該当する額	455	152
為替差損益のうち為替に係るヘッジコスト	△ 10,712	△ 999
利息及び配当金等収入及びその他運用費用のうち投資信託解約損益	521	△ 47
有価証券償還損益のうち為替変動部分	△ 11,517	△ 2,371
その他キャピタル収益	22,230	2,418
為替差損のうち為替に係るヘッジコスト	10,712	—
利息及び配当金等収入及びその他運用費用のうち投資信託解約損益	—	47
有価証券償還損益のうち為替変動部分	11,517	2,371
その他キャピタル費用	521	△ 999
為替差益のうち為替に係るヘッジコスト	—	△ 999
利息及び配当金等収入及びその他運用費用のうち投資信託解約損益	521	—
その他臨時収益	3,400	—
保険金等支払引当金戻入額	3,400	—
その他臨時費用	12,792	11,727
保険業法施行規則第69条第5項に基づく責任準備金の繰入額	12,792	11,727

基礎利益の内訳(三利源)

(単位：億円)

	2022年度	2033年度
基礎利益	472	930
費差	△ 236	△ 245
危険差	290	579
利差	418	595

業務の状況を示す指標等

主要な業務の状況を示す指標等

1. 保有契約高及び新契約高

(1) 保有契約高

(単位：件、百万円、%)

区 分	2022年度末				2023年度末			
	件 数		金 額		件 数		金 額	
		前年度末比		前年度末比		前年度末比		前年度末比
個 人 保 険	3,159,957	99.8	22,173,474	99.1	3,130,654	99.1	21,688,553	97.8
個 人 年 金 保 険	562,206	96.3	2,172,211	95.7	539,067	95.9	2,069,846	95.3
個人保険+個人年金保険	3,722,163	99.3	24,345,685	98.8	3,669,721	98.6	23,758,399	97.6
団 体 保 険	—	—	17,279,029	99.6	—	—	17,397,256	100.7
団 体 年 金 保 険	—	—	2,304,827	100.7	—	—	2,330,614	101.1

- (注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資、年金支払開始後契約の責任準備金及び個人年金保険に付加されている定期保険特約等の金額を合計したものです。
2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

(2) 新契約高

(単位：件、百万円、%)

区 分	新契約+転換による純増加						
	件 数		金 額				
		前年度比		前年度比	新契約	転換による純増加	
2022年度	個 人 保 険	323,752	94.1	1,389,919	86.9	1,102,388	287,530
	個 人 年 金 保 険	6,917	87.5	19,803	88.6	20,613	△ 810
	個人保険+個人年金保険	330,669	93.9	1,409,722	86.9	1,123,002	286,720
	団 体 保 険	—	—	11,665	73.5	11,665	—
2023年度	個 人 保 険	340,222	105.1	1,150,203	82.8	1,070,175	80,028
	個 人 年 金 保 険	5,932	85.8	16,494	83.3	17,235	△ 741
	個人保険+個人年金保険	346,154	104.7	1,166,698	82.8	1,087,410	79,287
	団 体 保 険	—	—	82,187	704.6	82,187	—
団 体 年 金 保 険	—	—	10	0.1	10	—	

- (注) 1. 件数は、新契約に転換後契約を加えた数値です。
2. 新契約・転換による純増加の個人年金保険の金額は、年金支払開始時における年金原資と個人年金保険に付加されている定期保険特約等の金額を合計したものです。
3. 新契約の団体年金保険の金額は、第1回収入保険料です。

2. 年換算保険料

(1) 保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	2022年度末		2023年度末	
		前年度末比		前年度末比
個 人 保 険	262,989	99.7	260,961	99.2
個 人 年 金 保 険	106,600	97.5	103,867	97.4
合 計	369,589	99.0	364,828	98.7
「うち医療保障・生前給付保障等」	116,466	100.9	116,753	100.2

(2) 新契約

(単位：百万円、%)

区 分	2022年度		2023年度	
		前年度比		前年度比
個 人 保 険	13,601	105.7	13,642	100.3
個 人 年 金 保 険	561	87.9	467	83.4
合 計	14,162	104.9	14,110	99.6
「うち医療保障・生前給付保障等」	7,020	99.9	6,599	94.0

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。
2. 「うち医療保障・生前給付保障等」については、医療保障(入院、手術等)、生前給付保障(介護、生活障害等)、保険料払込免除(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。
3. 新契約には、転換による純増加を含んでいます。

3. 商品別新契約・年度末保有契約高

(単位:件、百万円、%)

区 分	新 契 約				保 有 契 約				
	件数	占率	金額	占率	件数	占率	金額	占率	
死 亡 保 險	終 身 保 險	(—)	(—)	(—)	(—)	218,205	7.0	936,554	4.3
	一時払退職後終身保険	—	—	—	—	1,463	0.0	8,603	0.0
	定期付終身保険	(—)	(—)	(—)	(—)	18,901	0.6	285,974	1.3
	定期保険	807	0.2	13,030	0.4	15,663	0.5	244,348	1.1
	定期保険(低払戻金型)	—	—	—	—	579	0.0	13,112	0.1
	医療保険	161,534	47.5	—	—	1,339,369	42.8	95,824	0.4
	家族定期特約	(—)	(—)	(—)	(—)	5,125	0.2	20,768	0.1
	教育資金保障特約	—	—	—	—	1,620	0.1	7,597	0.0
	死亡保険計	(162,341)	(47.7)	(13,030)	(0.4)	1,594,180	50.9	1,612,782	7.4
		162,341	47.7	13,030	0.4				
個 人 保 險	特約組立型総合保険	(149,117)	(43.8)	(2,960,333)	(97.3)	872,699	27.9	17,386,731	80.2
		51,532	15.1	987,281	32.4				
	積立型介護保険	(—)	(—)	(—)	(—)	28,422	0.9	42,181	0.2
	定期付積立型介護保険	(—)	(—)	(—)	(—)	81,473	2.6	1,353,284	6.2
	介護保障保険	—	—	—	—	7,277	0.2	34,665	0.2
	介護保障定期保険	(—)	(—)	(—)	(—)	5,571	0.2	22,973	0.1
		—	—	—	—				
	養老保険	(4,616)	(1.4)	(15,513)	(0.5)	26,609	0.8	87,263	0.4
		4,616	1.4	15,513	0.5				
	定期付養老保険	(—)	(—)	(—)	(—)	3,853	0.1	40,649	0.2
	—	—	—	—					
マイホーム保険	—	—	—	—	347	0.0	258	0.0	
生存給付金付定期保険	—	—	—	—	3,696	0.1	26,156	0.1	
介護保障定期特約(妻型)	(—)	(—)	(—)	(—)	4,232	0.1	15,853	0.1	
	—	—	—	—					
生死混合保険計	(153,733)	(45.2)	(2,975,846)	(97.8)	1,029,947	32.9	19,010,016	87.6	
	56,148	16.5	1,002,794	33.0					
生 存 保 險	学資保険	24,148	7.1	54,350	1.8	506,527	16.2	1,063,948	4.9
	生存給付金付新傷害特約	(—)	(—)	(—)	(—)	725	0.0	412	0.0
		—	—	—	—				
	女性疾病特約	(—)	(—)	(—)	(—)	5,155	0.2	1,393	0.0
	—	—	—	—					
生存保険計	(24,148)	(7.1)	(54,350)	(1.8)	506,527	16.2	1,065,754	4.9	
	24,148	7.1	54,350	1.8					
個人保険計	(340,222)	(100.0)	(3,043,226)	(100.0)	3,130,654	100.0	21,688,553	100.0	
	242,637	71.3	1,070,175	35.2					

2023年度の事業概況

商品開発と販売商品

経営に関する諸活動

当社の概況および組織

財産の状況

業務の状況を示す指標等

特別勘定に関する指標等

保険会社及びその子会社等の状況

(単位：件、百万円)

区 分	新 契 約		保 有 契 約		
	件 数	金 額	件 数	金 額	
個人年金保険	個人年金保険	—	—	369,255	1,619,225
	災害給付金付個人年金保険	5,932	17,235	168,219	436,193
	変額年金保険	—	—	2	0
	収入保障年金	—	—	388	3,212
	就業不能年金	—	—	493	1,707
	介護収入保障年金	—	—	107	288
	介護年金	—	—	65	—
	介護終身年金	—	—	41	496
	年金特約	—	—	497	8,722
個人年金保険計	5,932	17,235	539,067	2,069,846	
団体保険	団体定期保険	19,122	75,253	5,636,458	2,728,072
	総合福祉団体定期保険	3,717	6,933	1,919,608	2,303,844
	団体信用生命保険	—	—	10,337,050	12,339,463
	心身障害者扶養者生命保険	—	—	35,841	24,349
	年金払特約	—	—	4,499	1,526
	団体保険計	22,839	82,187	17,897,615	17,397,256
団体年金保険	確定給付企業年金保険	—	10	—	727,532
	新企業年金保険	—	—	6,788,040	180,931
	拋出型企業年金保険	—	—	2,291,726	1,063,885
	確定拋出年金保険	—	0	—	38,843
	厚生年金基金保険	—	—	229,559	190,800
	団体生存保険	—	—	—	128,620
団体年金保険計	—	10	9,309,325	2,330,614	
財形保険	財形貯蓄保険	—	—	6,990	26,421
	財形住宅貯蓄積立保険	—	—	590	2,165
	財形給付金保険	—	—	172	5
	財形保険計	—	—	7,752	28,592
財形年金	財形年金保険	—	—	100	201
	財形年金積立保険	—	—	2,823	6,483
	財形年金保険計	—	—	2,923	6,684
団体医療保障保険	1,301	5	149,208	79	
団体就業不能保障保険	—	—	6,978	105	

(注) 1. 新契約上段の()内は、新契約に転換後契約を加えた数値です。

2. 家族定期特約、教育資金保障特約、介護保障定期保険特約<妻型>、生存給付金付新傷害特約、女性疾病特約、心身障害者扶養者生命保険の件数は、計には含んでいません。

3. 団体保険、団体年金保険、財形保険、財形年金保険、団体医療保障保険、団体就業不能保障保険の件数は被保険者数を表します。

4. 個人年金保険の金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資、年金支払開始後契約の責任準備金及び個人年金保険に付加されている定期保険特約等の金額を合計したものを表します。

5. 団体保険(年金払特約)、財形年金保険の金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資(財形年金積立保険については責任準備金)と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものを表します。

6. 団体年金保険、財形保険、財形年金積立保険の新契約金額は第1回収入保険料、保有金額は責任準備金を表します。

7. 団体医療保障保険の金額は、入院給付日額を表します。

8. 団体就業不能保障保険の金額は、就業不能保険金月額を表します。

4. 保障機能別保有契約高

(単位：百万円)

区 分		保 有 金 額		
		2022年度末	2023年度末	
死亡保障	普通死亡	個人保険	14,226,878	13,666,519
		個人年金保険	40,599	36,957
		団体保険	17,277,411	17,395,730
		団体年金保険	—	—
		その他共計	31,544,889	31,099,207
	災害死亡	個人保険	(1,176,005)	(1,083,318)
		個人年金保険	(24,034)	(22,443)
		団体保険	(506,203)	(482,150)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(1,706,243)	(1,587,911)
	その他の条件付死亡	個人保険	(—)	(—)
		個人年金保険	(—)	(—)
団体保険		(606)	(592)	
団体年金保険		(—)	(—)	
その他共計		(606)	(592)	
生存保障	満期・生存給付	個人保険	4,720,951	4,549,169
		個人年金保険	1,721,588	1,626,847
		団体保険	64	72
		団体年金保険	—	—
		その他共計	6,446,528	6,179,682
	年金	個人保険	(—)	(—)
		個人年金保険	(279,931)	(269,465)
		団体保険	(241)	(229)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(280,697)	(270,215)
	その他	個人保険	—	—
		個人年金保険	408,537	404,333
団体保険		1,554	1,453	
団体年金保険		2,304,827	2,330,614	
その他共計		2,747,487	2,768,085	
入院保障	災害入院	個人保険	(8,266)	(8,255)
		個人年金保険	(—)	(—)
		団体保険	(267)	(250)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(8,610)	(8,585)
	疾病入院	個人保険	(8,264)	(8,253)
		個人年金保険	(—)	(—)
		団体保険	(—)	(—)
		団体年金保険	(—)	(—)
		その他共計	(8,341)	(8,333)
	その他の条件付入院	個人保険	(8,003)	(7,146)
		個人年金保険	(—)	(—)
団体保険		(0)	(0)	
団体年金保険		(—)	(—)	
その他共計		(8,005)	(7,147)	
就業不能保障	個人保険	3,225,643	3,472,864	
	個人年金保険	1,486	1,707	
	団体保険	—	—	
	団体年金保険	—	—	
	その他共計	3,227,227	3,474,677	

(注) 1. ()内数値は、主契約の付随保障部分及び特約の保障を表します。ただし、定期特約の普通死亡保障は主要保障部分に記載しました。

2. 生存保障の満期・生存給付欄の金額は、生存給付金額、生存保険金額及び介護保険金額を合計したものを表します。ただし、個人年金保険、団体保険(年金払特約)については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資を表します。

3. 生存保障の年金欄の金額は、年金年額を表します。

4. 生存保障のその他欄の金額は、個人年金保険(年金支払開始後)、団体保険(年金払特約年金支払開始後)、団体年金保険の責任準備金を表します。

5. 入院保障欄の金額は、入院給付日額を表します。ただし、入院一時給付の保障がある医療保険については、付加される特約も含めて入院日額に換算した数値を記載しています。

6. 入院保障の疾病入院のその他共計の金額は、主要保障部分と付随保障部分の合計を表します。

7. 就業不能保障欄の金額は、個人保険については就業不能保障特約の年金支払開始時における年金原資、個人年金保険については同特約の年金支払開始後契約の責任準備金を表します。

2023年度の事業概況

商品開発と販売商品

経営に関する諸活動

当社の概況および組織

財産の状況

業務の状況を示す指標等

特別勘定に関する指標等

その子会社等の状況

(単位：件)

区 分		保 有 件 数	
		2022年度末	2023年度末
障 害 保 障	個 人 保 険	1,321,275	1,300,433
	個 人 年 金 保 険	2,262	2,104
	団 体 保 険	1,049,647	1,026,859
	団 体 年 金 保 険	—	—
	そ の 他 共 計	2,373,184	2,329,396
手 術 保 障	個 人 保 険	3,056,008	2,784,455
	個 人 年 金 保 険	—	—
	団 体 保 険	—	—
	団 体 年 金 保 険	—	—
	そ の 他 共 計	3,060,304	2,789,000

5. 個人保険及び個人年金保険契約種類別保有契約高

(単位：百万円)

区 分			保 有 金 額	
			2022年度末	2023年度末
個 人 保 険	死 亡 保 険	終 身 保 険	968,256	945,157
		定 期 終 身 保 険	338,761	285,974
		定 期 保 険	268,791	257,460
		そ の 他 共 計	1,718,157	1,612,782
	生 死 混 合 保 険	養 老 保 険	86,544	87,263
		定 期 付 養 老 保 険	51,516	40,649
		生 存 給 付 金 付 定 期 保 険	37,787	26,156
		特 約 組 立 型 総 合 保 険	17,431,927	17,386,731
		積 立 型 介 護 保 険	42,034	42,181
		定 期 付 積 立 型 介 護 保 険	1,652,391	1,353,284
		介 護 保 障 定 期 保 険	26,322	22,973
		こ ど も 進 学 保 険	666	—
	そ の 他 共 計	19,385,242	19,010,016	
	生 存 保 険	学 資 保 険	1,067,785	1,063,948
		そ の 他 共 計	1,070,074	1,065,754
個 人 年 金 保 険		個 人 年 金 保 険	2,158,683	2,055,418
		そ の 他 共 計	2,172,211	2,069,846
災 害 疾 病 関 係 特 約		災 害 保 障 特 約	85	70
		傷 害 特 約	871,177	810,604
		災 害 割 増 特 約	263,889	240,610
		災 害 入 院 特 約	167	150
		疾 病 入 院 特 約	165	149
		成 人 病 特 約	891	731
		生 活 習 慣 病 特 約	1,399	1,210
		が ん 入 院 特 約	4,583	3,883
		女 性 医 療 特 約	818	694
		入 院 時 療 養 特 約	69	62
		通 院 特 約	65	58
		長 期 入 院 特 約	34	32
		入 院 初 期 給 付 特 約	3,243	2,873
		特 定 損 傷 特 約	40,813	40,417
		先 進 医 療 特 約	21,154,160	21,032,685
		移 植 医 療 特 約	6,061,930	5,996,100
		生 活 習 慣 病 入 院 特 約	7,096	14,048
		女 性 疾 病 入 院 特 約	2,828	5,749
		が ん 診 断 治 療 特 約	87,001	163,797
		生 活 習 慣 病 重 症 化 予 防 特 約	287	369
女 性 疾 病 重 症 化 予 防 特 約	294	401		
重 度 生 活 習 慣 病 治 療 特 約	43,444	86,803		

(注) 1. 個人年金保険の保有金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資、年金支払開始後契約の責任準備金及び個人年金保険に付加されている定期保険特約等の金額を合計したものを表します。

2. 災害疾病関係特約の保有金額について、災害入院特約、疾病入院特約、成人病特約、生活習慣病特約、がん入院特約、女性医療特約及び長期入院特約は入院給付金日額、入院時療養特約は特約基準給付金額、通院特約は通院給付金日額、入院初期給付特約は入院初期給付金額、特定損傷特約は特定損傷給付金額、先進医療特約及び移植医療特約は特約基本保険金額、生活習慣病入院特約、女性疾病入院特約、がん診断治療特約、生活習慣病重症化予防特約、女性疾病重症化予防特約及び重度生活習慣病治療特約は特約給付金額を表します。

3. 生活習慣病特約に付加された退院後療養給付特則及びがん入院特約に付加された3大疾病治療給付特則の特則給付金額は含まれていません。

6. 個人保険及び個人年金保険契約種類別保有契約年換算保険料

(単位：百万円)

区 分			保有契約年換算保険料	
			2022年度末	2023年度末
個人 保 険	死 亡 保 険	終 身 保 険	19,608	18,478
		定 期 保 険	4,319	4,131
		そ の 他 共 計	110,459	109,827
	生 死 混 合 保 険	養 老 保 険	8,736	9,672
		生 存 給 付 金 付 定 期 保 険	507	359
		特 約 組 立 型 総 合 保 険	77,792	77,295
		積 立 型 介 護 保 険	12,017	10,465
		介 護 保 障 定 期 保 険	567	504
		こ ど も 進 学 保 険	49	—
	そ の 他 共 計	101,182	99,731	
生 存 保 険	学 資 保 険	51,324	51,385	
	そ の 他 共 計	51,347	51,403	
個 人 年 金 保 険	個 人 年 金 保 険	104,111	101,256	
	そ の 他 共 計	106,600	103,867	

- (注) 1. 死亡保険の終身保険欄の金額は、終身保険及び定期付終身保険を合計したものを表します。
 2. 生死混合保険の養老保険欄の金額は、養老保険及び定期付養老保険を合計したものを表します。
 3. 生死混合保険の積立型介護保険欄の金額は、積立型介護保険及び定期付積立型介護保険を合計したものを表します。

7.異動状況の推移

①個人保険

(単位:件、百万円、%)

区 分	2022年度		2023年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額
年 始 現 在	3,165,501	22,380,905	3,159,957	22,173,474
新 契 約	239,552	1,102,388	242,637	1,070,175
更 新	19,482	98,243	18,629	95,330
復 活	986	7,538	1,113	7,998
転換による増加	84,200	1,927,313	97,585	1,973,051
死 亡	9,981	46,226	10,267	46,428
満 期	40,324	283,017	42,541	269,936
保険金額の減少	7,094	126,306	8,006	126,986
転換による減少	161,698	1,639,782	188,979	1,893,022
解 約	124,629	957,930	133,065	993,962
失 効	12,399	111,319	13,471	118,582
その他の異動による減少	733	178,332	944	182,556
年 末 現 在	3,159,957	22,173,474	3,130,654	21,688,553
(増 加 率)	(△ 0.2)	(△ 0.9)	(△ 0.9)	(△ 2.2)
純 増 加	△ 5,544	△ 207,431	△ 29,303	△ 484,920
(増 加 率)	(—)	(—)	(—)	(—)

(注)金額は、死亡保険、生死混合保険、生存保険の主要保障部分の数値の合計です。

②個人年金保険

(単位:件、百万円、%)

区 分	2022年度		2023年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額
年 始 現 在	583,891	(290,308) 2,269,208	562,206	(280,524) 2,172,211
新 契 約	6,917	(2,325) 20,613	5,932	(1,937) 17,235
復 活	6	17	2	5
転換による増加	—	—	—	—
死 亡	1,194	4,432	1,182	4,536
支 払 満 了	12,004	—	12,060	—
金額の減少	577	2,175	661	2,326
転換による減少	213	810	212	741
解 約	9,916	36,813	11,410	42,229
失 効	124	405	119	457
その他の異動による減少	5,157	72,991	4,090	69,316
年 末 現 在	562,206	(280,524) 2,172,211	539,067	(270,020) 2,069,846
(増 加 率)	(△ 3.7)	(△ 4.3)	(△ 4.1)	(△ 4.7)
純 増 加	△ 21,685	△ 96,997	△ 23,139	△ 102,365
(増 加 率)	(—)	(—)	(—)	(—)

(注) 1. 金額は、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資、年金支払開始後契約の責任準備金及び個人年金保険に付加されている定期保険特約等の金額の合計です。

2. ()内の金額は、年金年額です。

③ 団体保険

(単位: 件、百万円、%)

区 分	2022年度		2023年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額
年 始 現 在	18,233,142	17,340,726	18,075,914	17,279,029
新 契 約	19,356	11,665	22,839	82,187
更 新 活	18,000,786	17,176,554	17,986,393	17,280,548
復 活	—	—	—	—
中 途 加 入	946,026	1,259,257	826,487	1,150,298
保 険 金 額 の 増 加	42,610	17,371	39,559	25,067
死 亡	36,063	25,104	35,768	25,254
満 期	18,087,676	17,350,705	18,066,232	17,313,311
脱 退	977,713	644,510	973,014	658,466
保 険 金 額 の 減 少	37,104	441,887	34,058	420,436
解 約	9,526	8,588	1,876	2,170
失 効	10	20	66	279
その他の異動による減少	12,408	55,515	△ 62,938	△ 248
年 末 現 在	18,075,914	17,279,029	17,897,615	17,397,256
(増 加 率)	(△ 0.9)	(△ 0.4)	(△ 1.0)	(0.7)
純 増 加	△ 157,228	△ 61,696	△ 178,299	118,226
(増 加 率)	(—)	(—)	(—)	(—)

(注) 1. 金額は、死亡保険、生死混合保険、年金特約の主要保障部分の数値の合計です。
2. 件数は、被保険者数を表します。

④ 団体年金保険

(単位: 件、百万円、%)

区 分	2022年度		2023年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額
年 始 現 在	9,387,061	2,289,863	9,336,353	2,304,827
新 契 約	17	16,433	—	10
年 金 支 払	2,079,302	53,455	2,056,462	53,787
一 時 金 支 払	203,892	122,483	516,455	100,439
解 約	19	1,903	26	3,128
年 末 現 在	9,336,353	2,304,827	9,309,325	2,330,614
(増 加 率)	(△ 0.5)	(0.7)	(△ 0.3)	(1.1)
純 増 加	△ 50,708	14,963	△ 27,028	25,787
(増 加 率)	(—)	(△ 48.1)	(—)	(72.3)

(注) 1. 年始現在、年末現在の金額は、責任準備金です。
2. 新契約は、第1回収入保険料です。
3. 件数は、被保険者数を表します。

保険契約に関する指標等

1. 保有契約増加率(金額)

(単位：%)

区分	2022年度	2023年度
個人保険	△ 0.9	△ 2.2
個人年金保険	△ 5.3	△ 5.6
団体保険	△ 0.4	0.7
団体年金保険	0.7	1.1

(注)個人年金保険については、年金開始前の契約により算出しました。

2. 個人保険平均保険金額(新契約・保有契約)

(単位：千円)

区分	2022年度	2023年度
新契約	4,601	4,410
保有契約	7,017	6,927

(注)新契約には、転換契約は含んでいません。

3. 対年始、新契約率・解約失効率

(単位：%)

区分		2022年度	2023年度
新契約率	個人保険	4.9	4.8
	個人年金保険	1.1	1.0
	団体保険	0.1	0.5
解約失効率	個人保険	5.3	5.6
	個人年金保険	2.1	2.6
	団体保険	2.5	2.3

(注) 1. 新契約率には、転換契約は含んでいません。
 2. 解約失効率は、(解約+失効-復活+減額-増額)/年始保有で計算しました。
 3. 個人年金保険については、年金開始前の契約により算出しました。

4. 個人保険新契約平均保険料(月払契約)

(単位：円)

区分	2022年度	2023年度
平均保険料	6,203	6,869

(注)転換契約は含んでいません。

5. 個人保険死亡率(件数率・金額率)

(単位：‰)

区分	2022年度	2023年度
件数率	3.15	3.26
金額率	2.07	2.11

(注)死亡率は、死亡/{(年始保有+年末保有+死亡)/2}で計算しました。

6. 個人保険及び個人年金保険特約区分別発生率(件数率・金額率)

(単位：‰)

区分		2022年度	2023年度
災害死亡保障契約	件数率	0.15	0.11
	金額率	0.25	0.18
障害保障契約	件数率	0.24	0.26
	金額率	0.10	0.10
災害入院保障契約	件数率	6.22	7.58
	金額率	226.61	231.37
疾病入院保障契約	件数率	153.43	96.55
	金額率	2,493.73	1,931.93
成人病入院保障契約	件数率	44.16	45.77
	金額率	1,061.90	1,002.17
疾病・傷害手術保障契約	件数率	110.80	115.75
成人病手術保障契約	件数率	29.93	32.02

(注) 1. 被保険者本人への給付に対する発生率です。
 2. 災害死亡保障契約からは「その他の条件付死亡」に分類される特約を除きました。
 3. 発生率は、以下のとおり計算しました。
 災害死亡保障契約：災害死亡/{(年始保障+年末保障+災害死亡)/2}
 上記以外の契約：支払/{(年始保障+年末保障)/2}

(参考)医療保険及び医療保険に付加された特約も含めた場合は、以下の通りになります。

(単位：%)

区 分		2022年度	2023年度
災害入院保障契約	件数率	4.98	5.56
	金額率	99.17	112.59
疾病入院保障契約	件数率	239.59	70.51
	金額率	3,307.78	971.31
成人病入院保障契約	件数率	22.04	25.31
	金額率	458.13	528.06
疾病・傷害手術保障契約	件数率	60.10	66.76
成人病手術保障契約	件数率	11.30	12.97

- (注) 1. 災害入院保障契約及び疾病入院保障契約の支払には、医療保険の入院見舞給付金を含めていません。
 2. 成人病入院保障契約及び成人病手術保障契約には、生活習慣病特約を含めています。
 3. 入院一時給付のある医療保険及び医療保険に付加された特約は、含めていません。

7. 事業費率(対収入保険料)

(単位：%)

2022年度	2023年度
17.2	18.8

8. 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の数

(単位：社)

2022年度	2023年度
4	4

9. 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた保険会社等のうち、支払再保険料の額が大きい上位5社に対する支払再保険料の割合

(単位：%)

2022年度	2023年度
100.0	100.0

10. 保険契約を再保険に付した場合における、再保険を引き受けた主要な保険会社等の格付機関による格付に基づく区分ごとの支払再保険料の割合

(単位：%)

格付区分	2022年度	2023年度
AA+	59.4	64.1
AA-	40.6	35.9

(注) 格付は各事業年度末時点におけるスタンダード&プアーズ社による保険財務力格付であります。

11. 未だ収受していない再保険金の額

(単位：百万円)

2022年度	2023年度
15	8

12. 第三分野保険の給付事由又は保険種類の区分ごとの、発生保険金額の経過保険料に対する割合

(単位：%)

	2022年度	2023年度
第三分野発生率	65.8	38.7
医療(疾病)	104.6	39.6
がん	28.0	29.6
介護	16.3	21.0
その他	45.7	44.7

- (注) 1. 各給付事由区分は以下を対象としております。
 ①医療(疾病): 医療保険、終身医療給付保険の疾病入院部分及び手術部分
 ②がん: がん特約、家族がん特約
 ③介護: 介護保障に対して給付を行う主契約及び特約
 ④その他: ①～③以外の医療保障、生前保障等に対して給付を行う主契約及び特約、災害死亡給付が組み込まれている主契約及び特約の災害死亡給付部分
 2. 発生率は以下の算式により算出しております。

$$\{ \text{保険金・給付金等の支払額} + \text{対応する支払備金繰入額} + \text{保険金・給付金支払に係る事業費等} \} \div \{ (\text{年度始保有契約年換算保険料} + \text{年度末保有契約年換算保険料}) / 2 \}$$

 3. (注) 2の算式中、支払備金繰入額は、保険業法施行規則第72条に定める既発生未報告分を除いております。
 4. (注) 2の算式中、事業費は、損益計算書上の事業費のうち、保険金・給付金支払に係る事務経費、人件費、システム経費等を計上しております。

経理に関する指標等

1. 支払備金明細表

(単位：百万円)

区 分		2022年度末	2023年度末
保 險 金	死 亡 保 険 金	8,153	8,673
	災 害 保 険 金	92	50
	高 度 障 害 保 険 金	1,148	1,371
	満 期 保 険 金	95	58
	そ の 他	1,380	1,572
	小 計	10,869	11,727
年 給 付 金	2,119	2,405	
解 約 返 戻 金	7,440	8,069	
保 険 金 据 置 支 払 金	754	768	
保 險 金 据 置 支 払 金	120	118	
そ の 他 共 計	21,523	23,334	

2. 責任準備金明細表

(単位：百万円)

区 分		2022年度末	2023年度末
責 任 危 険 準 備 金 (除 金)	個 人 保 険	1,918,533	1,937,759
	(一 般 勘 定)	(1,918,533)	(1,937,759)
	(特 別 勘 定)	(-)	(-)
	個 人 年 金 保 険	1,389,804	1,360,088
	(一 般 勘 定)	(1,389,804)	(1,360,088)
	(特 別 勘 定)	(-)	(-)
	団 体 保 険	12,986	13,110
	(一 般 勘 定)	(12,986)	(13,110)
	(特 別 勘 定)	(-)	(-)
	団 体 年 金 保 険	2,304,827	2,330,614
	(一 般 勘 定)	(2,190,162)	(2,190,288)
	(特 別 勘 定)	(114,664)	(140,325)
そ の 他	36,526	35,311	
(一 般 勘 定)	(36,526)	(35,311)	
(特 別 勘 定)	(-)	(-)	
小 計	5,662,676	5,676,884	
(一 般 勘 定)	(5,548,012)	(5,536,558)	
(特 別 勘 定)	(114,664)	(140,325)	
危 険 準 備 金	167,888	208,899	
合 計	5,830,565	5,885,784	
(一 般 勘 定)	(5,715,901)	(5,745,458)	
(特 別 勘 定)	(114,664)	(140,325)	

3. 責任準備金残高の内訳

(単位：百万円)

区 分	保険料積立金	未経過保険料	払戻積立金	危険準備金	合 計
2022年度末	5,621,061	41,615	—	167,888	5,830,565
2023年度末	5,636,604	40,280	—	208,899	5,885,784

4. 個人保険及び個人年金保険の責任準備金の積立方式・積立率・残高(契約年度別)

① 責任準備金の積立方式、積立率

積立方式	2022年度末		2023年度末	
	標準責任準備金 対象契約	平成8年大蔵省告示 第48号に定める方式	平成8年大蔵省告示 第48号に定める方式	平成8年大蔵省告示 第48号に定める方式
標準責任準備金 対象外契約	平準純保険料式	平準純保険料式	平準純保険料式	
積立率(危険準備金を除く)	100.0%	100.0%	100.0%	

(注) 1. 積立方式及び積立率は、個人保険及び個人年金保険を対象としています。なお、団体保険及び団体年金保険の責任準備金は積立方式という概念がないため、上記には含んでいません。

2. 積立率とは、標準責任準備金対象契約に関しては平成8年大蔵省告示第48号に定める方式により、また、標準責任準備金対象外契約に関しては平準純保険料式により計算した保険料積立金及び未経過保険料に対する、実際の責任準備金残高(危険準備金を除く)の割合です。

② 責任準備金残高(契約年度別)

(単位:百万円、%)

契約年度	責任準備金残高	予定利率
～1980年度	216	4.00
1981～1985年度	53,061	1.00～5.50
1986～1990年度	524,367	1.00～5.50
1991～1995年度	641,020	1.00～5.50
1996～2000年度	265,399	2.00～3.10
2001～2005年度	273,941	1.00～1.65
2006～2010年度	411,416	1.25～1.65
2011年度	117,194	1.30～1.65
2012年度	117,769	1.20～1.65
2013年度	105,761	0.65～1.35
2014年度	119,472	0.65～1.35
2015年度	129,457	0.60～1.65
2016年度	117,973	0.60～1.65
2017年度	79,368	0.25～1.65
2018年度	63,376	0.25～1.35
2019年度	69,573	0.25～1.35
2020年度	57,706	0.25～1.35
2021年度	57,055	0.25～1.35
2022年度	47,234	0.25～0.40
2023年度	46,478	0.25～0.40

(注) 1. 責任準備金残高は、個人保険及び個人年金保険の責任準備金(危険準備金を除く)を記載しています。

2. 予定利率については、各契約年度別の責任準備金に係る主な予定利率を記載しています。

※責任準備金残高は保険数理に基づく合理的な方法により配賦しています。

5. 特別勘定を設けた保険契約であって、保険金等の額を最低保証している保険契約に係る一般勘定の責任準備金の残高、算出方法、その計算の基礎となる係数

特別勘定を設けた保険契約であって、保険金等の額を最低保証している保険契約はありません。

6. 社員配当準備金明細表

(単位：百万円)

区 分		個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	合 計
2022年度	当期首現在高	58,886	1,683	1,938	503	393	5	63,411
	前期剰余金からの繰入	7,768	287	17,747	4,826	△ 0	97	30,726
	利息による増加	13	0	0	—	0	—	13
	配当金支払による減少	7,078	274	17,199	5,055	43	78	29,731
	その他の増減	—	—	—	—	—	—	—
当期末現在高	59,589	1,696	2,485	274	348	24	64,420	
		(52,639)	(1,450)	(343)	(—)	(348)	(—)	(54,781)
2023年度	当期首現在高	59,589	1,696	2,485	274	348	24	64,420
	前期剰余金からの繰入	6,670	273	15,911	5,080	—	66	28,002
	利息による増加	12	0	0	—	0	—	13
	配当金支払による減少	8,490	248	16,581	5,087	38	86	30,532
	その他の増減	—	—	—	—	—	—	—
当期末現在高	57,781	1,722	1,816	267	310	5	61,903	
		(51,323)	(1,468)	(336)	(—)	(309)	(—)	(53,437)

(注) ()内はうち積立配当金額です。

7. 引当金明細表

(単位：百万円)

区 分		当期首残高	当期末残高	当期増減(△)額
2022年度	貸倒引当金			
	一般貸倒引当金	820	404	△ 416
	個別貸倒引当金	1,695	422	△ 1,273
	特定海外債権引当勘定	—	—	—
	保険金等支払引当金	3,400	—	△ 3,400
退職給付引当金	24,850	25,951	1,100	
価格変動準備金	176,670	177,188	518	
2023年度	貸倒引当金			
	一般貸倒引当金	404	330	△ 74
	個別貸倒引当金	422	373	△ 48
	特定海外債権引当勘定	—	—	—
	保険金等支払引当金	—	—	—
退職給付引当金	25,951	26,701	750	
価格変動準備金	177,188	180,566	3,378	

(注) 計上の理由及び算定方法については、保険金等支払引当金を除き注記事項(貸借対照表)に記載しています。
 保険金等支払引当金は、当年度中の新型コロナウイルス感染に対する翌年度の給付金支払いに備えるため、
 当社の支払実績に基づく翌年度の支払見込額のうち支払備金計上額を上回る額を計上しています。

8. 特定海外債権引当勘定の状況

2022年度末及び2023年度末において、対象債権額、純繰入額及び引当残高はありません。

9. 保険料明細表

(単位：百万円)

区 分	2022年度	2023年度
個人保険	256,315	257,210
(うち一時払)	(3,066)	(3,989)
(うち年払)	(25,352)	(27,756)
(うち半年払)	(1,409)	(1,326)
(うち月払)	(226,487)	(224,138)
個人年金保険	40,714	38,919
(うち一時払)	(272)	(257)
(うち年払)	(5,320)	(5,085)
(うち半年払)	(428)	(397)
(うち月払)	(34,692)	(33,178)
団体保険	47,217	47,732
団体年金保険	178,162	144,295
その他共計	525,871	491,362

10. 保険金明細表

(単位：百万円)

区 分	個人保険	個人年金保険	団体保険	団体年金保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2023年度 合計	2022年度 合計
死亡保険金	29,566	100	21,242	—	—	0	50,910	52,206
災害保険金	200	—	40	—	—	—	240	353
高度障害保険金	1,097	—	1,736	—	—	—	2,833	2,417
満期保険金	18,562	—	—	28,571	262	—	47,395	72,738
その他	1,827	—	2,181	—	—	—	4,008	3,655
合計	51,253	100	25,200	28,571	262	0	105,387	131,371

11. 年金明細表

(単位：百万円)

個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2023年度 合計	2022年度 合計
11,378	85,936	247	53,787	583	—	151,933	153,869

12. 給付金明細表

(単位：百万円)

区 分	個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2023年度 合計	2022年度 合計
死亡給付金	222	1,927	—	—	24	—	2,174	2,392
入院給付金	15,324	—	12	—	—	33	15,370	47,258
手術給付金	10,233	—	—	—	—	13	10,247	10,071
障害給付金	822	—	7	—	—	—	829	802
生存給付金	18,301	—	—	—	40	—	18,341	15,823
一時金	—	—	0	73,400	—	—	73,401	65,684
その他	3,106	3	5	—	—	0	3,115	2,724
合計	48,010	1,931	26	73,400	64	46	123,479	144,757

13. 解約返戻金明細表

(単位：百万円)

個人保険	個人年金 保険	団体保険	団体年金 保険	財形保険 財形年金保険	その他の 保険	2023年度 合計	2022年度 合計
38,279	14,497	—	3,128	3,574	—	59,480	49,579

14. 減価償却費明細表

(単位：百万円、%)

区 分		取得原価	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高	償却累計率
2022年度	有形固定資産	86,446	2,553	60,593	25,852	70.1
	建物	72,528	1,277	50,769	21,758	70.0
	リース資産	3,156	340	2,227	928	70.6
	その他の有形固定資産	10,761	936	7,596	3,165	70.6
	無形固定資産	57,208	8,623	31,132	26,075	54.4
	そ の 他	1,274	211	649	624	51.0
	合 計	144,928	11,388	92,376	52,552	63.7
2023年度	有形固定資産	86,169	2,227	60,509	25,660	70.2
	建物	74,043	1,325	52,231	21,812	70.5
	リース資産	1,588	165	680	908	42.8
	その他の有形固定資産	10,537	736	7,597	2,939	72.1
	無形固定資産	46,633	7,721	22,278	24,354	47.8
	そ の 他	1,398	225	638	760	45.6
	合 計	134,201	10,174	83,426	50,775	62.2

15. 事業費明細表

(単位：百万円)

区 分	2022年度	2023年度
営業活動費	19,314	19,223
営業管理費	15,050	15,458
一般管理費	56,113	57,582
合 計	90,478	92,264

16. 税金明細表

(単位：百万円)

区 分	2022年度	2023年度
国 税	4,673	5,010
消費 税	4,360	4,706
特別法人事業税	263	259
印 紙 税	48	43
登 録 免 許 税	0	0
そ の 他 の 国 税	0	0
地 方 税	2,873	2,956
地方消費 税	1,227	1,326
法 人 事 業 税	897	884
固 定 資 産 税	657	653
不 動 産 取 得 税	—	—
事 業 所 税	91	91
そ の 他 の 地 方 税	0	0
合 計	7,546	7,966

17. リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引については、少額であり重要性がないため、記載を省略しています。

18. 借入金等残存期間別残高

(単位：百万円)

区 分		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定めのないものを含む)	合 計
2022年度末	借 入 金	—	—	—	—	—	—	—
	社 債	—	—	—	—	—	241,935	241,935
	債券貸借取引 受入担保金	155,483	—	—	—	—	—	155,483
2023年度末	借 入 金	—	—	—	—	—	—	—
	社 債	—	—	—	—	—	267,260	267,260
	債券貸借取引 受入担保金	121,299	—	—	—	—	—	121,299

資産運用に関する指標等

1. ポートフォリオの推移(一般勘定)

①資産の構成

(単位:百万円、%)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金額	占率	金額	占率
現預金・コールローン	525,043	7.4	435,624	5.8
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	25,897	0.4	23,502	0.3
有価証券	5,692,461	80.1	6,219,323	82.8
公 社 債	3,003,156	42.3	2,933,981	39.1
株 式	808,831	11.4	997,497	13.3
外 国 証 券	1,705,027	24.0	2,070,200	27.6
公 社 債	1,194,387	16.8	1,445,869	19.3
株 式 等	510,639	7.2	624,331	8.3
その他の証券	175,445	2.5	217,644	2.9
貸付金	524,193	7.4	499,793	6.7
保険約款貸付	47,088	0.7	45,991	0.6
一般貸付	477,104	6.7	453,802	6.0
不動産	242,980	3.4	251,508	3.3
繰延税金資産	13,829	0.2	—	—
その他	83,918	1.2	81,036	1.1
貸倒引当金	△ 826	△ 0.0	△ 703	△ 0.0
合 計	7,107,497	100.0	7,510,086	100.0
うち外貨建資産	1,802,337	25.4	2,065,852	27.5

(注)不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しております。

②資産の増減

(単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
現預金・コールローン	322,583	△ 89,419
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	△ 80	—
商品有価証券	—	—
金銭の信託	△ 172	△ 2,395
有価証券	△ 481,068	526,862
公 社 債	118,675	△ 69,175
株 式	39,877	188,665
外 国 証 券	△ 630,924	365,173
公 社 債	△ 629,047	251,481
株 式 等	△ 1,876	113,691
その他の証券	△ 8,697	42,198
貸付金	△ 29,112	△ 24,399
保険約款貸付	△ 1,541	△ 1,097
一般貸付	△ 27,571	△ 23,301
不動産	1,815	8,528
繰延税金資産	13,829	△ 13,829
その他	1,193	△ 2,882
貸倒引当金	1,689	123
合 計	△ 169,323	402,588
うち外貨建資産	△ 826,729	263,514

(注)不動産については土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しております。

2. 運用利回り(一般勘定)

(単位:%)

区 分	2022年度	2023年度
現預金・コールローン	0.00	0.00
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	△ 4.02	—
商品有価証券	—	—
金銭の信託	△ 0.62	5.22
有価証券	2.46	2.83
うち公社債	1.43	0.74
うち株式	8.48	15.70
うち外国証券	2.71	3.14
公社債	1.48	1.66
株式等	7.21	7.45
貸付金	1.52	1.47
うち一般貸付	1.31	1.26
不動産	2.53	2.79
一般勘定計	2.11	2.37
うち海外投融資	2.51	3.26

(注) 1. 利回り計算式の分母は帳簿価額ベースの日々平均残高、分子は経常損益中、資産運用収益－資産運用費用として算出した利回りです。
2. 海外投融資とは、外貨建資産と円貨建資産の合計です。

3. 日々平均残高(一般勘定)

(単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
現預金・コールローン	236,914	410,132
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	34	—
商品有価証券	—	—
金銭の信託	26,069	22,701
有価証券	5,394,128	5,253,911
うち公社債	2,964,735	3,034,447
うち株式	413,423	420,330
うち外国証券	1,860,692	1,637,604
公社債	1,461,370	1,217,899
株式等	399,321	419,704
貸付金	545,127	518,302
うち一般貸付	497,217	471,732
不動産	242,567	247,301
一般勘定計	6,708,497	6,715,749
うち海外投融資	2,141,945	1,798,907

4. 資産運用関係収益明細表(一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
利息及び配当金等収入	164,768	172,157
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	1,185
売買目的有価証券運用益	348	803
有価証券売却益	54,756	66,405
有価証券償還益	11,702	2,508
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	2,525
貸倒引当金戻入額	624	117
その他運用収益	322	321
合 計	232,523	246,024

6. 利息及び配当金等収入明細表(一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
預貯金利息	3	3
有価証券利息・配当金	136,893	143,193
うち公社債利息	48,230	47,089
うち株式配当金	20,573	21,800
うち外国証券利息配当金	62,232	64,306
貸付金利息	8,237	8,896
不動産賃貸料	19,292	19,833
その他共計	164,768	172,157

8. 有価証券売却益明細表(一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
国債等債券	7,576	4,527
株式等	16,946	46,314
外国証券	30,203	15,564
その他共計	54,756	66,405

10. 有価証券評価損明細表(一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
国債等債券	593	262
株式等	610	513
外国証券	2,403	312
その他共計	3,608	1,089

13. 有価証券明細表(一般勘定)

(単位:百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金額	占率	金額	占率
国債	2,377,987	41.8%	2,316,515	37.2%
地方債	92,958	1.6	97,504	1.6
社債	532,210	9.3	519,961	8.4
うち公社・公団債	322,350	5.7	289,436	4.7
株式	808,831	14.2	997,497	16.0
外国証券	1,705,027	30.0	2,070,200	33.3
公社債	1,194,387	21.0	1,445,869	23.2
株式等	510,639	9.0	624,331	10.0
その他の証券	175,445	3.1	217,644	3.5
合 計	5,692,461	100.0	6,219,323	100.0

5. 資産運用関係費用明細表(一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
支払利息	4,469	4,245
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	161	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	46,169	56,613
有価証券評価損	3,608	1,089
有価証券償還損	185	137
金融派生商品費用	11,221	7,349
為替差損	8,231	—
貸倒引当金繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
賃貸用不動産等減価償却費	4,850	5,163
その他運用費用	12,185	12,117
合 計	91,083	86,716

7. 売買目的有価証券運用損益明細表(一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
利息及び配当金等収入	455	152
売却損益	△2	1,025
評価損益	△653	1,135
その他共計	348	803

9. 有価証券売却損明細表(一般勘定) (単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
国債等債券	10,732	30,091
株式等	339	803
外国証券	34,777	25,719
その他共計	46,169	56,613

11. 商品有価証券明細表(一般勘定)

2022年度末、2023年度末とも保有していません。

12. 商品有価証券売買高(一般勘定)

2022年度、2023年度とも実績はありません。

14. 有価証券の残存期間別残高(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超 (期間の定め ないものを 含む)	合 計	
2022年度末	有 価 証 券	142,366	557,514	706,028	566,145	824,545	2,895,861	5,692,461
	国 債	53,968	217,570	198,354	273,121	496,893	1,138,078	2,377,987
	地 方 債	—	1,052	19,893	13,381	20,948	37,682	92,958
	社 債	46,418	73,937	131,680	91,981	125,753	62,438	532,210
	株 式						808,831	808,831
	外 国 証 券	41,027	241,737	345,532	163,958	159,992	752,778	1,705,027
	公 社 債	37,462	238,406	345,532	163,958	159,017	250,010	1,194,387
	株 式 等	3,565	3,331	—	—	975	502,768	510,639
	その他の証券	951	23,216	10,566	23,702	20,957	96,051	175,445
	買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	
2023年度末	有 価 証 券	200,787	625,309	734,725	571,195	570,274	3,517,030	6,219,323
	国 債	62,050	240,124	226,748	329,280	316,690	1,141,620	2,316,515
	地 方 債	—	20,447	4,663	26,561	2,425	43,406	97,504
	社 債	23,725	84,465	149,239	93,404	84,760	84,366	519,961
	株 式						997,497	997,497
	外 国 証 券	107,445	254,232	338,629	93,927	143,074	1,132,891	2,070,200
	公 社 債	102,293	252,181	338,629	92,656	143,074	517,033	1,445,869
	株 式 等	5,151	2,050	—	1,271	—	615,857	624,331
	その他の証券	7,566	26,040	15,444	28,021	23,322	117,248	217,644
	買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	

(注)「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取り扱うものを含んでいます。

15. 保有公社債の期末残高利回り(一般勘定)

区 分	2022年度末	2023年度末
公 社 債	1.56%	1.56%
外 国 公 社 債	3.00	3.52

16.業種別株式保有明細表(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末			
	金 額	占 率	金 額	占 率		
水産・農林業	—	—%	—	—%		
鉱業	—	—	—	—		
建設業	18,866	2.3	27,381	2.7		
製 造 業	食品	86,003	10.6	86,023	8.6	
	繊維製品	9,430	1.2	8,688	0.9	
	パルプ	1,310	0.2	1,594	0.2	
	化学	107,698	13.3	147,940	14.8	
	医薬品	28,950	3.6	23,183	2.3	
	石油・石炭製品	—	—	—	—	
	ゴム	5,367	0.7	2,955	0.3	
	ガラス・土石製品	1,484	0.2	3,183	0.3	
	鉄鋼	3,762	0.5	4,965	0.5	
	非鉄金属	6,502	0.8	8,683	0.9	
	機械	12,713	1.6	16,213	1.6	
	電気機械	38,728	4.8	61,310	6.1	
	輸送用機器	78,604	9.7	108,094	10.8	
電 気 業	精密機器	24,190	3.0	31,846	3.2	
	その他製品	9,034	1.1	5,575	0.6	
	の他	15,015	1.9	18,379	1.8	
	ガス	29,543	3.7	32,935	3.3	
	運輸・情報通信業	陸運業	67,592	8.4	68,878	6.9
		海運業	2,469	0.3	—	—
		空運業	2,582	0.3	2,917	0.3
		倉庫・運輸関連業	152	0.0	28	0.0
	情報通信業	41,359	5.1	48,549	4.9	
	商業	卸売業	35,765	4.4	59,282	5.9
		小売業	3,614	0.4	5,483	0.5
	金融・保険業	銀行業	25,498	3.2	41,275	4.1
		証券、商品先物取引業	7,676	0.9	13,855	1.4
保険業		81,102	10.0	94,711	9.5	
その他の金融業		41,006	5.1	48,221	4.8	
不動産業	6,526	0.8	10,204	1.0		
サービス業	16,278	2.0	15,132	1.5		
合 計	808,831	100.0	997,497	100.0		

(注)業種区分は証券コード協議会の業種別分類項目に準拠しています。

17.貸付金明細表(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度末	2023年度末
保 險 約 款 貸 付	47,088	45,991
契 約 者 貸 付	43,384	42,401
保 險 料 振 替 貸 付	3,703	3,590
一 般 貸 付	477,104	453,802
(うち非居住者貸付)	(28,923)	(29,355)
企 業 貸 付	371,405	350,258
(うち国内企業向け)	(342,481)	(320,903)
国・国際機関・政府関係機関貸付	64	50
公 共 団 体 ・ 公 企 業 貸 付	2,507	2,009
住 宅 口 一 ン	40,038	38,871
消 費 者 口 一 ン	39,618	40,394
そ の 他	23,470	22,218
合 計	524,193	499,793

20. 貸付金業種別内訳(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
製 造 業	66,277	13.9%	57,142	12.6%
食 料	11,812	2.5	11,303	2.5
織 維	—	—	—	—
木 材 ・ 木 製 品	—	—	—	—
パ ル プ ・ 紙	14,500	3.0	14,500	3.2
印 刷	—	—	—	—
化 学	3,006	0.6	1,946	0.4
石 油 ・ 石 炭	150	0.0	—	—
窯 業 ・ 土 石	420	0.1	396	0.1
鉄 鋼	12,740	2.7	9,680	2.1
非 鉄 金 属	575	0.1	315	0.1
金 属 製 品	—	—	—	—
は ん 用 ・ 生 産 用 ・ 業 務 用 機 械	14,691	3.1	11,486	2.5
電 気 機 械	5,060	1.1	4,000	0.9
輸 送 用 機 械	320	0.1	515	0.1
そ の 他 の 製 造 業	3,000	0.6	3,000	0.7
農 業 ・ 林 業	—	—	—	—
漁 業	—	—	—	—
鉱 業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
建 設 業	4,966	1.0	4,968	1.1
電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	42,699	8.9	41,831	9.2
情 報 通 信 業	5,719	1.2	5,579	1.2
運 輸 業、郵 便 業	65,446	13.7	63,309	14.0
卸 売 業	39,500	8.3	38,000	8.4
小 売 業	2,136	0.4	2,215	0.5
金 融 業、保 険 業	50,518	10.6	47,226	10.4
不 動 産 業	48,213	10.1	45,980	10.1
物 品 質 貸 業	15,848	3.3	13,391	3.0
学 術 研 究、専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	—	—	—	—
宿 泊 業	202	0.0	187	0.0
飲 食 業	303	0.1	303	0.1
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、娯 楽 業	270	0.1	—	—
教 育、学 習 支 援 業	—	—	—	—
医 療 ・ 福 祉	233	0.0	194	0.0
そ の 他 の サ ー ビ ス	2,718	0.6	2,631	0.6
地 方 公 共 団 体	—	—	—	—
個 人(住 宅 ・ 消 費 ・ 納 税 資 金 等)	103,127	21.6	101,484	22.4
合 計	448,180	93.9	424,446	93.5
海 外 向 け	—	—	—	—
政 府 等	—	—	—	—
金 融 機 関	—	—	—	—
商 工 業 (等)	28,923	6.1	29,355	6.5
合 計	28,923	6.1	29,355	6.5
一 般 貸 付 計	477,104	100.0	453,802	100.0

(注)国内向けの区分は日本銀行の貸出先別貸出金(業種別、設備資金新規貸出)の業種分類に準拠しています。

21. 貸付金使途別内訳(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
設 備 資 金	66,618	14.0%	64,846	14.3%
運 転 資 金	410,485	86.0	388,955	85.7

22. 貸付金地域別内訳(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
北 海 道	8,054	2.3%	7,018	2.2%
東 北	2,500	0.7	2,500	0.8
関 東	276,046	80.0	258,214	80.0
中 部	13,254	3.8	12,618	3.9
近 畿	30,817	8.9	27,984	8.7
中 国	114	0.0	0	0.0
四 国	200	0.1	200	0.1
九 州	14,066	4.1	14,425	4.5
合 計	345,052	100.0	322,962	100.0

(注) 1. 個人ローン、非居住者貸付、保険約款貸付等は含んでいません。

2. 地域区分は、貸付先の本社所在地によります。

23. 貸付金担保別内訳(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
担 保 貸 付	7,352	1.5%	6,653	1.5%
有価証券担保貸付	1,462	0.3	1,353	0.3
不動産・動産・財団担保貸付	5,889	1.2	5,300	1.2
指名債権担保貸付	—	—	—	—
保 証 貸 付	32,260	6.8	27,902	6.1
信 用 貸 付	357,833	75.0	339,980	74.9
そ の 他	79,657	16.7	79,266	17.5
一 般 貸 付 計	477,104	100.0	453,802	100.0
うち劣後特約貸付	16,100	3.4	19,857	4.4

24. 有形固定資産明細表(一般勘定)

(1)有形固定資産の明細

(単位：百万円、%)

区 分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額	償却累計率
2022年度	土 地	150,195	2	450	—	149,747	—
	建 物	89,202	6,198	443	5,372	89,583	171,930
	リ ー ス 資 産	265	1,003	—	340	928	2,227
	建 設 仮 勘 定	1,767	5,488	3,606	—	3,649	—
	そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	3,974	468	19	1,011	3,412	8,460
	合 計	245,405	13,160	4,520	6,724	247,321	182,618
	うち賃貸等不動産	196,610	11,116	3,951	4,108	199,666	122,381
2023年度	土 地	149,747	—	263	—	149,483	—
	建 物	89,583	17,964	567	5,656	101,324	173,445
	リ ー ス 資 産	928	145	—	165	908	680
	建 設 仮 勘 定	3,649	15,450	18,398	—	700	—
	そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	3,412	872	32	879	3,371	8,573
	合 計	247,321	34,433	19,263	6,702	255,788	182,699
	うち賃貸等不動産	199,666	31,382	18,567	4,344	208,136	122,531

(注) 1. 「当期減少額」欄の括弧内には、減損損失の計上額を記載しています。

2. 「償却累計率」は、取得価額に対する減価償却累計額の割合を記載しています。

3. 「うち賃貸等不動産」の「当期増加額」、「当期減少額」には、期中の用途変更による振替額を含んでいます。

(2)不動産残高及び賃貸用ビル保有数

(単位：百万円)

区 分	2022年度末	2023年度末
不 動 産 残 高	242,980	251,508
営 業 用	43,961	43,834
賃 貸 用	199,019	207,673
賃 貸 用 ビ ル 保 有 数	103棟	106棟

25. 無形固定資産明細表(一般勘定)

(単位：百万円、%)

区 分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額	償却累計率	
2022年度	ソフトウェア	19,914	13,052	1 (—)	8,817	24,148	31,640	56.7
	リース資産	498	—	— (—)	187	311	623	66.7
	その他の無形固定資産	7,407	10,601	15,549 (—)	2	2,456	6	0.3
	合 計	27,821	23,653	15,550 (—)	9,007	26,917	32,270	54.5
2023年度	ソフトウェア	24,148	4,777	34 (—)	7,929	20,962	22,979	52.3
	リース資産	311	—	— (—)	187	124	810	86.7
	その他の無形固定資産	2,456	9,122	7,784 (—)	2	3,792	9	0.3
	合 計	26,917	13,899	7,819 (—)	8,118	24,879	23,799	48.9

- (注) 1. 「当期減少額」欄の括弧内には、減損損失の計上額を記載しています。
2. 「償却累計率」は、取得価額に対する減価償却累計額の割合を記載しています。

26. 固定資産等処分益明細表(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度	2023年度
有 形 固 定 資 産	393	31
土 地	356	31
建 物	35	—
リ ー ス 資 産	—	—
そ の 他	1	0
無 形 固 定 資 産	—	—
そ の 他	0	1
合 計	393	33
う ち 賃 貸 等 不 動 産	382	31

27. 固定資産等処分損明細表(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分	2022年度	2023年度
有 形 固 定 資 産	171	142
土 地	45	44
建 物	108	66
リ ー ス 資 産	—	—
そ の 他	16	31
無 形 固 定 資 産	1	56
そ の 他	5	2
合 計	178	201
う ち 賃 貸 等 不 動 産	79	106

28. 賃貸用不動産等減価償却費明細表(一般勘定)

(単位:百万円、%)

区 分	取得原価	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高	償却累計率	
2022年度	有形固定資産	190,096	4,170	122,024	68,071	64.2
	建 物	188,985	4,095	121,160	67,825	64.1
	その他の有形固定資産	1,110	75	864	246	77.8
	無形固定資産	1,979	384	1,138	841	57.5
	そ の 他	2,495	295	1,004	1,490	40.3
合 計	194,571	4,850	124,167	70,404	63.8	
2023年度	有形固定資産	202,134	4,474	122,190	79,944	60.5
	建 物	200,726	4,331	121,214	79,511	60.4
	その他の有形固定資産	1,407	143	975	432	69.3
	無形固定資産	2,045	397	1,520	524	74.3
	そ の 他	2,463	291	1,162	1,301	47.2
合 計	206,642	5,163	124,873	81,769	60.4	

29. 海外投融資の状況(一般勘定)

(1)資産別明細

①外貨建資産

(単位:百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
公 社 債	1,291,781	66.4%	1,434,720	63.8%
株 式	142,456	7.3	202,675	9.0
現 預 金 ・ そ の 他	368,100	18.9	428,455	19.1
小 計	1,802,337	92.7	2,065,852	91.9

②円貨額が確定した外貨建資産

(単位:百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
公 社 債	—	—%	—	—%
現 預 金 ・ そ の 他	—	—	—	—
小 計	—	—	—	—

③円貨建資産

(単位:百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
非 居 住 者 貸 付	9,000	0.5%	6,820	0.3%
公社債(円建外債)・その他	133,409	6.9	174,460	7.8
小 計	142,409	7.3	181,280	8.1

④合 計

(単位:百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
海 外 投 融 資	1,944,747	100.0%	2,247,133	100.0%

(注)「円貨額が確定した外貨建資産」は、為替予約が付されていることにより決済時の円貨額が確定し、当該円貨額を資産の貸借対照表価額としているものです。

(2)地域別構成

(単位：百万円)

区 分	外 国 証 券						非居住者貸付		
	金 額		公 社 債		株 式 等		金 額		
			金 額	占 率	金 額	占 率			
2022年度末	北 米	741,684	43.5%	610,778	51.1%	130,906	25.6%	4,393	15.2%
	ヨ ー ロ ッ パ	401,906	23.6	220,811	18.5	181,095	35.5	4,000	13.8
	オ セ ア ニ ア	148,685	8.7	136,212	11.4	12,473	2.4	6,711	23.2
	ア ジ ア	47,772	2.8	44,116	3.7	3,656	0.7	13,818	47.8
	中 南 米	204,965	12.0	22,457	1.9	182,508	35.7	—	—
	中 東	19,513	1.1	19,513	1.6	—	—	—	—
	ア フ リ カ	—	—	—	—	—	—	—	—
	国 際 機 関	140,498	8.2	140,498	11.8	—	—	—	—
合 計	1,705,027	100.0	1,194,387	100.0	510,639	100.0	28,923	100.0	
2023年度末	北 米	1,047,479	50.6%	877,272	60.7%	170,207	27.3%	7,107	24.2%
	ヨ ー ロ ッ パ	423,124	20.4	220,699	15.3	202,424	32.4	2,000	6.8
	オ セ ア ニ ア	159,726	7.7	144,568	10.0	15,157	2.4	9,306	31.7
	ア ジ ア	51,742	2.5	49,263	3.4	2,478	0.4	10,941	37.3
	中 南 米	253,825	12.3	19,762	1.4	234,063	37.5	—	—
	中 東	22,384	1.1	22,384	1.5	—	—	—	—
	ア フ リ カ	—	—	—	—	—	—	—	—
	国 際 機 関	111,918	5.4	111,918	7.7	—	—	—	—
合 計	2,070,200	100.0	1,445,869	100.0	624,331	100.0	29,355	100.0	

(3)外貨建資産の通貨別構成

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
米 ド ル	1,213,033	67.3%	1,510,986	73.1%
豪 ド ル	297,365	16.5	275,954	13.4
ユ ー ロ	102,193	5.7	112,354	5.4
カ ナ ダ ド ル	110,940	6.2	109,742	5.3
英 ポ ン ド	20,957	1.2	20,277	1.0
そ の 他	57,847	3.2	36,536	1.8
合 計	1,802,337	100.0	2,065,852	100.0

30. 海外投融資利回り(一般勘定)

(単位：%)

2022年度	2023年度
2.51	3.26

31. 公共関係投融資の概況(新規引受額、貸出額)(一般勘定)

(単位：百万円)

区 分		2022年度	2023年度
		金 額	金 額
公共債	国 債	—	—
	地 方 債	—	—
	公 社 ・ 公 団 債	94	94
	小 計	94	94
貸付	政 府 関 係 機 関	64	50
	公 共 団 体 ・ 公 企 業	—	—
	小 計	64	50
	合 計	158	144

32. 各種ローン金利(代表例)

貸出の種類	利 率		
	2024年1月10日実施	2024年2月9日実施	2024年3月8日実施
一般貸付標準金利 (長期プライムレート)	年1.40%	年1.50%	年1.60%
	2023年11月1日実施	2023年12月1日実施	2024年2月1日実施
住 宅 ロ ー ン	年2.07%	年2.12%	年2.02%
	2024年1月16日実施	2024年2月9日実施	2024年3月11日実施
消 費 者 ロ ー ン (提携ローン)	年1.25%	年1.15%	年1.25%

(注)消費者ローンは信販会社等との提携ローン金利です。

33. その他の資産明細表(一般勘定)

(単位：百万円)

資産の種類	取得原価	当期増加額	当期減少額	減価償却累計額	期末残高	
2022年度	繰 延 資 産	6,201	384	752	3,384	2,817
	そ の 他	336	—	131	—	336
	合 計	6,537	384	884	3,384	3,153
2023年度	繰 延 資 産	7,228	1,399	758	3,770	3,458
	そ の 他	310	—	26	—	310
	合 計	7,538	1,399	784	3,770	3,768

有価証券等の時価情報（一般勘定）

1. 有価証券の時価情報

① 売買目的有価証券の評価損益

（単位：百万円）

区 分	2022年度末		2023年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
売買目的有価証券	35,130	△ 653	22,502	1,135

（注）本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

② 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外）

（単位：百万円）

区 分	2022年度末					2023年度末				
	帳簿 価額	時価	差 損 益			帳簿 価額	時価	差 損 益		
			差益	差損	差益			差損		
満期保有目的の債券	738,300	808,660	70,360	70,424	64	708,320	759,424	51,104	51,104	—
公 社 債	738,300	808,660	70,360	70,424	64	708,320	759,424	51,104	51,104	—
外国公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
責任準備金対応債券	—	—	—	—	—	290,573	283,026	△ 7,546	331	7,877
公 社 債	—	—	—	—	—	290,573	283,026	△ 7,546	331	7,877
外国公社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の有価証券	4,307,988	4,839,472	531,484	676,027	144,543	4,195,706	5,103,160	907,454	1,055,739	148,285
公 社 債	2,246,987	2,264,856	17,868	99,271	81,402	1,987,603	1,935,087	△ 52,516	82,679	135,195
株 式	352,575	739,891	387,316	389,227	1,911	346,904	928,443	581,539	582,045	506
外国証券	1,574,356	1,675,753	101,396	160,374	58,977	1,717,017	2,045,310	328,292	339,444	11,152
公 社 債	1,169,512	1,184,154	14,642	68,369	53,727	1,292,421	1,445,869	153,447	161,326	7,879
株 式 等	404,844	491,598	86,754	92,004	5,250	424,596	599,440	174,844	178,117	3,273
その他の証券	134,069	158,971	24,902	27,153	2,251	144,179	194,318	50,138	51,570	1,431
金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	5,046,289	5,648,133	601,844	746,451	144,607	5,194,599	6,145,611	951,012	1,107,175	156,163
公 社 債	2,985,287	3,073,516	88,228	169,695	81,466	2,986,497	2,977,539	△ 8,957	134,115	143,073
株 式	352,575	739,891	387,316	389,227	1,911	346,904	928,443	581,539	582,045	506
外国証券	1,574,356	1,675,753	101,396	160,374	58,977	1,717,017	2,045,310	328,292	339,444	11,152
公 社 債	1,169,512	1,184,154	14,642	68,369	53,727	1,292,421	1,445,869	153,447	161,326	7,879
株 式 等	404,844	491,598	86,754	92,004	5,250	424,596	599,440	174,844	178,117	3,273
その他の証券	134,069	158,971	24,902	27,153	2,251	144,179	194,318	50,138	51,570	1,431
金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）1. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。
2. 市場価格のない株式等および組合等は本表から除いています。

● 市場価格のない株式等および組合等の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区 分	2022年度末	2023年度末
子会社・関連会社株式	64,787	64,787
その他の有価証券	36,051	45,922
国内株式	5,709	5,824
外国株式	—	—
その他	30,341	40,097
合 計	100,838	110,709

(注) 内外投資事業組合は、本表の「その他有価証券」のうち「その他」に含めておりますが、内外投資事業組合が保有する「その他有価証券」の評価差額等については、持分相当額(2022年度末3,616百万円、2023年度末6,560百万円)を、貸借対照表価額に含めて計上しています。

2. 金銭の信託の時価情報

(単位：百万円)

区 分	2022年度末					2023年度末				
	貸借対照表計上額	時価	差 損 益		貸借対照表計上額	時価	差 損 益			
			差益	差損			差益	差損		
金 銭 の 信 託	25,897	25,897	—	—	—	23,502	23,502	—	—	—

● 運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
運用目的の金銭の信託	24,897	△0	22,502	0

● 満期保有目的、責任準備金対応、その他の金銭の信託

(単位：百万円)

区 分	2022年度末					2023年度末				
	帳簿価額	時価	差 損 益		帳簿価額	時価	差 損 益			
			差益	差損			差益	差損		
満期保有目的の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
責任準備金対応の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
その他の金銭の信託	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

3.デリバティブ取引の時価情報(ヘッジ会計適用分・非適用分の合算値)

①差損益の内訳(ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位：百万円)

2022年度末	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合計
ヘッジ会計適用分	—	△ 840	—	—	—	△ 840
ヘッジ会計非適用分	47	△ 561	△ 31	△ 137	—	△ 683
合計	47	△ 1,402	△ 31	△ 137	—	△ 1,524
2023年度末	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合計
ヘッジ会計適用分	—	—	—	—	—	—
ヘッジ会計非適用分	—	△ 940	△ 89	—	—	△ 1,029
合計	—	△ 940	△ 89	—	—	△ 1,029

(注)ヘッジ会計適用分のうち時価ヘッジ適用分の差損益(2022年度末：通貨関連 △ 840百万円)、およびヘッジ会計非適用分の差損益は、損益計算書に計上しています。

②金利関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末			2023年度末				
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
			うち1年超				うち1年超		
店頭	国内金利スワップション 売 建								
	固定金利受取/ 変動金利支払	—	—	—	—	—	—	—	—
	固定金利支払/ 変動金利受取	(—)	—	—	(—)	—	—	—	—
	買 建								
	固定金利受取/ 変動金利支払	—	—	—	—	—	—	—	—
	固定金利支払/ 変動金利受取	30,000	—	110	—	—	—	—	—
		(63)		47	(—)		—	—	—
	合計			47				—	—

(注)括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

③通貨関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末				2023年度末			
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
			うち1年超				うち1年超		
店頭	為替予約								
	売建	237,141	—	238,186	△ 1,044	24,618	—	25,049	△ 431
	(米ドル)	140,574	—	141,687	△ 1,112	15,513	—	15,788	△ 274
	(豪ドル)	64,856	—	63,991	865	9,104	—	9,261	△ 156
	(ユーロ)	14,743	—	15,102	△ 359	—	—	—	—
	(スウェーデンクローナ)	8,758	—	9,020	△ 262	—	—	—	—
	(カナダドル)	5,829	—	5,906	△ 77	—	—	—	—
	(英ポンド)	2,379	—	2,477	△ 98	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨オプション								
売建									
コール	—	—	—	—	—	—	—	—	
()	(—)	—	—	—	(—)	—	—	—	
プット	—	—	—	—	—	—	—	—	
()	(—)	—	—	—	(—)	—	—	—	
買建									
コール	—	—	—	—	—	—	—	—	
()	(—)	—	—	—	(—)	—	—	—	
プット	30,650	—	118	△ 357	36,960	—	26	△ 509	
(米ドル)	(475)	—	118	△ 357	(536)	—	25	△ 490	
(豪ドル)	30,650	—	—	—	35,100	—	—	—	
()	(475)	—	—	—	(515)	—	—	—	
(豪ドル)	—	—	—	—	1,860	—	1	△ 18	
()	(—)	—	—	—	(20)	—	—	—	
合計				△ 1,402				△ 940	

- (注) 1. 年度末の為替相場は先物相場を使用しています。
 2. 括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。
 3. 外貨建金銭債権債務等に為替予約等が付されていることにより、決済時における円貨額が確定している外貨建金銭債権債務等で、貸借対照表において当該円貨額で表示されているものについては、開示の対象より除いています。

2023年度の事業概況
 商品開発と販売商品
 経営に関する諸活動
 当社の概況および組織
 財産の状況
 業務の状況を示す指標等
 特別勘定に関する指標等
 保険会社及びその子会社等の状況

④株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末			2023年度末				
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
			うち1年超				うち1年超		
取引所	株価指数オプション								
	売建								
	コール	—	—	—	—	—	—	—	
	プット	(—)	—	—	(—)	—	—	—	
	買建								
	コール	(—)	—	—	(—)	—	—	—	
取引所	プット	—	—	—	—	—	—	—	
	コール	(—)	—	—	(—)	—	—	—	
	プット	8,800	—	8	6,150	—	0	△ 89	
合計	(39)			△ 31	(90)			△ 89	

(注)括弧内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

⑤債券関連

(単位：百万円)

区分	種類	2022年度末			2023年度末				
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
			うち1年超				うち1年超		
取引所	国内債券先物								
	売建	7,268	—	7,406	△ 137	—	—	—	
	買建	—	—	—	—	—	—	—	
	外国債券先物								
取引所	売建	—	—	—	—	—	—	—	
	買建	—	—	—	—	—	—	—	
合計				△ 137				—	

4.不動産(土地・借地権)の評価額

(単位：百万円)

2022年度末			2023年度末		
貸借対照表計上額	評価額	差損益	貸借対照表計上額	評価額	差損益
149,749	314,057	164,307	149,485	325,747	176,261

(注)評価額は、鑑定評価額、公示地価等を基準に算定しています。

特別勘定に関する指標等

1. 特別勘定資産残高の状況

(単位:百万円)

区 分	2022年度末	2023年度末
	金 額	金 額
個人変額保険	—	—
個人変額年金保険	—	—
団体年金保険	118,783	141,452
特別勘定計	118,783	141,452

2. 個人変額保険及び個人変額年金保険特別勘定資産の運用の経過

2022年度末、2023年度末とも残高はありません。

3. 個人変額保険及び個人変額年金保険の状況

●個人変額保険（特別勘定）の状況

個人変額保険につきましては、販売していません。

●個人変額年金保険（特別勘定）の状況

①保有契約高

(単位:件、百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
個人変額年金保険	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—

②年度末個人変額年金保険特別勘定資産の内訳

(単位:百万円、%)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・コールローン	—	—%	—	—%
有 価 証 券	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—
そ の 他 の 証 券	—	—	—	—
貸 付 金	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—
貸 倒 引 当 金	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—

③個人変額年金保険特別勘定の運用収支状況

(単位:百万円)

区 分	2022年度	2023年度
	金 額	金 額
利息配当金等収入	8	—
有価証券売却益	—	—
有価証券償還益	—	—
有価証券評価益	—	—
為替差益	—	—
金融派生商品収益	—	—
その他の収益	—	—
有価証券売却損	—	—
有価証券償還損	—	—
有価証券評価損	8	—
為替差損	—	—
金融派生商品費用	—	—
その他の費用	—	—
収 支 差 額	△0	—

④個人変額年金保険特別勘定に関する有価証券等の時価情報

●売買目的有価証券の評価損益

(単位:百万円)

区 分	2022年度末		2023年度末	
	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価損益
売買目的有価証券	—	△8	—	—

(注)金銭の信託及びデリバティブは保有していません。

保険会社及びその子会社等の状況

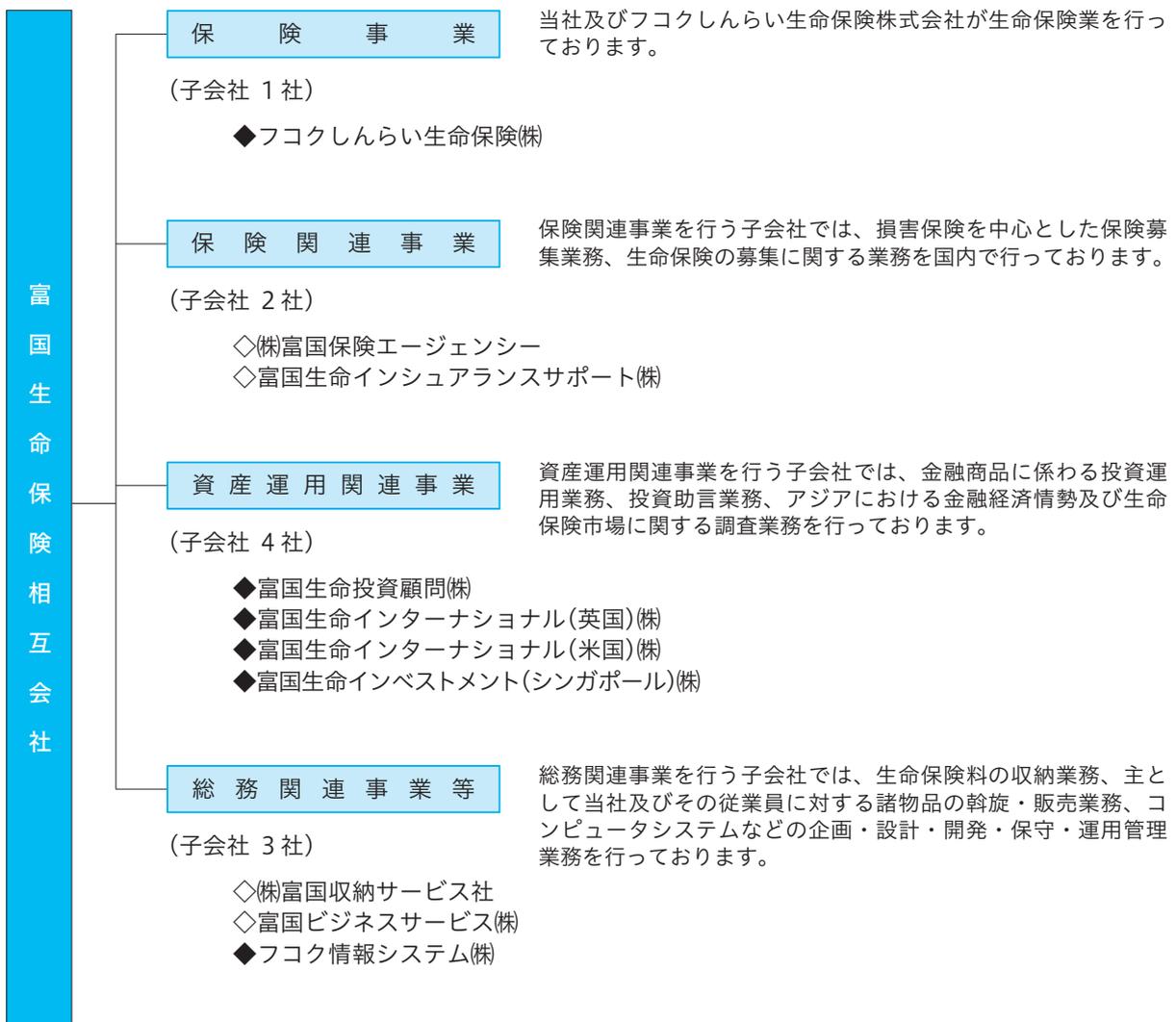
保険会社及びその子会社等の概況

1. 主要な事業の内容及び組織の構成

当社及び子会社で行っている主要な事業の内容と、各子会社の当該事業における位置付けは次のとおりです。

[事業系統図]

(2024年3月31日現在)



(注)各記号の意味は次のとおりです。

◆：連結子会社 ◇：非連結子会社

2. 子会社等に関する事項

2024年3月31日現在

会社名	主たる事業所の所在地	資本金の額	主要な事業内容	設立年月日	総株主の議決権に占める当社の議決権割合	総株主の議決権に占める当社子会社の議決権割合
株式会社 富国保険エージェンシー	東京都千代田区	百万円 10	損害保険・生命 保険の募集業務	1952年 (昭和27年) 10月1日	87.6%	12.4%
株式会社 富国収納サービス社	千葉県印西市	百万円 10	生命保険料の収 納業務	1980年 (昭和55年) 10月20日	92.5%	7.5%
富国生命投資顧問 株式会社	東京都千代田区	百万円 498	金融商品に係わる 投資運用業務及び 投資助言業務	1986年 (昭和61年) 7月24日	99.0%	—
富国生命 インシュアランスサポート 株式会社	東京都千代田区	百万円 50	生命保険の募集 に関する業務の 受託	1994年 (平成6年) 4月1日	100.0%	—
富国ビジネスサービス 株式会社	千葉県印西市	百万円 50	当社印刷物の作 成・発送業務の 受託、物品の斡 旋・販売業務	1995年 (平成7年) 12月1日	100.0%	—
フコクしんらい生命保険 株式会社	東京都新宿区	百万円 35,499	生命保険業	1996年 (平成8年) 8月8日	89.6%	—
フコク情報システム 株式会社	東京都江東区	百万円 300	コンピュータシ ステム及び情報通 信システムの企画・ 設計・開発・保守・ 運用管理業務	2002年 (平成14年) 4月1日	60.0%	—
富国生命 インターナショナル（英国） 株式会社	London, U.K.	万英ポンド 400	金融商品に係わる 投資運用業務及び 投資助言業務	1990年 (平成2年) 9月5日	100.0%	—
富国生命 インターナショナル（米国） 株式会社	New York, U.S.A.	万米ドル 400	金融商品に係わる 投資運用業務及び 投資助言業務	2002年 (平成14年) 3月1日	100.0%	—
富国生命インベストメント （シンガポール） 株式会社	Singapore	万シンガポールドル 200	投資助言業務、 アジアにおける金 融経済情勢及び 生命保険市場に 関する調査業務	2014年 (平成26年) 4月1日	100.0%	—

保険会社及びその子会社等の主要な業務

1.直近事業年度における事業概要

フコク生命グループの保険販売は、地域に密着してFace to Faceの活動をしていく考えのもと、当社の営業職員チャンネルと、フコクしんらい生命の信用金庫を中心とした金融機関窓口販売、募集代理店チャンネルを展開し、お客さまのニーズに合致した商品の提供とアフターサービスの充実に努めております。

【保険事業分野】

2023年度の個人保険および個人年金の業績は、2社合算で次の通りとなりました。

(単位：億円)

項 目	2022年度	2023年度
保 有 契 約 高	265,630	260,909
新 契 約 高	16,673	14,738
保有契約年換算保険料	5,498	5,436
新契約年換算保険料	295	315

フコク生命グループの当連結会計年度の経常収益は、1兆637億円となりました。

このうち、保険料等収入は7,583億円、資産運用収益は2,940億円となりました。

一方、経常費用は1兆103億円となりました。このうち、保険金等支払金は6,235億円、資産運用費用は880億円、事業費は1,048億円となりました。

この結果、経常利益は533億円、親会社に帰属する当期純剰余は381億円となりました。

また、当連結会計年度末の総資産は9兆4,265億円となり、連結ソルベンシー・マージン比率は、1,189.7%と引き続き高い健全性を維持しております。

2.主要な業務の状況を示す指標

(単位：百万円)

項 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
経 常 収 益	864,402	924,142	857,898	1,028,622	1,063,748
経 常 利 益	50,028	90,040	40,519	34,415	53,385
親会社に帰属する当期純剰余	34,388	36,116	33,911	31,650	38,177
包 括 利 益	△ 27,507	212,959	56,500	△ 62,472	332,570

(単位：百万円)

項 目	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末
総 資 産	8,574,467	8,803,440	8,986,931	8,883,718	9,426,567
ソルベンシー・マージン比率	1,331.7%	1,303.9%	1,274.3%	1,171.9%	1,189.7%

保険会社及びその子会社等の財産の状況

1. 連結貸借対照表

(単位：百万円)

年 度	2023年度末 (2023年3月31日現在)		2024年度末 (2024年3月31日現在)	
	2022年度末 (2023年3月31日現在)	2023年度末 (2024年3月31日現在)	2022年度末 (2023年3月31日現在)	2023年度末 (2024年3月31日現在)
科 目			科 目	
(資産の部)			(負債の部)	
現金及び預貯金	524,841	396,782	保険契約準備金	7,540,406
コールローン	130,000	128,000	支払備金	26,326
金銭の信託	25,897	23,502	責任準備金	7,449,355
有価証券	7,321,344	8,015,906	社員配当準備金	64,420
貸付金	527,561	503,151	契約者配当準備金	304
有形固定資産	247,723	256,185	代理店借	461
土地	149,747	149,483	再保険借	60
建物	89,751	101,477	社債	241,935
リース資産	991	985	その他負債	208,704
建設仮勘定	3,649	700	退職給付に係る負債	25,220
その他の有形固定資産	3,583	3,538	価格変動準備金	188,538
無形固定資産	28,690	26,339	繰延税金負債	0
ソフトウェア	23,558	20,421	再評価に係る繰延税金負債	14,164
リース資産	2,635	2,065	負債の部合計	8,219,491
その他の無形固定資産	2,497	3,852	(純資産の部)	
代理店貸	0	0	基金	12,000
再保険貸	83	121	基金償却積立金	116,000
その他資産	61,085	57,951	再評価積立金	112
退職給付に係る資産	1,184	15,696	連結剰余金	133,303
繰延税金資産	16,131	3,634	基金等合計	261,415
貸倒引当金	△ 826	△ 703	その他有価証券評価差額金	390,148
			土地再評価差額金	4,468
			為替換算調整勘定	△ 58
			退職給付に係る調整累計額	274
			その他の包括利益累計額合計	394,833
			非支配株主持分	7,977
			純資産の部合計	664,226
資産の部合計	8,883,718	9,426,567	負債及び純資産の部合計	8,883,718
				9,426,567

2. 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	年 度	
	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
経常収益	1,028,622	1,063,748
保険料等収入	760,603	758,323
資産運用収益	253,691	294,016
利息及び配当金等収入	182,754	193,012
金銭の信託運用益	—	1,185
売買目的有価証券運用益	348	803
有価証券売却益	55,764	66,425
有価証券償還益	11,702	2,508
為替差益	—	2,525
貸倒引当金戻入額	624	117
その他運用収益	322	321
特別勘定資産運用益	2,174	27,117
その他経常収益	14,327	11,408
経常費用	994,207	1,010,362
保険金等支払金	679,967	623,582
保険金	144,133	118,266
年金	288,512	263,969
給付金	150,002	127,650
解約返戻金	71,845	87,879
その他返戻金等	25,473	25,817
責任準備金等繰入額	92,970	166,272
支払備金繰入額	—	2,478
責任準備金繰入額	92,956	163,780
社員配当金積立利息繰入額	13	13
契約者配当金積立利息繰入額	0	0
資産運用費用	90,607	88,009
支払利息	4,479	4,262
金銭の信託運用損	161	—
有価証券売却損	46,995	59,348
有価証券評価損	3,608	1,089
有価証券償還損	185	137
金融派生商品費用	11,221	7,349
為替差損	8,235	—
賃貸用不動産等減価償却費	4,850	5,163
その他運用費用	10,868	10,659
事業費	101,175	104,824
その他経常費用	29,486	27,673
経常利益	34,415	53,385
特別利益	393	33
固定資産等処分益	393	33
特別損失	1,060	10,069
固定資産等処分損	182	202
減損損失	32	657
価格変動準備金繰入額	845	4,741
100周年記念賞与等	—	4,467
契約者配当準備金繰入額	173	153
税金等調整前当期純剰余	33,574	43,197
法人税及び住民税等	4,008	14,678
法人税等調整額	△ 2,191	△ 9,778
法人税等合計	1,816	4,899
当期純剰余	31,757	38,297
非支配株主に帰属する当期純剰余	106	119
親会社に帰属する当期純剰余	31,650	38,177

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	年 度	
	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
当期純剰余	31,757	38,297
その他の包括利益	△ 94,229	294,273
その他有価証券評価差額金	△ 96,789	273,145
為替換算調整勘定	254	315
退職給付に係る調整額	2,305	20,812
包括利益	△ 62,472	332,570
親会社に係る包括利益	△ 62,286	332,428
非支配株主に係る包括利益	△ 186	142

3.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	年 度	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純剰余 (△は損失)		33,574	43,197
賃貸用不動産等減価償却費		4,850	5,163
減価償却費		13,720	11,034
減損損失		32	657
支払備金の増減額 (△は減少)		△ 1,392	2,478
責任準備金の増減額 (△は減少)		92,956	163,780
社員配当準備金積立利息繰入額		13	13
契約者配当準備金積立利息繰入額		0	0
契約者配当準備金繰入額		173	153
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		△ 1,689	△ 123
保険金等支払引当金の増減額 (△は減少)		△ 3,432	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		382	88
価格変動準備金の増減額 (△は減少)		845	4,741
利息及び配当金等収入		△ 182,754	△ 193,012
有価証券関係損益 (△は益)		△ 7,817	△ 30,114
支払利息		4,479	4,262
為替差損益 (△は益)		8,235	△ 2,525
有形固定資産関係損益 (△は益)		△ 218	120
代理店貸の増減額 (△は増加)		△ 0	△ 0
再保険貸の増減額 (△は増加)		92	△ 37
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額 (△は増加)		△ 5,974	△ 4,016
代理店借の増減額 (△は減少)		295	△ 11
再保険借の増減額 (△は減少)		△ 43	△ 6
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額 (△は減少)		△ 1,548	1,961
その他		20,590	22,179
小 計		△ 24,627	29,983
利息及び配当金等の受取額		185,806	188,008
利息の支払額		△ 4,450	△ 3,590
社員配当金の支払額		△ 29,731	△ 30,532
契約者配当金の支払額		△ 192	△ 167
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)		△ 6,640	△ 1,628
営業活動によるキャッシュ・フロー		120,164	182,072
投資活動によるキャッシュ・フロー			
預貯金の純増減額 (△は増加)		△ 9,767	△ 4,594
買入金銭債権の売却・償還による収入		77	—
金銭の信託の増加による支出		—	△ 2,700
金銭の信託の減少による収入		—	6,273
有価証券の取得による支出		△ 983,240	△ 1,355,140
有価証券の売却・償還による収入		1,307,916	1,078,987
貸付けによる支出		△ 75,769	△ 66,140
貸付金の回収による収入		96,953	83,638
金融派生商品の決済による収支 (純額)		△ 146,423	△ 14,624
債券貸借取引受入担保金の増減額 (△は減少)		△ 5,445	△ 34,183
その他		△ 9,853	△ 7,887
資産運用活動計 (営業活動及び資産運用活動計)		174,447 (294,611)	△ 316,371 (△ 134,298)
有形固定資産の取得による支出		△ 8,976	△ 16,085
有形固定資産の売却による収入		1,036	95
無形固定資産の取得による支出		△ 8,863	△ 7,346
投資活動によるキャッシュ・フロー		157,643	△ 339,707
財務活動によるキャッシュ・フロー			
社債の発行による収入		—	74,260
社債の償還による支出		—	△ 49,870
基金利息の支払額		△ 102	△ 102
非支配株主への配当金の支払額		△ 112	△ 15
リース債務の返済による支出		△ 2,467	△ 1,184
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,681	23,089
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 1,226	△ 212
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		273,899	△ 134,757
現金及び現金同等物期首残高		366,999	640,899
現金及び現金同等物期末残高		640,899	506,141

2023年度の事業概況

商品開発と販売商品

経営に関する諸活動

当社の概況および組織

財産の状況

業務の状況を示す指標等

特別勘定に関する指標等

その子会社等
の状況

4. 連結基金等変動計算書

2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位:百万円)

	基金等				
	基金	基金償却積立金	再評価積立金	連結剰余金	基金等合計
当期首残高	12,000	116,000	112	132,765	260,877
当期変動額					
社員配当準備金の積立				△ 30,726	△ 30,726
基金利息の支払				△ 102	△ 102
親会社に帰属する当期純剰余				31,650	31,650
土地再評価差額金の取崩				△ 284	△ 284
基金等以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	—	537	537
当期末残高	12,000	116,000	112	133,303	261,415

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	486,644	4,184	△ 312	△ 2,030	488,486	8,276	757,640
当期変動額							
社員配当準備金の積立							△ 30,726
基金利息の支払							△ 102
親会社に帰属する当期純剰余							31,650
土地再評価差額金の取崩							△ 284
基金等以外の項目の当期変動額(純額)	△ 96,496	284	254	2,305	△ 93,652	△ 298	△ 93,951
当期変動額合計	△ 96,496	284	254	2,305	△ 93,652	△ 298	△ 93,413
当期末残高	390,148	4,468	△ 58	274	394,833	7,977	664,226

2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:百万円)

	基金等				
	基金	基金償却積立金	再評価積立金	連結剰余金	基金等合計
当期首残高	12,000	116,000	112	133,303	261,415
当期変動額					
社員配当準備金の積立				△ 28,002	△ 28,002
基金利息の支払				△ 102	△ 102
親会社に帰属する当期純剰余				38,177	38,177
土地再評価差額金の取崩				△ 32	△ 32
基金等以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	—	10,041	10,041
当期末残高	12,000	116,000	112	143,344	271,456

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	390,148	4,468	△ 58	274	394,833	7,977	664,226
当期変動額							
社員配当準備金の積立							△ 28,002
基金利息の支払							△ 102
親会社に帰属する当期純剰余							38,177
土地再評価差額金の取崩							△ 32
基金等以外の項目の当期変動額(純額)	273,122	32	315	20,812	294,282	127	294,409
当期変動額合計	273,122	32	315	20,812	294,282	127	304,450
当期末残高	663,271	4,500	257	21,087	689,116	8,104	968,677

連結財務諸表の作成方針

項目	2022年度 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)	2023年度 (2023年4月1日から 2024年3月31日まで)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>連結される子会社及び子法人等数 6社 富国生命投資顧問株式会社 フコクしんらい生命保険株式会社 フコク情報システム株式会社 富国生命インターナショナル(英国)株式会社 富国生命インターナショナル(米国)株式会社 富国生命インベストメント(シンガポール)株式会社</p> <p>主要な非連結の子会社及び子法人等は、富国ビジネスサービス株式会社であります。</p> <p>非連結の子会社及び子法人等4社については、総資産、売上高、当期純損益及び剰余金の観点からみて、いずれもそれぞれ小規模であり、当企業集団の財政状態と経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除いております。</p>	同 左
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1)非連結の子会社及び子法人等(富国ビジネスサービス株式会社他)については、それぞれ連結当期純損益及び連結剰余金に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないので、持分法を適用しておりません。</p> <p>(2)関連法人等はありません。</p>	同 左
3. 連結される子会社及び子法人等の事業年度等に関する事項	<p>連結される子会社及び子法人等のうち、在外子会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の決算財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	同 左

注記事項(連結貸借対照表)

2022年度末	2023年度末
<p>1. 会計方針に関する事項</p> <p>(1)有価証券等の評価基準及び評価方法 有価証券(現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む)の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(平成12年11月16日 日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式(保険業法第2条第12項に規定する子会社及び保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたもの及び関連法人等が発行する株式をいう)については移動平均法による原価法、その他有価証券については3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法、取得差額が金利調整差額と認められる公社債(外国債券を含む)については移動平均法による償却原価法(定額法)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法)によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 デリバティブ取引の評価は時価法によっております。</p> <p>(3)土地の再評価に関する法律第3条第3項に規定する再評価の方法 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。 再評価を行った年月日 2002年3月31日 同法律第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第4号に定める路線価に基づいて、合理的な調整を行って算出</p> <p>(4)有形固定資産の減価償却の方法 当社の保有する有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。 ・有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(2016年3月31日以前に取得した附属設備、構築物を除く)については定額法)を採用しております。 ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、その他の有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っております。</p> <p>(5)外貨建資産等の本邦通貨への換算基準 外貨建資産・負債(子会社及び関連会社株式は除く)は、決算日の為替相場により円換算しております。なお、子会社及び関連会社株式は、取得時の為替相場により円換算しております。</p> <p>(6)貸倒引当金の計上方法 当社の貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産手続開始、民事再生手続開始等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という)に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者(以下「実質破綻先」という)に対する債権については、</p>	<p>1. 会計方針に関する事項</p> <p>(1)有価証券等の評価基準及び評価方法 同 左</p> <p>(2)デリバティブ取引の評価基準及び評価方法 同 左</p> <p>(3)土地の再評価に関する法律第3条第3項に規定する再評価の方法 同 左</p> <p>(4)有形固定資産の減価償却の方法 同 左</p> <p>(5)外貨建資産等の本邦通貨への換算基準 同 左</p> <p>(6)貸倒引当金の計上方法 当社の貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産手続開始、民事再生手続開始等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という)に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者(以下「実質破綻先」という)に対する債権については、</p>

2023年度の事業概況
商品開発と販売商品
経営に関する諸活動
当社の概況および組織
財産の状況
業務の状況を示す指標等
特別勘定に関する指標等
保険会社及び

2022年度末	2023年度末						
<p>下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額に対し、同額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除した残額に対し、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する債権については、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額表示しており、その減額した額は0百万円であります。</p> <p>(7)退職給付に係る会計処理の方法 退職給付に係る負債及び資産は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。 退職給付に係る会計処理の方法は次のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="245 996 718 1070"> <tr> <td>退職給付見込額の期間帰属方法</td> <td>給付算定式基準</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td>10年</td> </tr> <tr> <td>過去勤務費用の処理年数</td> <td>10年</td> </tr> </table> <p>(8)価格変動準備金の計上方法 価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。</p> <p>(9)ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」(2019年7月4日 企業会計基準第10号)に従い、主に、外貨建債券等に対する為替変動リスクのヘッジとして時価ヘッジ、当社の発行する外貨建社債に対する為替変動リスクのヘッジとして通貨スワップの振当処理を行っております。</p> <p>なお、ヘッジの有効性の判定には、主に、ヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動又はキャッシュ・フロー変動を比較する比率分析によっております。</p> <p>(10)消費税等の会計処理方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、その他資産に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生連結会計年度に費用処理しております。</p> <p>(11)保険料の計上方法 初回保険料は、原則として、収納があり、保険契約上の責任が開始しているものについて、当該収納した金額により計上しております。 また、2回目以降保険料は、収納があったものについて、当該金額により計上しております。 なお、収納した保険料のうち、当連結会計年度末時点において未経過となっている期間に対応する部分については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第2号に基づき、責任準備金に積み立てております。 団体年金保険の受管に係る保険料は、受管時に、収受した責任準備金相当額により計上しております。</p> <p>(12)保険金・支払備金の計上方法 保険金等支払金（再保険料を除く）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。</p>	退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準	数理計算上の差異の処理年数	10年	過去勤務費用の処理年数	10年	<p>下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額に対し、同額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保及び保証等による回収可能見込額を控除した残額に対し、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する債権については、債権額から担保の評価額及び保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額表示しており、その減額した額は0百万円であります。</p> <p>(7)退職給付に係る会計処理の方法 同 左</p> <p>(8)価格変動準備金の計上方法 同 左</p> <p>(9)ヘッジ会計の方法 同 左</p> <p>(10)消費税等の会計処理方法 同 左</p> <p>(11)保険料の計上方法 同 左</p> <p>(12)保険金・支払備金の計上方法 保険金等支払金（再保険料を除く）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。</p>
退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準						
数理計算上の差異の処理年数	10年						
過去勤務費用の処理年数	10年						

2022年度末	2023年度末
<p>なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、当連結会計年度末時点において支払義務が発生したもの、または、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるものうち、それぞれ保険金等の支出として計上していないものについて、支払備金を積み立てております。</p> <p>また支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められる保険金等（以下「既発生未報告支払備金」という。）については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設または自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）の入院給付金等の支払対象を当事業年度中に変更したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。</p> <p>（計算方法の概要） IBNR告示第1条第1項本則に掲げる全ての事業年度の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額から、重症化リスクの高い方（以下「4類型」という。）以外のみなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。</p> <p>なお、上記の計算で必要となる診断日が2022年9月25日以前の4類型のみなし入院に係る額については、診断日が2022年9月25日以前である65歳以上の方のみなし入院に係る額に診断日が2022年9月26日以降の4類型に係る額と65歳以上の方のみなし入院に係る額の比率を乗じて推計しております。但し、団体保険の非幹事契約の4類型のみなし入院に係る額については、幹事契約の支払額に基づいて推計しております。</p> <p>団体年金保険の移管に係る保険金等支払金は、移管時に、移管先に支出した責任準備金相当額により計上しております。</p> <p>(3)責任準備金の積立方法 当連結会計年度末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、責任準備金を積み立てております。</p> <p>責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。</p> <p>①標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号） ②標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式</p> <p>保険業法施行規則第69条第1項、第2項及び第4項の規定により積み立てられた責任準備金では、算出方法書の計算前提（予定発生率・予定利率等）に基づく将来の予定キャッシュ・フローの見積りが、直近の実績と乖離することにより、将来の債務の履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき追加の責任準備金を計上する必要があります。この規定に基づき以下を積み立てております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定利率が5.00%以上の個人年金保険契約のうち年金支払を開始している契約（妻年金保険買増特約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当連結会計年度末における残高は71,649百万円であります。 ・予定利率が5.00%以上の終身保険契約のうち保険料払込満了を迎えた契約（払済保険または延長保険に変更した契約、一時払契約及び保険料払込免除後契約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当連結会計年度末における残高は106,590百万円であります。 ・5年ごと利差配当付終身医療給付保険、新がん特約、高度先進医療特約及び移植医療特約のそれぞれ一部の契約についても追加して責任準備金を積み立てております。これらの当連結会計年度末における残高は105百万円であります。 	<p>なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、当連結会計年度末時点において支払義務が発生したもの、または、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるものうち、それぞれ保険金等の支出として計上していないものについて、支払備金を積み立てております。</p> <p>また支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められる保険金等（以下「既発生未報告支払備金」という。）については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設または自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）等に入院給付金等を支払う特別取扱を2023年5月8日以降終了したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。</p> <p>（計算方法の概要） IBNR告示第1条第1項本則に掲げる全ての事業年度の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額から、みなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。なお、前連結会計年度末においては、当該みなし入院に係る額の代わりに、重症化リスクの高い方以外のみなし入院に係る額を除外しておりましたが、当連結会計年度中にみなし入院の入院給付金の取扱いを終了したことにより、当該みなし入院に係る額を除外して算出する方法に見直しております。</p> <p>団体年金保険の移管に係る保険金等支払金は、移管時に、移管先に支出した責任準備金相当額により計上しております。</p> <p>(3)責任準備金の積立方法 当連結会計年度末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、責任準備金を積み立てております。</p> <p>責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。</p> <p>①標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号） ②標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式</p> <p>保険業法施行規則第69条第1項、第2項及び第4項の規定により積み立てられた責任準備金では、算出方法書の計算前提（予定発生率・予定利率等）に基づく将来の予定キャッシュ・フローの見積りが、直近の実績と乖離することにより、将来の債務の履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき追加の責任準備金を計上する必要があります。この規定に基づき以下を積み立てております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定利率が5.00%以上の個人年金保険契約のうち年金支払を開始している契約（妻年金保険買増特約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当連結会計年度末における残高は69,848百万円であります。 ・予定利率が5.00%以上の終身保険契約のうち保険料払込満了を迎えた契約（払済保険または延長保険に変更した契約、一時払契約及び保険料払込免除後契約を除く）について予定利率を1.00%に引き下げて追加して責任準備金を積み立てております。当連結会計年度末における残高は105,883百万円であります。 ・5年ごと利差配当付終身医療給付保険、新がん特約、高度先進医療特約及び移植医療特約のそれぞれ一部の契約についても追加して責任準備金を積み立てております。これらの当連結会計年度末における残高は84百万円であります。

2022年度末	2023年度末
<p>なお、責任準備金の積立てについては、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において責任準備金が適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。</p> <p>責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。</p> <p>(4)無形固定資産の減価償却の方法 無形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア 利用可能期間に基づく定額法を採用しております。 ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 <p>(5)責任準備金対応債券 連結子会社の個人保険・個人年金保険に設定した小区分（保険種類・資産運用方針等により設定）に対応した債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものについて、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（平成12年11月16日 日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づき、責任準備金対応債券に区分しております。</p> <p>2. 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（2021年6月17日 企業会計基準適用指針第31号。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これにより、一部の投資信託については、従来、取得原価をもって連結貸借対照表価額としておりましたが、当連結会計年度より、時価をもって連結貸借対照表価額としております。なお、連結財務諸表に与える影響は軽微であります。</p> <p>3. 当社の保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、生命保険事業の公共性や社会性を考慮して、安全かつ有利を基本原則としております。この方針に基づき、流動性を確保しつつ中長期的な視点から資金を配分しており、具体的には、ALM（資産・負債の総合管理）の観点から、公社債や貸付金等の円金利資産を柱に据え、それを補完し、収益性の向上を図るために、許容されるリスクの範囲内で外国証券や株式、不動産といった資産への分散投資を行っております。また、デリバティブについては、主として現物資産及び負債に係る市場リスクのヘッジを目的に活用しております。</p> <p>なお、主な金融商品である有価証券、貸付金及びデリバティブ取引は、それぞれ市場リスク及び信用リスクに晒されております。</p> <p>資産運用リスクの管理にあたっては、取締役会が定めた統合的リスク管理に係る基本3規程に則った諸規程を定め、管理体制を整備し運営しております。具体的には、資産運用リスク管理部門が市場リスクや信用リスク等の状況を日次や月次など定期的に把握・監視しながら、資産運用部門への牽制機能を働かせることにより、基本原則を逸脱する過度なリスクを排除し、資産の安全性を確保しております。なお、市場リスクと信用リスクに関しVaRを用いてリスク量を算出し、保有資産から生じる可能性のある最大損失額を一定の範囲内に抑えるというコントロール方法を採用しております。</p> <p>一般勘定の主な金融資産及び金融負債に係る連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。</p>	<p>なお、責任準備金の積立てについては、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において責任準備金が適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。</p> <p>責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。</p> <p>(4)無形固定資産の減価償却の方法 同 左</p> <p>(5)責任準備金対応債券 当社は、個人保険・個人年金保険及び団体年金保険に設定した小区分（保険種類・資産運用方針等により設定）に対応した債券のうち、負債に応じたデュレーションのコントロールを図る目的で保有するものについて、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（平成12年11月16日 日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づき、責任準備金対応債券に区分しております。</p> <p>2. 当社の保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、生命保険事業の公共性や社会性を考慮して、安全かつ有利を基本原則としております。この方針に基づき、流動性を確保しつつ中長期的な視点から資金を配分しており、具体的には、ALM（資産・負債の総合管理）の観点から、公社債や貸付金等の円金利資産を柱に据え、それを補完し、収益性の向上を図るために、許容されるリスクの範囲内で外国証券や株式、不動産といった資産への分散投資を行っております。また、デリバティブについては、主として現物資産及び負債に係る市場リスクのヘッジを目的に活用しております。</p> <p>なお、主な金融商品である有価証券、貸付金及びデリバティブ取引は、それぞれ市場リスク及び信用リスクに晒されております。</p> <p>資産運用リスクの管理にあたっては、取締役会が定めた統合的リスク管理に係る基本3規程に則った諸規程を定め、管理体制を整備し運営しております。具体的には、資産運用リスク管理部門が市場リスクや信用リスク等の状況を日次や月次など定期的に把握・監視しながら、資産運用部門への牽制機能を働かせることにより、基本原則を逸脱する過度なリスクを排除し、資産の安全性を確保しております。なお、市場リスクと信用リスクに関しVaRを用いてリスク量を算出し、保有資産から生じる可能性のある最大損失額を一定の範囲内に抑えるというコントロール方法を採用しております。</p> <p>一般勘定の主な金融資産及び金融負債に係る連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。</p>

2022年度末				2023年度末			
(単位：百万円)				(単位：百万円)			
連結貸借対照表				連結貸借対照表			
	計上額	時価	差額		計上額	時価	差額
金銭の信託	24,897	24,897	—	金銭の信託	22,502	22,502	—
売買目的有価証券	24,897	24,897	—	売買目的有価証券	22,502	22,502	—
有価証券	7,174,550	7,299,292	124,741	有価証券	7,833,029	7,876,927	43,897
売買目的有価証券	10,232	10,232	—	満期保有目的の債券	1,214,754	1,289,968	75,213
満期保有目的の債券	1,252,237	1,368,169	115,931	責任準備金対応債券	1,265,018	1,233,702	△ 31,316
責任準備金対応債券	835,657	844,467	8,810	その他有価証券	5,353,256	5,353,256	—
その他有価証券	5,076,422	5,076,422	—	貸付金	503,151	507,908	4,756
貸付金	527,561	537,900	10,339	保険約款貸付	49,348	49,348	△ 0
保険約款貸付	50,456	50,456	△ 0	一般貸付	453,802	458,559	4,756
一般貸付	477,104	487,443	10,339	資産計	8,358,683	8,407,337	48,654
資産計	7,727,009	7,862,089	135,080	社債(※1)	267,260	263,910	△ 3,349
社債(※1)	241,935	238,498	△ 3,436	負債計	267,260	263,910	△ 3,349
負債計	241,935	238,498	△ 3,436	金融派生商品(※2)	△ 1,029	△ 1,029	—
金融派生商品(※2)	△ 1,524	△ 1,524	—	ヘッジ会計が適用されていないもの	△ 1,029	△ 1,029	—
ヘッジ会計が適用されていないもの	△ 683	△ 683	—				
ヘッジ会計が適用されているもの	△ 840	△ 840	—				

(※1) 通貨スワップの振当処理を適用しているデリバティブ取引については、ヘッジ対象とされている社債と一体として処理されているため、その時価は、社債に含めて記載しております。
(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で示しております。

(注1) 非上場株式等の市場価格のない株式等については、有価証券に含めておりません。
当該非上場株式等の当連結会計年度末における連結貸借対照表価額は、9,114百万円であります。

(注2) 組合出資金等については、時価算定会計基準適用指針第24-16項に基づき、有価証券に含めておりません。
当該組合出資金等の当連結会計年度末における連結貸借対照表価額は30,957百万円であります。

(注3) 時価算定会計基準適用指針第24-9項の取扱いを適用した投資信託財産が不動産である投資信託については、有価証券に含めております。

4. 主な金融商品の時価の内訳等に関する事項は、次のとおりであります。
金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。
レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における(無調整の)相場価格により算定した時価
レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価
レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1)時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
金銭の信託	—	24,897	—	24,897
売買目的有価証券	—	24,897	—	24,897
有価証券	3,107,340	1,947,228	26,490	5,081,059
売買目的有価証券	—	10,232	—	10,232
外国証券	—	10,232	—	10,232
その他有価証券	3,107,340	1,936,996	26,490	5,070,826
国債	1,724,721	—	—	1,724,721
地方債	—	124,909	—	124,909
社債	—	642,457	—	642,457
株式	740,041	—	—	740,041
外国証券	595,331	1,053,931	26,490	1,675,753
その他の証券	47,246	115,697	—	162,943
資産計	3,107,340	1,972,126	26,490	5,105,957
デリバティブ取引(※1)	△ 169	△ 1,355	—	△ 1,524
通貨関連	—	△ 1,402	—	△ 1,402
金利関連	—	47	—	47
株式関連	△ 31	—	—	△ 31
債券関連	△ 137	—	—	△ 137

(※1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で示しております。

(注) 時価算定会計基準適用指針第24-9項の取扱いを適用した投資信託財産が不動産である投資信託については、本計数の残高には含めておりません。
当該投資信託の当連結会計年度末における連結貸借対照表価額は5,596百万円であります。また、当該投資信託の期首残高から期末残高への調整表は次のとおりであります。

2022年度末					2023年度末						
(単位：百万円)					(単位：百万円)						
期首残高					3,654	期首残高					5,596
当連結会計年度の損益					441	当連結会計年度の損益					203
又はその他の包括利益					441	又はその他の包括利益					203
その他の包括利益に計上(*1)					441	その他の包括利益に計上(*1)					203
購入、売却及び償還					1,500	購入、売却及び償還					4,146
購入					1,500	購入					4,146
期末残高					5,596	期末残高					9,945
(*1) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。					(*1) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。						
(2)時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債					(2)時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債						
(単位：百万円)					(単位：百万円)						
区分	時 価				合計	区分	時 価				合計
	レベル1	レベル2	レベル3			レベル1	レベル2	レベル3			
有価証券	1,575,842	636,794	—	2,212,636	有価証券	1,895,539	628,131	—	2,523,670		
満期保有目的の債券	1,171,314	196,854	—	1,368,169	満期保有目的の債券	1,113,884	176,084	—	1,289,968		
国債	1,171,314	—	—	1,171,314	国債	1,113,884	—	—	1,113,884		
地方債	—	93,825	—	93,825	地方債	—	90,996	—	90,996		
社債	—	103,028	—	103,028	社債	—	85,087	—	85,087		
責任準備金対応債券	404,527	439,940	—	844,467	責任準備金対応債券	781,655	452,047	—	1,233,702		
国債	404,527	—	—	404,527	国債	781,655	—	—	781,655		
地方債	—	126,664	—	126,664	地方債	—	120,376	—	120,376		
社債	—	313,275	—	313,275	社債	—	331,670	—	331,670		
貸付金	—	—	537,900	537,900	貸付金	—	—	507,908	507,908		
保険約款貸付	—	—	50,456	50,456	保険約款貸付	—	—	49,348	49,348		
一般貸付	—	—	487,443	487,443	一般貸付	—	—	458,559	458,559		
資産計	1,575,842	636,794	537,900	2,750,536	資産計	1,895,539	628,131	507,908	3,031,579		
負債	—	238,498	—	238,498	負債	—	263,910	—	263,910		
負債計	—	238,498	—	238,498	負債計	—	263,910	—	263,910		
(3)時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明					(3)時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明						
ア. 有価証券(預貯金・買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」(2019年7月4日 企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取扱うものを含む)					ア. 有価証券(預貯金・買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」(2019年7月4日 企業会計基準第10号)に基づく有価証券として取扱うものを含む)						
有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式、国債(それぞれ一部外国証券を含む)がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債(それぞれ一部外国証券を含む)がこれに含まれます。相場価格が入手できない場合には、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格の時価の算定に用いております。算定にあたり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。					有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式、国債(それぞれ一部外国証券を含む)がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債(それぞれ一部外国証券を含む)がこれに含まれます。相場価格が入手できない場合には、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格の時価の算定に用いております。算定にあたり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。						
イ. 金銭の信託					イ. 金銭の信託						
金銭の信託については、原則として、信託財産である有価証券を「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価としており、レベル2に分類しております。					金銭の信託については、原則として、信託財産である有価証券を「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価としており、レベル2に分類しております。						
ウ. 貸付金					ウ. 貸付金						
保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。					保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。						
一般貸付のうち、変動金利貸付の時価については、将来キャッシュ・フローに市場金利が短期間で反映されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。一方、固定金利貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値へ割り引いた価格によっております。					一般貸付のうち、変動金利貸付の時価については、将来キャッシュ・フローに市場金利が短期間で反映されるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額をもって時価としております。一方、固定金利貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値へ割り引いた価格を時価の算定に用いております。						
なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する貸付金については、直接減額前の帳簿価額から貸倒見積高を控除した額を時価としております。時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。					なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する貸付金については、直接減額前の帳簿価額から貸倒見積高を控除した額を時価としております。時価算定において、重要な観察できないインプットを用いていることからレベル3の時価に分類しております。						
エ. 社債					エ. 社債						
当社の発行する社債については、「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価として					当社の発行する社債については、「有価証券」と同様の方法により算定した価額をもって時価として						

2022年度末																					
<p>おり、レベル2に分類しております。</p> <p>オ. デリバティブ取引 デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しており、主に先物、オプションの取引所取引がこれに含まれます。ただし、大部分のデリバティブ取引は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格の時価の算定に用いております。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル2の時価に分類しており、重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル3の時価に分類しております。</p> <p>(4)時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債のうちレベル3の時価に関する情報 ア. 重要な観察できないインプットに関する定量的情報 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>イ. 期首残高から期末残高への調整表、当連結会計年度の損益に認識した評価損益</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">有価証券 その他有価証券</th> <th style="text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期首残高</td> <td style="text-align: right;">28,139</td> <td style="text-align: right;">28,139</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度の損益</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>又はその他の包括利益</td> <td style="text-align: right;">△ 1,648</td> <td style="text-align: right;">△ 1,648</td> </tr> <tr> <td>損益に計上(*1)</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> </tr> <tr> <td>その他の包括利益に計上(*2)</td> <td style="text-align: right;">△ 1,638</td> <td style="text-align: right;">△ 1,638</td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>(*)1 連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。 (*)2 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。</small></p> <p>ウ. 時価の評価プロセスの説明 当社は資産管理部門にて時価の算定に関する方針及び手続の策定、ならびに時価の算定を行っております。算定された時価は、リスク管理部門にて、当該方針及び手続に準拠しているか妥当性を検証しております。 時価の算定にあたっては、第三者から入手した相場価格につき、別の第三者から入手した相場価格との比較、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。</p> <p>エ. 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>5. 当社では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当連結会計年度末における当該賃貸等不動産の連結貸借対照表価額は197,979百万円、時価は349,089百万円です。なお、時価の算定にあたっては、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)によっております。 また、賃貸等不動産の連結貸借対照表価額に含まれている資産除去債務に対応する額は321百万円です。</p> <p>6. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の連結貸借対照表価額は504,760百万円です。</p> <p>7. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の額は、1,246百万円です。なお、それぞれの内訳は次のとおりです。</p>		有価証券 その他有価証券	合計	期首残高	28,139	28,139	当連結会計年度の損益			又はその他の包括利益	△ 1,648	△ 1,648	損益に計上(*1)	△ 10	△ 10	その他の包括利益に計上(*2)	△ 1,638	△ 1,638	期末残高	26,490	26,490
	有価証券 その他有価証券	合計																			
期首残高	28,139	28,139																			
当連結会計年度の損益																					
又はその他の包括利益	△ 1,648	△ 1,648																			
損益に計上(*1)	△ 10	△ 10																			
その他の包括利益に計上(*2)	△ 1,638	△ 1,638																			
期末残高	26,490	26,490																			

2023年度末																					
<p>おり、レベル2に分類しております。</p> <p>オ. デリバティブ取引 デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しており、主に先物、オプションの取引所取引がこれに含まれます。ただし、大部分のデリバティブ取引は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、主に情報ベンダー、取引先金融機関等の第三者から入手した価格につき、会計基準に従って算定されたものであると判断の上、当該価格の時価の算定に用いております。観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル2の時価に分類しており、重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル3の時価に分類しております。</p> <p>(4)時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債のうちレベル3の時価に関する情報 ア. 重要な観察できないインプットに関する定量的情報 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>イ. 期首残高から期末残高への調整表、当連結会計年度の損益に認識した評価損益</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">有価証券 その他有価証券</th> <th style="text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期首残高</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> <td style="text-align: right;">26,490</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度の損益</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>又はその他の包括利益</td> <td style="text-align: right;">△ 137</td> <td style="text-align: right;">△ 137</td> </tr> <tr> <td>損益に計上(*1)</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> <td style="text-align: right;">△ 10</td> </tr> <tr> <td>その他の包括利益に計上(*2)</td> <td style="text-align: right;">△ 127</td> <td style="text-align: right;">△ 127</td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td style="text-align: right;">26,352</td> <td style="text-align: right;">26,352</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>(*)1 連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。 (*)2 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。</small></p> <p>ウ. 時価の評価プロセスの説明 当社は資産管理部門にて時価の算定に関する方針及び手続の策定、ならびに時価の算定を行っております。算定された時価は、リスク管理部門にて、当該方針及び手続に準拠しているか妥当性を検証しております。 時価の算定にあたっては、第三者から入手した相場価格につき、別の第三者から入手した相場価格との比較、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。</p> <p>エ. 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明 当社は時価の算定にあたって、第三者から入手した相場価格を調整せずに使用しており、当社自身が観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。</p> <p>4. 当社では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当連結会計年度末における当該賃貸等不動産の連結貸借対照表価額は206,835百万円、時価は369,871百万円です。なお、時価の算定にあたっては、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)によっております。 また、賃貸等不動産の連結貸借対照表価額に含まれている資産除去債務に対応する額は277百万円です。</p> <p>5. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券の連結貸借対照表価額は518,568百万円です。</p> <p>6. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の額は、1,160百万円です。なお、それぞれの内訳は次のとおりです。</p>		有価証券 その他有価証券	合計	期首残高	26,490	26,490	当連結会計年度の損益			又はその他の包括利益	△ 137	△ 137	損益に計上(*1)	△ 10	△ 10	その他の包括利益に計上(*2)	△ 127	△ 127	期末残高	26,352	26,352
	有価証券 その他有価証券	合計																			
期首残高	26,490	26,490																			
当連結会計年度の損益																					
又はその他の包括利益	△ 137	△ 137																			
損益に計上(*1)	△ 10	△ 10																			
その他の包括利益に計上(*2)	△ 127	△ 127																			
期末残高	26,352	26,352																			

2022年度末	2023年度末																																								
<p>債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は140百万円であります。</p> <p>上記取立不能見込額の直接減額は、0百万円であります。</p> <p>なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。</p> <p>債権のうち、危険債権額は544百万円であります。</p> <p>なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。</p> <p>債権のうち、三月以上延滞債権額はありません。</p> <p>なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。債権のうち、貸付条件緩和債権額は561百万円であります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>8. 有形固定資産の減価償却累計額は183,559百万円であります。</p> <p>9. 特別勘定の資産の額は118,783百万円であります。なお、負債の額も同額であります。</p> <p>10. 非連結の子会社等に対する金銭債権の総額は2,229百万円、金銭債務の総額は42百万円であります。</p> <p>11. 繰延税金資産の総額は177,047百万円、繰延税金負債の総額は156,019百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は4,896百万円あります。繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金102,788百万円、価格変動準備金52,790百万円及び退職給付に係る負債12,766百万円あります。繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、その他有価証券の評価差額149,777百万円あります。当社の当連結会計年度における法定実効税率は28.0%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率5.4%との間の差異の主要な内訳は、社員配当準備金△23.4%であります。</p> <p>12. 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr> <td>当連結会計年度期首現在高</td> <td>63,411百万円</td> </tr> <tr> <td>前連結会計年度剰余金よりの繰入額</td> <td>30,726百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度社員配当金支払額</td> <td>29,731百万円</td> </tr> <tr> <td>利息による増加等</td> <td>13百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度末現在高</td> <td>64,420百万円</td> </tr> </table> <p>13. 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr> <td>当連結会計年度期首現在高</td> <td>322百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度契約者配当金支払額</td> <td>192百万円</td> </tr> <tr> <td>利息による増加等</td> <td>0百万円</td> </tr> <tr> <td>契約者配当準備金繰入額</td> <td>173百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度末現在高</td> <td>304百万円</td> </tr> </table> <p>14. 非連結の子会社等の株式は404百万円あります。</p>	当連結会計年度期首現在高	63,411百万円	前連結会計年度剰余金よりの繰入額	30,726百万円	当連結会計年度社員配当金支払額	29,731百万円	利息による増加等	13百万円	当連結会計年度末現在高	64,420百万円	当連結会計年度期首現在高	322百万円	当連結会計年度契約者配当金支払額	192百万円	利息による増加等	0百万円	契約者配当準備金繰入額	173百万円	当連結会計年度末現在高	304百万円	<p>債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は133百万円あります。</p> <p>上記取立不能見込額の直接減額は、0百万円あります。</p> <p>なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。</p> <p>債権のうち、危険債権額は508百万円あります。</p> <p>なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。</p> <p>債権のうち、三月以上延滞債権額はありません。</p> <p>なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。債権のうち、貸付条件緩和債権額は518百万円あります。</p> <p>なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>7. 有形固定資産の減価償却累計額は183,509百万円あります。</p> <p>8. 特別勘定の資産の額は141,452百万円あります。なお、負債の額も同額であります。</p> <p>9. 非連結の子会社等に対する金銭債権の総額は2,914百万円、金銭債務の総額は40百万円あります。</p> <p>10. 当社の取締役に対する金銭債権の総額は3百万円あります。</p> <p>11. 繰延税金資産の総額は186,185百万円、繰延税金負債の総額は269,459百万円あります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は5,016百万円あります。繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金114,810百万円、価格変動準備金54,118百万円及び退職給付に係る負債8,742百万円あります。繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、その他有価証券の評価差額255,853百万円あります。当社の当連結会計年度における法定実効税率は28.0%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率11.3%との間の差異の主要な内訳は、社員配当準備金△24.1%であります。</p> <p>12. 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr> <td>当連結会計年度期首現在高</td> <td>64,420百万円</td> </tr> <tr> <td>前連結会計年度剰余金よりの繰入額</td> <td>28,002百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度社員配当金支払額</td> <td>30,532百万円</td> </tr> <tr> <td>利息による増加等</td> <td>13百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度末現在高</td> <td>61,903百万円</td> </tr> </table> <p>13. 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr> <td>当連結会計年度期首現在高</td> <td>304百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度契約者配当金支払額</td> <td>167百万円</td> </tr> <tr> <td>利息による増加等</td> <td>0百万円</td> </tr> <tr> <td>契約者配当準備金繰入額</td> <td>153百万円</td> </tr> <tr> <td>当連結会計年度末現在高</td> <td>290百万円</td> </tr> </table> <p>14. 非連結の子会社等の株式は404百万円あります。</p>	当連結会計年度期首現在高	64,420百万円	前連結会計年度剰余金よりの繰入額	28,002百万円	当連結会計年度社員配当金支払額	30,532百万円	利息による増加等	13百万円	当連結会計年度末現在高	61,903百万円	当連結会計年度期首現在高	304百万円	当連結会計年度契約者配当金支払額	167百万円	利息による増加等	0百万円	契約者配当準備金繰入額	153百万円	当連結会計年度末現在高	290百万円
当連結会計年度期首現在高	63,411百万円																																								
前連結会計年度剰余金よりの繰入額	30,726百万円																																								
当連結会計年度社員配当金支払額	29,731百万円																																								
利息による増加等	13百万円																																								
当連結会計年度末現在高	64,420百万円																																								
当連結会計年度期首現在高	322百万円																																								
当連結会計年度契約者配当金支払額	192百万円																																								
利息による増加等	0百万円																																								
契約者配当準備金繰入額	173百万円																																								
当連結会計年度末現在高	304百万円																																								
当連結会計年度期首現在高	64,420百万円																																								
前連結会計年度剰余金よりの繰入額	28,002百万円																																								
当連結会計年度社員配当金支払額	30,532百万円																																								
利息による増加等	13百万円																																								
当連結会計年度末現在高	61,903百万円																																								
当連結会計年度期首現在高	304百万円																																								
当連結会計年度契約者配当金支払額	167百万円																																								
利息による増加等	0百万円																																								
契約者配当準備金繰入額	153百万円																																								
当連結会計年度末現在高	290百万円																																								

2022年度末	2023年度末																																																																																						
<p>15. 担保に供されている資産の額は、有価証券175,557百万円であります。 また、担保付き債務の額は161,480百万円であります。 なお、上記には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券147,552百万円及び受入担保金155,483百万円が含まれております。</p> <p>16. 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という。）の金額は0百万円であり、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という。）の金額は40百万円であります。</p> <p>17. 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は8,604百万円であります。</p> <p>18. 社債は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債であります。</p> <p>19. 退職給付に関する事項は次のとおりであります。 (1)採用している退職給付制度の概要 当社及び連結子会社は、内務職員については、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。 営業職員については、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。 なお、営業職員の退職一時金制度には、退職給付信託が設定されております。 当社の一部の退職一時金制度及び一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>(2)確定給付制度 ①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における退職給付債務</td> <td>91,156百万円</td> </tr> <tr> <td>勤務費用</td> <td>3,718百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td>542百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>△ 12百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△ 4,450百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における退職給付債務</td> <td>90,953百万円</td> </tr> </table> <p>②年金資産の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における年金資産</td> <td>64,301百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td>1,232百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>2,410百万円</td> </tr> <tr> <td>事業主からの拠出額</td> <td>1,105百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△ 2,135百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における年金資産</td> <td>66,918百万円</td> </tr> </table> <p>③退職給付債務及び年金資産と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>積立型制度の退職給付債務</td> <td>78,877百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td>△ 66,918百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11,959百万円</td> </tr> <tr> <td>非積立型制度の退職給付債務</td> <td>12,076百万円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>24,035百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付に係る負債</td> <td>25,220百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付に係る資産</td> <td>△ 1,184百万円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>24,035百万円</td> </tr> </table>	期首における退職給付債務	91,156百万円	勤務費用	3,718百万円	利息費用	542百万円	数理計算上の差異の発生額	△ 12百万円	退職給付の支払額	△ 4,450百万円	期末における退職給付債務	90,953百万円	期首における年金資産	64,301百万円	期待運用収益	1,232百万円	数理計算上の差異の発生額	2,410百万円	事業主からの拠出額	1,105百万円	退職給付の支払額	△ 2,135百万円	その他	3百万円	期末における年金資産	66,918百万円	積立型制度の退職給付債務	78,877百万円	年金資産	△ 66,918百万円		11,959百万円	非積立型制度の退職給付債務	12,076百万円	連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,035百万円	退職給付に係る負債	25,220百万円	退職給付に係る資産	△ 1,184百万円	連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,035百万円	<p>15. 担保に供されている資産の額は、有価証券138,648百万円であります。 また、担保付き債務の額は127,337百万円であります。 なお、上記には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券114,460百万円及び受入担保金121,299百万円が含まれております。</p> <p>16. 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という。）の金額は0百万円であり、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という。）の金額は33百万円であります。</p> <p>17. 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は4,344百万円であります。</p> <p>18. 社債は、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付社債であります。</p> <p>19. 退職給付に関する事項は次のとおりであります。 (1)採用している退職給付制度の概要 当社及び連結子会社は、内務職員については、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。 なお、当社の内務職員の退職給付制度について、2023年9月末に定年年齢の65歳への引き上げ等に伴う改正を行っており、過去勤務費用△6,929百万円が発生しております。 営業職員については、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。 なお、営業職員の退職一時金制度には、退職給付信託が設定されております。 当社の一部の退職一時金制度及び一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>(2)確定給付制度 ①退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における退職給付債務</td> <td>90,953百万円</td> </tr> <tr> <td>勤務費用</td> <td>3,696百万円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td>520百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>△ 9,156百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△ 3,766百万円</td> </tr> <tr> <td>過去勤務費用の発生額</td> <td>△ 6,929百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における退職給付債務</td> <td>75,319百万円</td> </tr> </table> <p>②年金資産の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>期首における年金資産</td> <td>66,918百万円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td>1,229百万円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の発生額</td> <td>12,579百万円</td> </tr> <tr> <td>事業主からの拠出額</td> <td>949百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△ 1,578百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3百万円</td> </tr> <tr> <td>期末における年金資産</td> <td>80,101百万円</td> </tr> </table> <p>③退職給付債務及び年金資産と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び資産の調整表</p> <table border="1"> <tr> <td>積立型制度の退職給付債務</td> <td>66,035百万円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td>△ 80,101百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>△ 14,066百万円</td> </tr> <tr> <td>非積立型制度の退職給付債務</td> <td>9,284百万円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>△ 4,782百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付に係る負債</td> <td>10,914百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付に係る資産</td> <td>△ 15,696百万円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</td> <td>△ 4,782百万円</td> </tr> </table>	期首における退職給付債務	90,953百万円	勤務費用	3,696百万円	利息費用	520百万円	数理計算上の差異の発生額	△ 9,156百万円	退職給付の支払額	△ 3,766百万円	過去勤務費用の発生額	△ 6,929百万円	期末における退職給付債務	75,319百万円	期首における年金資産	66,918百万円	期待運用収益	1,229百万円	数理計算上の差異の発生額	12,579百万円	事業主からの拠出額	949百万円	退職給付の支払額	△ 1,578百万円	その他	3百万円	期末における年金資産	80,101百万円	積立型制度の退職給付債務	66,035百万円	年金資産	△ 80,101百万円		△ 14,066百万円	非積立型制度の退職給付債務	9,284百万円	連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 4,782百万円	退職給付に係る負債	10,914百万円	退職給付に係る資産	△ 15,696百万円	連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 4,782百万円
期首における退職給付債務	91,156百万円																																																																																						
勤務費用	3,718百万円																																																																																						
利息費用	542百万円																																																																																						
数理計算上の差異の発生額	△ 12百万円																																																																																						
退職給付の支払額	△ 4,450百万円																																																																																						
期末における退職給付債務	90,953百万円																																																																																						
期首における年金資産	64,301百万円																																																																																						
期待運用収益	1,232百万円																																																																																						
数理計算上の差異の発生額	2,410百万円																																																																																						
事業主からの拠出額	1,105百万円																																																																																						
退職給付の支払額	△ 2,135百万円																																																																																						
その他	3百万円																																																																																						
期末における年金資産	66,918百万円																																																																																						
積立型制度の退職給付債務	78,877百万円																																																																																						
年金資産	△ 66,918百万円																																																																																						
	11,959百万円																																																																																						
非積立型制度の退職給付債務	12,076百万円																																																																																						
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,035百万円																																																																																						
退職給付に係る負債	25,220百万円																																																																																						
退職給付に係る資産	△ 1,184百万円																																																																																						
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	24,035百万円																																																																																						
期首における退職給付債務	90,953百万円																																																																																						
勤務費用	3,696百万円																																																																																						
利息費用	520百万円																																																																																						
数理計算上の差異の発生額	△ 9,156百万円																																																																																						
退職給付の支払額	△ 3,766百万円																																																																																						
過去勤務費用の発生額	△ 6,929百万円																																																																																						
期末における退職給付債務	75,319百万円																																																																																						
期首における年金資産	66,918百万円																																																																																						
期待運用収益	1,229百万円																																																																																						
数理計算上の差異の発生額	12,579百万円																																																																																						
事業主からの拠出額	949百万円																																																																																						
退職給付の支払額	△ 1,578百万円																																																																																						
その他	3百万円																																																																																						
期末における年金資産	80,101百万円																																																																																						
積立型制度の退職給付債務	66,035百万円																																																																																						
年金資産	△ 80,101百万円																																																																																						
	△ 14,066百万円																																																																																						
非積立型制度の退職給付債務	9,284百万円																																																																																						
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 4,782百万円																																																																																						
退職給付に係る負債	10,914百万円																																																																																						
退職給付に係る資産	△ 15,696百万円																																																																																						
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 4,782百万円																																																																																						

2022年度末	2023年度末																																																																																																
<p>④退職給付に関連する損益</p> <table border="0"> <tr><td>勤務費用</td><td style="text-align: right;">3,718百万円</td></tr> <tr><td>利息費用</td><td style="text-align: right;">542百万円</td></tr> <tr><td>期待運用収益</td><td style="text-align: right;">△ 1,232百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の費用処理額</td><td style="text-align: right;">772百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用の費用処理額</td><td style="text-align: right;">5百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△ 3百万円</td></tr> <tr><td>確定給付制度に係る退職給付費用</td><td style="text-align: right;"><u>3,802百万円</u></td></tr> </table> <p>⑤退職給付に係る調整額</p> <p>退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>数理計算上の差異</td><td style="text-align: right;">3,196百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用</td><td style="text-align: right;">5百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;"><u>3,201百万円</u></td></tr> </table> <p>⑥退職給付に係る調整累計額</p> <p>退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>未認識数理計算上の差異</td><td style="text-align: right;">421百万円</td></tr> <tr><td>未認識過去勤務費用</td><td style="text-align: right;">△ 40百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;"><u>381百万円</u></td></tr> </table> <p>⑦年金資産の主な内訳</p> <p>年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおり であります。</p> <table border="0"> <tr><td>国内株式</td><td style="text-align: right;">44.8 %</td></tr> <tr><td>生命保険一般勘定</td><td style="text-align: right;">30.4 %</td></tr> <tr><td>国内債券</td><td style="text-align: right;">9.3 %</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td style="text-align: right;">8.2 %</td></tr> <tr><td>共同運用資産</td><td style="text-align: right;">3.7 %</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td style="text-align: right;">3.5 %</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;"><u>100.0 %</u></td></tr> </table> <p>年金資産合計には、営業職員の退職一時金制度に対し て設定した退職給付信託が38.1%含まれております。</p> <p>⑧長期期待運用収益率の設定方法</p> <p>年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在 及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する 多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率 を考慮しております。</p> <p>⑨数理計算上の計算基礎に関する事項</p> <p>期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のと おりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>割引率</td><td style="text-align: right;">0.6 %</td></tr> <tr><td>長期期待運用収益率</td><td></td></tr> <tr><td> 確定給付企業年金</td><td style="text-align: right;">3.0 %</td></tr> <tr><td> 退職給付信託</td><td style="text-align: right;">0.0 %</td></tr> </table> <p>(3)確定拠出制度</p> <p>当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は 339百万円であります。</p>	勤務費用	3,718百万円	利息費用	542百万円	期待運用収益	△ 1,232百万円	数理計算上の差異の費用処理額	772百万円	過去勤務費用の費用処理額	5百万円	その他	△ 3百万円	確定給付制度に係る退職給付費用	<u>3,802百万円</u>	数理計算上の差異	3,196百万円	過去勤務費用	5百万円	合計	<u>3,201百万円</u>	未認識数理計算上の差異	421百万円	未認識過去勤務費用	△ 40百万円	合計	<u>381百万円</u>	国内株式	44.8 %	生命保険一般勘定	30.4 %	国内債券	9.3 %	外国株式	8.2 %	共同運用資産	3.7 %	外国債券	3.5 %	合計	<u>100.0 %</u>	割引率	0.6 %	長期期待運用収益率		確定給付企業年金	3.0 %	退職給付信託	0.0 %	<p>④退職給付に関連する損益</p> <table border="0"> <tr><td>勤務費用</td><td style="text-align: right;">3,696百万円</td></tr> <tr><td>利息費用</td><td style="text-align: right;">520百万円</td></tr> <tr><td>期待運用収益</td><td style="text-align: right;">△ 1,229百万円</td></tr> <tr><td>数理計算上の差異の費用処理額</td><td style="text-align: right;">582百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用の費用処理額</td><td style="text-align: right;">△ 341百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△ 3百万円</td></tr> <tr><td>確定給付制度に係る退職給付費用</td><td style="text-align: right;"><u>3,225百万円</u></td></tr> </table> <p>⑤退職給付に係る調整額</p> <p>退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>数理計算上の差異</td><td style="text-align: right;">22,318百万円</td></tr> <tr><td>過去勤務費用</td><td style="text-align: right;">6,588百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;"><u>28,906百万円</u></td></tr> </table> <p>⑥退職給付に係る調整累計額</p> <p>退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>未認識数理計算上の差異</td><td style="text-align: right;">22,740百万円</td></tr> <tr><td>未認識過去勤務費用</td><td style="text-align: right;">6,547百万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;"><u>29,288百万円</u></td></tr> </table> <p>⑦年金資産の主な内訳</p> <p>年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のと おりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>国内株式</td><td style="text-align: right;">49.4 %</td></tr> <tr><td>生命保険一般勘定</td><td style="text-align: right;">26.6 %</td></tr> <tr><td>国内債券</td><td style="text-align: right;">9.1 %</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td style="text-align: right;">8.9 %</td></tr> <tr><td>共同運用資産</td><td style="text-align: right;">3.1 %</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td style="text-align: right;">3.0 %</td></tr> <tr><td>合計</td><td style="text-align: right;"><u>100.0 %</u></td></tr> </table> <p>年金資産合計には、営業職員の退職一時金制度に対し て設定した退職給付信託が42.0%含まれております。</p> <p>⑧長期期待運用収益率の設定方法</p> <p>年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在 及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する 多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率 を考慮しております。</p> <p>⑨数理計算上の計算基礎に関する事項</p> <p>期末における主要な数理計算上の計算基礎は次のと おりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>割引率</td><td style="text-align: right;">1.6 %</td></tr> <tr><td>長期期待運用収益率</td><td></td></tr> <tr><td> 確定給付企業年金</td><td style="text-align: right;">3.0 %</td></tr> <tr><td> 退職給付信託</td><td style="text-align: right;">0.0 %</td></tr> </table> <p>(3)確定拠出制度</p> <p>当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は 358百万円であります。</p>	勤務費用	3,696百万円	利息費用	520百万円	期待運用収益	△ 1,229百万円	数理計算上の差異の費用処理額	582百万円	過去勤務費用の費用処理額	△ 341百万円	その他	△ 3百万円	確定給付制度に係る退職給付費用	<u>3,225百万円</u>	数理計算上の差異	22,318百万円	過去勤務費用	6,588百万円	合計	<u>28,906百万円</u>	未認識数理計算上の差異	22,740百万円	未認識過去勤務費用	6,547百万円	合計	<u>29,288百万円</u>	国内株式	49.4 %	生命保険一般勘定	26.6 %	国内債券	9.1 %	外国株式	8.9 %	共同運用資産	3.1 %	外国債券	3.0 %	合計	<u>100.0 %</u>	割引率	1.6 %	長期期待運用収益率		確定給付企業年金	3.0 %	退職給付信託	0.0 %
勤務費用	3,718百万円																																																																																																
利息費用	542百万円																																																																																																
期待運用収益	△ 1,232百万円																																																																																																
数理計算上の差異の費用処理額	772百万円																																																																																																
過去勤務費用の費用処理額	5百万円																																																																																																
その他	△ 3百万円																																																																																																
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>3,802百万円</u>																																																																																																
数理計算上の差異	3,196百万円																																																																																																
過去勤務費用	5百万円																																																																																																
合計	<u>3,201百万円</u>																																																																																																
未認識数理計算上の差異	421百万円																																																																																																
未認識過去勤務費用	△ 40百万円																																																																																																
合計	<u>381百万円</u>																																																																																																
国内株式	44.8 %																																																																																																
生命保険一般勘定	30.4 %																																																																																																
国内債券	9.3 %																																																																																																
外国株式	8.2 %																																																																																																
共同運用資産	3.7 %																																																																																																
外国債券	3.5 %																																																																																																
合計	<u>100.0 %</u>																																																																																																
割引率	0.6 %																																																																																																
長期期待運用収益率																																																																																																	
確定給付企業年金	3.0 %																																																																																																
退職給付信託	0.0 %																																																																																																
勤務費用	3,696百万円																																																																																																
利息費用	520百万円																																																																																																
期待運用収益	△ 1,229百万円																																																																																																
数理計算上の差異の費用処理額	582百万円																																																																																																
過去勤務費用の費用処理額	△ 341百万円																																																																																																
その他	△ 3百万円																																																																																																
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>3,225百万円</u>																																																																																																
数理計算上の差異	22,318百万円																																																																																																
過去勤務費用	6,588百万円																																																																																																
合計	<u>28,906百万円</u>																																																																																																
未認識数理計算上の差異	22,740百万円																																																																																																
未認識過去勤務費用	6,547百万円																																																																																																
合計	<u>29,288百万円</u>																																																																																																
国内株式	49.4 %																																																																																																
生命保険一般勘定	26.6 %																																																																																																
国内債券	9.1 %																																																																																																
外国株式	8.9 %																																																																																																
共同運用資産	3.1 %																																																																																																
外国債券	3.0 %																																																																																																
合計	<u>100.0 %</u>																																																																																																
割引率	1.6 %																																																																																																
長期期待運用収益率																																																																																																	
確定給付企業年金	3.0 %																																																																																																
退職給付信託	0.0 %																																																																																																

注記事項(連結損益計算書)

2022年度	2023年度																								
<p>1. 非連結の子会社等との取引による収益の総額は120百万円、費用の総額は1,184百万円であります。</p> <p>2. 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金戻入額の金額は1百万円、責任準備金繰入額の計算上、足し上げられた出再責任準備金戻入額の金額は2百万円であります。</p>	<p>1. 非連結の子会社等との取引による収益の総額は105百万円、費用の総額は1,281百万円であります。</p> <p>2. 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額の金額は0百万円、責任準備金繰入額の計算上、足し上げられた出再責任準備金戻入額の金額は7百万円であります。</p> <p>3. 当社の当連結会計年度における減損損失に関する事項は、次のとおりであります。</p> <p>(1)資産のグルーピング方法 保険事業の用に供している不動産等については、保険事業全体で一つの資産グループとしております。それ以外の賃貸不動産等及び遊休不動産等については、それぞれの物件ごとに一つの資産グループとしております。</p> <p>(2)減損損失の認識に至った経緯 賃料収入の減少や地価の下落により収益性が著しく低下した一部の賃貸不動産等及び遊休不動産等について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。</p> <p>(3)減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">①賃貸不動産等</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">56百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物等</td> <td style="text-align: right;">8百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">64百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">②遊休不動産等</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">107百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物等</td> <td style="text-align: right;">485百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">593百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③合計(①+②)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">163百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物等</td> <td style="text-align: right;">494百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">657百万円</td> </tr> </table> <p>(4)回収可能価額の算定方法 回収可能価額は正味売却価額を適用しております。なお、正味売却価額については、鑑定評価額、又は公示価格ないし路線価に基づく評価額を使用しております。</p>	①賃貸不動産等		土地	56百万円	建物等	8百万円	合計	64百万円	②遊休不動産等		土地	107百万円	建物等	485百万円	合計	593百万円	③合計(①+②)		土地	163百万円	建物等	494百万円	合計	657百万円
①賃貸不動産等																									
土地	56百万円																								
建物等	8百万円																								
合計	64百万円																								
②遊休不動産等																									
土地	107百万円																								
建物等	485百万円																								
合計	593百万円																								
③合計(①+②)																									
土地	163百万円																								
建物等	494百万円																								
合計	657百万円																								

2023年度の事業概況
 商品開発と販売商品
 経営に関する諸活動
 当社の概況および組織
 財産の状況
 業務の状況を示す指標等
 特別勘定に関する指標等
 保険会社及び

注記事項(連結包括利益計算書)

2022年度		2023年度	
1. その他の包括利益の内訳		1. その他の包括利益の内訳	
その他の有価証券評価差額金:		その他の有価証券評価差額金:	
当期発生額	△ 117,506百万円	当期発生額	390,203百万円
組替調整額	△ 17,496百万円	組替調整額	△ 10,982百万円
税効果調整前	△ 135,002百万円	税効果調整前	379,221百万円
税効果額	38,212百万円	税効果額	△ 106,075百万円
その他の有価証券評価差額金	△ 96,789百万円	その他の有価証券評価差額金	273,145百万円
為替換算調整勘定:		為替換算調整勘定:	
当期発生額	254百万円	当期発生額	315百万円
組替調整額	—	組替調整額	—
税効果調整前	254百万円	税効果調整前	315百万円
税効果額	—	税効果額	—
為替換算調整勘定	254百万円	為替換算調整勘定	315百万円
退職給付に係る調整額:		退職給付に係る調整額:	
当期発生額	2,423百万円	当期発生額	28,664百万円
組替調整額	777百万円	組替調整額	241百万円
税効果調整前	3,201百万円	税効果調整前	28,906百万円
税効果額	△ 896百万円	税効果額	△ 8,093百万円
退職給付に係る調整額	2,305百万円	退職給付に係る調整額	20,812百万円
その他の包括利益合計	△ 94,229百万円	その他の包括利益合計	294,273百万円

注記事項(連結キャッシュ・フロー計算書)

2022年度	2023年度																				
<p>1. 現金及び現金同等物の範囲は、「現金」「振替口座の預り金」「当座預金」「普通預金」「通知預金」「満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月以内の定期預金」「満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月以内の外貨預金」「満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月以内の譲渡性預金」「コールローン」「満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月以内の買入金銭債権」であります。</p> <p>2. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上に記載されている科目別の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預貯金勘定</td> <td style="text-align: right;">524,841百万円</td> </tr> <tr> <td>コールローン勘定</td> <td style="text-align: right;">130,000百万円</td> </tr> <tr> <td>満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△ 13,100百万円</td> </tr> <tr> <td>満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える外貨預金</td> <td style="text-align: right;">△ 842百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">640,899百万円</td> </tr> </table>	現金及び預貯金勘定	524,841百万円	コールローン勘定	130,000百万円	満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える定期預金	△ 13,100百万円	満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える外貨預金	△ 842百万円	現金及び現金同等物	640,899百万円	<p>1. 同 左</p> <p>2. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上に記載されている科目別の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預貯金勘定</td> <td style="text-align: right;">396,782百万円</td> </tr> <tr> <td>コールローン勘定</td> <td style="text-align: right;">128,000百万円</td> </tr> <tr> <td>満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">△ 17,000百万円</td> </tr> <tr> <td>満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える外貨預金</td> <td style="text-align: right;">△ 1,640百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">506,141百万円</td> </tr> </table>	現金及び預貯金勘定	396,782百万円	コールローン勘定	128,000百万円	満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える定期預金	△ 17,000百万円	満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える外貨預金	△ 1,640百万円	現金及び現金同等物	506,141百万円
現金及び預貯金勘定	524,841百万円																				
コールローン勘定	130,000百万円																				
満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える定期預金	△ 13,100百万円																				
満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える外貨預金	△ 842百万円																				
現金及び現金同等物	640,899百万円																				
現金及び預貯金勘定	396,782百万円																				
コールローン勘定	128,000百万円																				
満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える定期預金	△ 17,000百万円																				
満期・償還までの期間が取得日から3ヵ月を超える外貨預金	△ 1,640百万円																				
現金及び現金同等物	506,141百万円																				

2023年度の事業概況
商品開発と販売商品
経営に関する諸活動
当社の概況および組織
財産の状況
業務の状況を示す指標等
特別勘定に関する指標等
保険会社及びその子会社等の状況

5. 内部統制報告書

当社代表者は、財務報告に係る内部統制の有効性の評価を行っています。2023年度の内部統制報告書は以下のとおりです。

内部統制報告書

2024年5月16日

富国生命保険相互会社
代表取締役社長 米山好映

1. 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長米山好映は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しています。ただし、当社の財務報告とは、保険業法第110条第2項の規定に基づき作成した連結財務諸表、すなわち連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結基金等変動計算書、連結財務諸表の作成方針及びその他の注記のことです。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものです。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2. 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2024年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況の評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、連結子会社5社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の経常収益（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結経常収益の概ね2/3に達している2事業拠点（当社及び連結子会社1社）を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として有価証券、一般貸付金、保険契約準備金の他、保険契約準備金の計算に重要な影響を与える保険料等収入と保険金等支払金に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しています。

3. 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4. 【付記事項】

該当事項はありません。

5. 【特記事項】

該当事項はありません。

以上

●連結財務諸表及び内部統制報告書についての会計監査人の監査報告

当社は、保険業法第110条第2項の規定に基づき作成され、業務報告書に含まれる2023年度の連結財務諸表についてMooreみらい監査法人の監査を受けており、2024年5月16日付けの監査報告書を受領しております。なお、当誌の連結財務諸表は、上記の業務報告書における2023年度の連結財務諸表に基づき記載内容を一部追加・変更するとともに、様式を一部変更して作成しておりますが、この連結財務諸表そのものについては監査を受けておりません。

6. 保険業法に基づく債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	2022年度末	2023年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	140	133
危険債権	544	508
三月以上延滞債権	—	—
貸付条件緩和債権	561	518
小 計	1,246	1,160
(対合計比)	(0.12)	(0.11)
正常債権	1,035,561	1,025,086
合 計	1,036,808	1,026,246

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。(注1に掲げる債権を除く。)
3. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸付金です。(注1及び2に掲げる債権を除く。)
4. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金です。(注1から3に掲げる債権を除く。)
5. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から4までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

7. 保険会社及びその子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況

(連結ソルベンシー・マージン比率)

(単位：百万円)

項 目	2022年度末	2023年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	1,923,471	2,381,877
基金等	238,663	239,002
価格変動準備金	188,538	193,279
危険準備金	170,512	211,786
異常危険準備金	—	—
一般貸倒引当金	404	330
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%	486,289	827,687
土地の含み損益×85%	155,499	165,661
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	381	29,288
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	395,807	398,926
負債性資本調達手段等	241,935	267,260
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	45,439	48,655
リスクの合計額 $\sqrt{((R_1^2 + R_5^2 + R_6^2 + R_8^2) + (R_2 + R_3 + R_7)^2) + R_4 + R_9}$ (B)	328,259	400,408
保険リスク相当額 R_1	21,801	21,411
一般保険リスク相当額 R_5	—	—
巨大災害リスク相当額 R_6	—	—
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	10,241	10,268
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R_9	—	—
予定利率リスク相当額 R_2	21,398	20,369
最低保証リスク相当額 R_7	—	—
資産運用リスク相当額 R_3	298,225	370,309
経営管理リスク相当額 R_4	7,033	8,447
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,171.9%	1,189.7%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条の2、第88条及び平成23年金融庁告示第23号の規定に基づいて算出しています。

【ご参考】経済価値ベースのソルベンシー比率(連結)

	2021年度末	2022年度末	2023年度末
ESR	241.7%	245.2%	258.2%

(注)上記は経済価値ベースのソルベンシー比率をすでに導入している欧州の手法に準拠して計算しています。日本でも同様の健全性指標が2025年度に導入される予定です。

8.子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況(ソルベンシー・マージン比率)

(フコクしんらい生命保険株式会社)

(単位:百万円)

項 目	2022年度末	2023年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	97,656	100,770
資本金等	71,966	72,780
価格変動準備金	11,349	12,712
危険準備金	2,623	2,886
一般貸倒引当金	0	0
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%	5,156	5,432
土地の含み損益×85%	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	2,285	2,363
負債性資本調達手段等	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	4,274	4,594
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	18,271	20,214
保険リスク相当額 R_1	400	392
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	149	152
予定利率リスク相当額 R_2	324	332
最低保証リスク相当額 R_7	—	—
資産運用リスク相当額 R_3	17,569	19,467
経営管理リスク相当額 R_4	368	406
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,068.9%	997.0%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

9.セグメント情報

当社及び連結子会社は、生命保険事業以外に国内にて投資運用事業及び投資助言事業、システム開発事業、海外にて投資運用事業及び投資助言事業等を営んでいますが、当該事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、セグメント情報及び関連情報の記載を省略しています。

●連結財務諸表の適正性、及び連結財務諸表作成に係る内部監査の有効性の確認

当社代表者は、当社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第102期事業年度の連結財務諸表の適正性、及び連結財務諸表作成に係る内部監査の有効性を、以下のとおり確認しております。

確 認 書

2024年7月2日

富国生命保険相互会社

代表取締役社長 米山好映

1. 当社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第102期事業年度の連結財務諸表に記載した内容が、「保険業法」等の関係諸法令に準拠し、すべての重要な点において適正に表示されていることを確認いたしました。
2. 当該確認を行うにあたり、連結財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認いたしました。
 - (1) 連結財務諸表の作成にあたって、その業務分担と責任部署が明確化されており、当該責任部署において適切な業務体制が構築されていること。
 - (2) 内部監査部門が、当該責任部署における業務の適切性・有効性を検証し、取締役会等へ報告を行う体制にあること。
 - (3) 重要な経営情報が取締役会等へ適切に付議・報告されていること。

以上